外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	1
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期 1年	1	2	2
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期 1年	1	2	3
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	4
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期 1年	1	2	5
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期 1年	1	2	6
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期 1年	1	2	7
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期 1年	1	2	8
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期 1年	1	2	9
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期 2年	2	2	10
	現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期 2年	2	2	11
	言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期 2年	2	2	12
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期 2年	2	2	13
	共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期 2年	2	2	14
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期 2年	2	2	15

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F　日高　京子　他	1学期 2年	2	2	16
	情報社会を読む INF200F　浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	17
	地域資源管理論 ENV200F　廣川　祐司	2学期 2年	2	2	18
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F　閉講	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習II GES102F　閉講	2学期 1年	1	2	
	教養演習ＡI GES201F　伊原木　大祐	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI GES201F　稲月　正	1学期 2年	2	2	19
	教養演習ＡI GES201F　神原　ゆうこ	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI GES201F　小林　道彦	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI GES201F　徳永　政夫	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI（防衛セミナー） GES201F　戸蒔　仁司	1学期 2年	2	2	20
	教養演習ＡI GES201F　日高　京子	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI（発達障がいセミナー） GES201F　伊野　憲治	1学期 2年	2	2	
	教養演習ＡI GES201F　石川　敬之	1学期 2年	2	2	21
	教養演習ＡII GES202F　伊原木　大祐	2学期 2年	2	2	

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＡII GES202F　稲月　正	2学期 2年	2	2	22
	教養演習ＡII GES202F　神原　ゆうこ	2学期 2年	2	2	
	教養演習ＡII GES202F　小林　道彦	2学期 2年	2	2	
	教養演習ＡII GES202F　徳永　政夫	2学期 2年	2	2	
	教養演習ＡII（防衛セミナー） GES202F　戸蒔　仁司	集中 2年	2	2	23
	教養演習ＡII GES202F　日高　京子	2学期 2年	2	2	
	教養演習ＡII（発達障がいセミナー） GES202F　伊野　憲治	2学期 2年	2	2	
	教養演習ＡII GES202F　石川　敬之	2学期 2年	2	2	24
	教養演習ＢI GES301F　伊原木　大祐	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢI GES301F　稲月　正	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢI GES301F　神原　ゆうこ	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢI GES301F　小林　道彦	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢI GES301F　徳永　政夫	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢI（防衛セミナー） GES301F　戸蒔　仁司	1学期 3年	3	2	25
	教養演習ＢI GES301F　日高　京子	1学期 3年	3	2	

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅠ（発達障がいセミナー） GES301F　伊野　憲治	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅠ GES301F　石川　敬之	1学期 3年	3	2	26
	教養演習ＢⅡ GES302F　伊原木　大祐	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F　稲月　正	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F　神原　ゆうこ	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F　小林　道彦	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F　徳永　政夫	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ（防衛セミナー） GES302F　戸蒔　仁司	集中 3年	3	2	27
	教養演習ＢⅡ GES302F　日高　京子	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー） GES302F　伊野　憲治	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F　石川　敬之	2学期 3年	3	2	28
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F　竹川 大介　他	1学期 1年	1	2	29
	動物のみかた ZOL001F　到津の森公園、文学部　竹川大介	2学期 1年	1	2	30
	地球の生いたち GOL001F　閉講	2学期 1年	1	2	
	自然史へのいざない BIO001F　日高　京子　他	2学期 1年	1	2	31

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期 1年	1	2	32
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期 1年	1	2	33
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期 1年	1	2	34
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期 1年	1	2	35
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期 1年	1	2	36
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期 1年	1	2	
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期 1年	1	2	37
	文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	1学期 1年	1	2	38
	言語とコミュニケーション LIN001F 休講	2学期 1年	1	2	
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期 1年	1	2	39
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	1学期 1年	1	2	40
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期 1年	1	2	41
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期 1年	1	2	42
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期 1年	1	2	43

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人権論 SOC004F　柳井　美枝	1学期 1年	1	2	44
	ジェンダー論 GEN001F　力武　由美	1学期 1年	1	2	45
	障がい学 SOW001F　伊野　憲治	1学期 1年	1	2	46
	共生の作法 LAW001F　高橋 衛　他	1学期 1年	1	2	47
	法律の読み方 LAW002F　小野 憲昭	2学期 1年	1	2	48
	社会調査 SOC003F　稲月 正	2学期 1年	1	2	49
	市民活動論 RDE001F　西田　心平	2学期 1年	1	2	50
	企業と社会 BUS001F　山下　剛	1学期 1年	1	2	51
	現代社会と倫理 PHR002F　伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	52
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正	1学期 1年	1	2	53
	都市と地域 RDE002F　奥山　恭英	2学期 1年	1	2	54
	現代の国際情勢 IRL003F　下野　寿子　他	1学期 1年	1	2	55
	開発と統治 IRL002F　三宅 博之　他	2学期 1年	1	2	56
	グローバル化する経済 ECN001F　田中　淳平　他	1学期 1年	1	2	57
	テロリズム論 PLS001F　戸蒔　仁司	1学期 1年	1	2	58

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期	1	2	1年	
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	1年	59
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	1年	60
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	1年	61
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	1年	62
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	1年	63
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	1年	64
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	1年	65
	ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	1年	66
	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期	1	2	1年	67
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	1年	68
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	1年	69
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	1年	70
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1年	71
	人文地理学 GEO110F 外枦保 大介	2学期	1	2	1年	72

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期 1年	1	2	73
	地誌学 GEO112F 外枦保 大介	2学期 1年	1	2	74
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	1学期 1年	1	2	75
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期 1年	1	2	76
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期 1年	1	2	77
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期 1年	1	2	78
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期 1年	1	2	79
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期 1年	1	2	80
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期 1年	1	2	81
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期 1年	1	2	82
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期 1年	1	2	83
	フィジカル・エクササイズI（ソフトボール） HSS081F 黒田 次郎	1学期 1年	1	1	84
	フィジカル・エクササイズI（バレーボール） HSS081F 倉﨑 信子	1学期 1年	1	1	85
	フィジカル・エクササイズI（テニス） HSS081F 黒田 次郎	1学期 1年	1	1	86

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI（バレーボール） HSS081F 小幡 博基	1学期 1年	1	1	87
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 鯨 吉夫	1学期 1年	1	1	88
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 山本 浩二	1学期 1年	1	1	89
	フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ） HSS081F 休講	1学期 1年	1	1	
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 梨羽 茂	2学期 1年	1	1	90
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 黒田 次郎	2学期 1年	1	1	91
	フィジカル・エクササイズII（バスケットボール） HSS082F 黒田 次郎	2学期 1年	1	1	92
	フィジカル・エクササイズII（バレーボール） HSS082F 小幡 博基	2学期 1年	1	1	93
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 梨羽 茂	2学期 1年	1	1	94
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 美山 泰教	2学期 1年	1	1	95
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期 1年	1	1	96
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期 1年	1	2	97
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期 1年	1	2	98
	キャリア・デザイン CAR100F 見舘 好隆	1学期 1年	1	2	99
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期 1年	1	2	100

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期 1年	1	2	
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見舘 好隆	1学期 2年	2	2	101
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見舘 好隆	2学期 2年	2	2	102
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期 2年	2	2	103
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期 1年	1	2	104
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期 1年	1	2	105
	プロジェクト演習I CAR280F 後藤 宇生	1学期 2年	2	2	106
	プロジェクト演習II CAR281F 柳井 雅人	2学期 2年	2	2	107
	プロジェクト演習III CAR380F 後藤 宇生	1学期 3年	3	2	108
	プロジェクト演習IV CAR381F 柳井 雅人	2学期 3年	3	2	109
■教養特講	教養特講I（教養を磨く『新聞のちから』） SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正	2学期 1年	1	2	110
	教養特講II（現代社会と工シカル消費） SPL002F 大平 剛	2学期 1年	1	2	111
	教養特講III SPL003F 休講	1学期 1年	1	2	
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期 1年	1	2	
■情報教育科目	データ処理 INF101F 休講	1学期 1年	1	2	

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	2年	112
	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	1学期	3	2	3年	113
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I（中1-A） ENG101F 杉山 智子	1学期	1	1	中1 - A	114
	英語I（中1-B） ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	中1 - B	115
	英語II（中1-A） ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	中1 - A	116
	英語II（中1-B） ENG111F 杉山 智子	2学期	1	1	中1 - B	117
	英語III（中1-A） ENG102F アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	中1 - A	118
	英語III（中1-B） ENG102F ロバート･マーフィ	1学期	1	1	中1 - B	119
	英語IV（中1-A） ENG112F ダンカン・ウォトリィ	2学期	1	1	中1 - A	120
	英語IV（中1-B） ENG112F アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	中1 - B	121
	英語V（中2-A） ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	中2 - A	122
	英語V（中2-B） ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	中2 - B	123
	英語VI（中2-A） ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	中2 - A	124
	英語VI（中2-B） ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	中2 - B	125
	英語VII（中2-A） ENG202F クリスティン・マイスター	1学期	2	1	中2 - A	126

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII（中２-Ｂ） ENG202F ジェイムズ・ヒックス	1学期 中２ - Ｂ	2	1	127
	英語VIII（中２-Ａ） ENG212F シェーン・ドイル	2学期 中２ - Ａ	2	1	128
	英語VIII（中２-Ｂ） ENG212F デビット・ニール・マクレーラン	2学期 中２ - Ｂ	2	1	129
	英語IX（英中国比人３年） ENG301F 葛西　宏信	1学期 英中国比人３年	3	1	130
	英語X（英中国比人３年） ENG311F 葛西　宏信	2学期 英中国比人３年	3	1	131
	英語XI（英中国比人３年） ENG302F ダンカン・ウォトリィ	1学期 英中国比人３年	3	1	132
	英語XII（英中国比人３年） ENG312F デビット・ニール・マクレーラン	2学期 英中国比人３年	3	1	133
■第二外国語	朝鮮語I KRN101F 金　貞愛	1学期 英中１年	1	1	134
	朝鮮語II KRN111F 金　貞愛	2学期 英中１年	1	1	135
	朝鮮語III KRN102F 金　貞淑	1学期 英中１年	1	1	136
	朝鮮語IV KRN112F 金　貞淑	2学期 英中１年	1	1	137
	朝鮮語V KRN201F 金　貞愛	1学期 英中２年	2	1	138
	朝鮮語VI KRN211F 金　貞愛	2学期 英中２年	2	1	139
	朝鮮語VII KRN202F 金　貞淑	1学期 英中２年	2	1	140
	朝鮮語VIII KRN212F 金　貞淑	2学期 英中２年	2	1	141

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語I KRN301F　金　貞淑	1学期 英中国済営比人３年	3	1	142
	上級朝鮮語II KRN311F　金　貞淑	2学期 英中国済営比人３年	3	1	143
	上級朝鮮語III KRN302F　金　貞愛	1学期 英中国済営比人３年	3	1	144
	上級朝鮮語IV KRN312F　金　貞愛	2学期 英中国済営比人３年	3	1	145
	ロシア語I RUS101F　芳之内　雄二	1学期 英中国済営比人律政１年	1	1	146
	ロシア語II RUS111F　芳之内　雄二	2学期 英中国済営比人律政１年	1	1	147
	ロシア語III RUS102F　ナタリア・シェスタコーワ	1学期 英中国済営比人律政１年	1	1	148
	ロシア語IV RUS112F　ナタリア・シェスタコーワ	2学期 英中国済営比人律政１年	1	1	149
	ロシア語V RUS201F　芳之内　雄二	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	150
	ロシア語VI RUS211F　芳之内　雄二	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	151
	ロシア語VII RUS202F　ナタリア・シェスタコーワ	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	152
	ロシア語VIII RUS212F　ナタリア・シェスタコーワ	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	153
	ドイツ語I GRM101F　山下　哲雄	1学期 英中国１年	1	1	154
	ドイツ語II GRM111F　山下　哲雄	2学期 英中国１年	1	1	155
	ドイツ語III GRM102F　山下　哲雄	1学期 英中国１年	1	1	156

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語IV GRM112F　山下　哲雄	2学期 英中国１年	1	1	157
	ドイツ語V GRM201F　山下　哲雄	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	158
	ドイツ語VI GRM211F　山下　哲雄	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	159
	ドイツ語VII GRM202F　山下　哲雄	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	160
	ドイツ語VIII GRM212F　山下　哲雄	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	161
	フランス語I FRN101F　山下　広一	1学期 英中国１年	1	1	162
	フランス語II FRN111F　山下　広一	2学期 英中国１年	1	1	163
	フランス語III FRN102F　坂田　由紀	1学期 英中国１年	1	1	164
	フランス語IV FRN112F　坂田　由紀	2学期 英中国１年	1	1	165
	フランス語V FRN201F　坂田　由紀	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	166
	フランス語VI FRN211F　坂田　由紀	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	167
	フランス語VII FRN202F　小野　菜都美	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	168
	フランス語VIII FRN212F　小野　菜都美	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	169
	スペイン語I SPN101F　岡住　正秀	1学期 中国済営人律政１年	1	1	170
	スペイン語II SPN111F　岡住　正秀	2学期 中国済営人律政１年	1	1	171

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語III SPN102F　辻　博子	1学期	1	1	中国済営人律政１年	172
	スペイン語IV SPN112F　辻　博子	2学期	1	1	中国済営人律政１年	173
	スペイン語V SPN201F　青木　文夫	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	174
	スペイン語VI SPN211F　青木　文夫	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	175
	スペイン語VII SPN202F　辻　博子	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	176
	スペイン語VIII SPN212F　辻　博子	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	177
■留学生特別科目	日本語I JSL101F　清水　順子	1学期	1	1	留学生１年	178
	日本語II JSL102F　則松　智子	1学期	1	1	留学生１年	179
	日本語III JSL103F　徐　暁輝	1学期	1	1	留学生１年	180
	日本語IV JSL111F　清水　順子	2学期	1	1	留学生１年	181
	日本語V JSL112F　則松　智子	2学期	1	1	留学生１年	182
	日本語VI JSL113F　吉嶺　加奈子	2学期	1	1	留学生１年	183
	日本語VII JSL104F　小林　浩明	1学期	2	1	留学生２年	184
	日本語VIII JSL114F　清水　順子	2学期	2	1	留学生２年	185
	日本事情（人文）A JPS101F　清水　順子	1学期	1	2	留学生１年	186

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情（人文）B JPS102F 則松　智子	2学期	1	2	留学生１年	187
	日本事情（社会）A JPS103F 則松　智子	1学期	1	2	留学生１年	188
	日本事情（社会）B JPS104F 小林　浩明	2学期	1	2	留学生１年	189
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級総合I CHN100M 平田・李	1学期	1	4	1 - 1	190
	中国語初級総合I CHN100M 西・李	1学期	1	4	1 - 2	191
	中国語初級総合I CHN100M 胡・宋(宥)	1学期	1	4	1 - 3	192
	中国語初級総合II CHN110M 平田・李	2学期	1	4	1 - 1	193
	中国語初級総合II CHN110M 一木・李	2学期	1	4	1 - 2	194
	中国語初級総合II CHN110M 王(晨)・宋(宥)	2学期	1	4	1 - 3	195
	中国語初級会話I CHN120M 葉 言材	1学期	1	1	1 - 1	196
	中国語初級会話I CHN120M 葉 言材	1学期	1	1	1 - 2	197
	中国語初級会話I CHN120M 葉 言材	1学期	1	1	1 - 3	198
	中国語初級会話II CHN121M 葉 言材	2学期	1	1	1 - 1	199
	中国語初級会話II CHN121M 葉 言材	2学期	1	1	1 - 2	200
	中国語初級会話II CHN121M 葉 言材	2学期	1	1	1 - 3	201

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級総合I CHN200M　武井　満幹	1学期	2	1	2 - 1	202
	中国語中級総合I CHN200M　武井　満幹	1学期	2	1	2 - 2	203
	中国語中級総合I CHN200M　武井　満幹	1学期	2	1	2 - 3	204
	中国語中級総合II CHN210M　武井　満幹	2学期	2	1	2 - 1	205
	中国語中級総合II CHN210M　武井　満幹	2学期	2	1	2 - 2	206
	中国語中級総合II CHN210M　武井　満幹	2学期	2	1	2 - 3	207
	中国作品講読I LIT251M　鳥谷　まゆみ	1学期	2	2	2 - 1	208
	中国作品講読I LIT251M　鳥谷　まゆみ	1学期	2	2	2 - 2	209
	中国作品講読I LIT251M　鳥谷　まゆみ	1学期	2	2	2 - 3	210
	中国作品講読II LIT252M　鳥谷　まゆみ	2学期	2	2	2 - 1	211
	中国作品講読II LIT252M　鳥谷　まゆみ	2学期	2	2	2 - 2	212
	中国作品講読II LIT252M　鳥谷　まゆみ	2学期	2	2	2 - 3	213
	中国語中級会話AI CHN220M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 1	214
	中国語中級会話AI CHN220M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 2	215
	中国語中級会話AI CHN220M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 3	216

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級会話AII CHN221M　張　景珊	2学期 2 - 1	2	1	217
	中国語中級会話AII CHN221M　張　景珊	2学期 2 - 2	2	1	218
	中国語中級会話AII CHN221M　張　景珊	2学期 2 - 3	2	1	219
	中国語中級会話ＢI CHN222M　王　暁芳	1学期 2 - 1	2	1	220
	中国語中級会話ＢI CHN222M　王　暁芳	1学期 2 - 2	2	1	221
	中国語中級会話ＢI CHN222M　王　暁芳	1学期 2 - 3	2	1	222
	中国語中級会話ＢII CHN223M　王　暁芳	2学期 2 - 1	2	1	223
	中国語中級会話ＢII CHN223M　王　暁芳	2学期 2 - 2	2	1	224
	中国語中級会話ＢII CHN223M　王　暁芳	2学期 2 - 3	2	1	225
	中国語中級作文I CHN224M　陳　振華	1学期 2 - 1	2	2	226
	中国語中級作文I CHN224M　陳　振華	1学期 2 - 2	2	2	227
	中国語中級作文I CHN224M　陳　振華	1学期 2 - 3	2	2	228
	中国語中級作文II CHN225M　陳　振華	2学期 2 - 1	2	2	229
	中国語中級作文II CHN225M　陳　振華	2学期 2 - 2	2	2	230
	中国語中級作文II CHN225M　陳　振華	2学期 2 - 3	2	2	231

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級リスニングI CHN226M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 1	232
	中国語中級リスニングI CHN226M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 2	233
	中国語中級リスニングI CHN226M　張　景珊	1学期	2	1	2 - 3	234
	中国語中級リスニングII CHN227M　張　景珊	2学期	2	1	2 - 1	235
	中国語中級リスニングII CHN227M　張　景珊	2学期	2	1	2 - 2	236
	中国語中級リスニングII CHN227M　張　景珊	2学期	2	1	2 - 3	237
	中国語上級総合I CHN300M　西　香織	1学期	3	1	3年	238
	中国語上級総合I CHN300M　一木　達彦	1学期	3	1	3年	239
	中国語上級総合II CHN310M　西　香織	2学期	3	1	3年	240
	中国語上級総合II CHN310M　一木　達彦	2学期	3	1	3年	241
	中国語上級会話AI CHN320M　胡　玉華	1学期	3	1	3 - A	242
	中国語上級会話AI CHN320M　胡　玉華	1学期	3	1	3 - B	243
	中国語上級会話AII CHN321M　ホウ　ラメイ（彭腊梅）	2学期	3	1	3 - A	244
	中国語上級会話AII CHN321M　ホウ　ラメイ（彭腊梅）	2学期	3	1	3 - B	245
	中国語上級会話BI CHN322M　馬　叢慧	1学期	3	1	3 - A	246

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語上級会話ＢⅠ CHN322M　馬　叢慧	1学期 3 - B	3	1	247
	中国語上級会話ＢⅡ CHN323M　馬　叢慧	2学期 3 - A	3	1	248
	中国語上級会話ＢⅡ CHN323M　馬　叢慧	2学期 3 - B	3	1	249
	中国語上級作文Ⅰ CHN324M　篠原　征子	1学期 3 - A	3	2	250
	中国語上級作文Ⅰ CHN324M　篠原　征子	1学期 3 - B	3	2	251
	中国語上級作文Ⅱ CHN325M　篠原　征子	2学期 3 - A	3	2	252
	中国語上級作文Ⅱ CHN325M　篠原　征子	2学期 3 - B	3	2	253
	中国語上級リスニングⅠ CHN326M　王　雲燕	1学期 3 - A	3	1	254
	中国語上級リスニングⅠ CHN326M　王　雲燕	1学期 3 - B	3	1	255
	中国語上級リスニングⅡ CHN327M　王　雲燕	2学期 3 - A	3	1	256
	中国語上級リスニングⅡ CHN327M　王　雲燕	2学期 3 - B	3	1	257
■演習科目	研究演習Ａ SEM311M　鳥谷　まゆみ	1学期 3年	3	2	258
	研究演習Ａ SEM311M　武井　満幹	1学期 3年	3	2	259
	研究演習Ａ SEM311M　平田　直子	1学期 3年	3	2	260
	研究演習Ａ SEM311M　白石　麻保	1学期 3年	3	2	261

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習A SEM311M 西　香織	1学期 3年	3	2	262
	研究演習A SEM311M 堀地　明	1学期 3年	3	2	263
	研究演習A SEM311M 山本 進	1学期 3年	3	2	264
	研究演習A SEM311M 葉 言材	1学期 3年	3	2	265
	研究演習B SEM312M 鳥谷　まゆみ	2学期 3年	3	2	266
	研究演習B SEM312M 武井　満幹	2学期 3年	3	2	267
	研究演習B SEM312M 平田　直子	2学期 3年	3	2	268
	研究演習B SEM312M 白石　麻保	2学期 3年	3	2	269
	研究演習B SEM312M 西　香織	2学期 3年	3	2	270
	研究演習B SEM312M 堀地　明	2学期 3年	3	2	271
	研究演習B SEM312M 山本 進	2学期 3年	3	2	272
	研究演習B SEM312M 葉 言材	2学期 3年	3	2	273
	卒業研究演習A SEM411M 鳥谷　まゆみ	1学期 4年	4	2	274
	卒業研究演習A SEM411M 武井　満幹	1学期 4年	4	2	275
	卒業研究演習A SEM411M 平田　直子	1学期 4年	4	2	276

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習Ａ SEM411M　白石　麻保	1学期 4年	4	2	277
	卒業研究演習Ａ SEM411M　西　香織	1学期 4年	4	2	278
	卒業研究演習Ａ SEM411M　堀地　明	1学期 4年	4	2	279
	卒業研究演習Ａ SEM411M　山本 進	1学期 4年	4	2	280
	卒業研究演習Ａ SEM411M　葉 言材	1学期 4年	4	2	281
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　鳥谷　まゆみ	2学期 4年	4	2	282
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　武井　満幹	2学期 4年	4	2	283
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　平田　直子	2学期 4年	4	2	284
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　白石　麻保	2学期 4年	4	2	285
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　西　香織	2学期 4年	4	2	286
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　堀地　明	2学期 4年	4	2	287
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　山本 進	2学期 4年	4	2	288
	卒業研究演習Ｂ SEM412M　葉 言材	2学期 4年	4	2	289
■基礎教育科目	中国研究概論 ARE111M　下野　寿子	1学期 1年	1	2	290
	中国近現代史Ⅰ HIS120M　堀地　明	1学期 1年	1	2	291

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■必修科目 ■基礎教育科目	中国近現代史II HIS121M 堀地 明	2学期 1年	1	2	292
	中国文学概論I LIT150M 与小田 隆一	1学期 1年	1	2	293
	中国文学概論II LIT151M 与小田 隆一	2学期 1年	1	2	294
	中国文化論 ARE110M 板谷 秀子	1学期 1年	1	2	295
■選択科目 ■専門科目	中国語学概論I LIN210M 一木 達彦	1学期 2年	2	2	296
	中国語学概論II LIN211M 一木 達彦	2学期 2年	2	2	297
	中国語音声学I LIN212M 平田 直子	1学期 2年	2	2	298
	中国語音声学II LIN213M 平田 直子	2学期 2年	2	2	299
	現代中国の政治 ARE211M 下野 寿子	1学期 2年	2	2	300
	現代中国の外交 ARE212M 下野 寿子	2学期 2年	2	2	301
	中国の社会 ARE210M 植松 慎悟	2学期 2年	2	2	302
	日中比較文化論 ARE263M 板谷 秀子	2学期 2年	2	2	303
	中国社会経済史I HIS220M 山本 進	1学期 2年	2	2	304
	中国社会経済史II HIS221M 山本 進	2学期 2年	2	2	305
	中国経済論I ECN253M 白石 麻保	1学期 2年	2	2	306

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国経済論II ECN254M 白石　麻保	2学期 2年	2	2	307
	漢文学 LIT250M 楢崎　洋一郎	1学期 2年	2	2	308
	比較中国思想 ARE310M 鄧　紅	2学期 3年	3	2	309
	時事中国語講読I ARE311M 白石　麻保	1学期 3年	3	2	310
	時事中国語講読II ARE312M 白石　麻保	2学期 3年	3	2	311
	中国語現代文献講読I ARE313M 堀地　明	1学期 3年	3	2	312
	中国語現代文献講読II ARE314M 堀地　明	2学期 3年	3	2	313
	中国歴史社会研究I HIS320M 山本 進	1学期 3年	3	2	314
	中国歴史社会研究II HIS321M 山本 進	2学期 3年	3	2	315
	ビジネス中国語I CHN362M 唐　雋	1学期 3年	3	2	316
	ビジネス中国語I CHN362M 休講	1学期 3 - B	3	2	
	ビジネス中国語II CHN363M 唐　雋	2学期 3年	3	2	317
	ビジネス中国語II CHN363M 休講	2学期 3 - B	3	2	
	東アジア経済論 ECN352M 柳　学洙	2学期 3年	3	2	318
■関連科目	東南アジア研究概論 ARE113M 篠崎　香織	2学期 2年	2	2	319

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	英米文化概論I ARE130M 久木 尚志	1学期 2年	2	2	320
	英米文化概論II ARE226M 中野・北	2学期 2年	2	2	321
	東アジア地域秩序論I ARE315M 金 鳳珍	1学期 3年	3	2	322
	東アジア地域秩序論II ARE316M 金 鳳珍	2学期 3年	3	2	323
	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期 3年	3	2	324
	国際経済論II ECN241M 閉講	2学期 3年	3	2	
	国際貿易論I ECN345M 休講	1学期 3年	3	2	
	国際貿易論II ECN346M 休講	2学期 3年	3	2	
	アメリカ経済 ECN351M 山崎 好裕	2学期 3年	3	2	325
	東南アジアの社会と歴史 ARE215M 篠崎 香織	1学期 3年	3	2	326
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎 香織	2学期 3年	3	2	327
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	328
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	1学期 1年	1	2	329
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	330
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	331

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育課程論 EDU360M　児玉 弥生	2学期 3年	3	2	332
	中国語科教育法Ａ EDU254C　休講	1学期 3年	3	2	
	中国語科教育法Ｂ EDU255C　休講	2学期 3年	3	2	
	中国語科教育法Ｃ EDU256C　胡　玉華	1学期 3年	3	2	333
	中国語科教育法Ｄ EDU257C　休講	2学期 3年	3	2	
	道徳教育指導論 EDU262M　田中　友佳子	2学期 2年	2	2	334
	特別活動論 EDU263M　楠 凡之	2学期 2年	2	2	335
	教育方法学 EDU260M　下地　貴樹	2学期 2年	2	2	336
	生徒・進路指導論 EDU261M　楠 凡之	2学期 2年	2	2	337
	教育相談 EDU264M　楠 凡之	1学期 2年	2	2	338
	教育実習１ EDU380C　休講	2学期 3年	3	2	
	教育実習２ EDU480C　休講	1学期 4年	4	2	
	教育実習３ EDU481C　休講	1学期 4年	4	2	
	教職実践演習（中・高） EDU490C　休講	2学期 4年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M　山下　智也	2学期 2年	2	2	339

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導 PSY223M　税田　慶昭	2学期	2	2	340
		2年			
	教育社会学 EDU225M　作田　誠一郎	集中	2	2	341
		2年			
	人権教育論 EDU228M　河嶋　静代	1学期	2	2	342
		2年			
	生涯学習学 EDU220M　恒吉　紀寿	1学期	2	2	343
		2年			
	教育工学 EDU265M　休講	2学期	2	2	
		2年			

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期 1年	1	2	344
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期 1年	1	2	345
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期 1年	1	2	346
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	347
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期 1年	1	2	348
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期 1年	1	2	349
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期 1年	1	2	350
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期 1年	1	2	351
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期 1年	1	2	352
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期 1年	1	2	
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期 1年	1	2	353
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期 1年	1	2	
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期 1年	1	2	354
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期 1年	1	2	

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期 1年	1	2	355
	人権論 SOC004F 閉講	1学期 1年	1	2	
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	障がい学 SOW001F 休講	1学期 1年	1	2	
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期 1年	1	2	356
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期 1年	1	2	357
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期 1年	1	2	358
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期 1年	1	2	
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期 1年	1	2	359
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期 1年	1	2	360
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期 1年	1	2	
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期 1年	1	2	361
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期 1年	1	2	
	歴史の読み方I HIS004F 休講	1学期 1年	1	2	
	歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期 1年	1	2	

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 休講	2学期 1年	1	2	
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講	2学期 1年	1	2	
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島　俊介	1学期 1年	1	2	362
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本　浩二	1学期 1年	1	2	363
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル･エクササイズI（バドミントン） HSS081F 閉講	1学期 1年	1	1	
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 山本　浩二	2学期 1年	1	1	364
■情報教育科目	データ処理 INF101F 佐藤　貴之	1学期 1年	1	2	365
	情報表現 INF230F 浅羽　修丈	1学期 2年	2	2	366
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際貿易論I ECN345M 閉講	1学期 3年	3	2	
	国際貿易論II ECN346M 閉講	2学期 3年	3	2	
	アメリカ経済 ECN351M 閉講	 3年	3	2	
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠　凡之	1学期 1年	1	2	367

外国語学部　中国学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理 EDU110M　児玉 弥生	1学期 1年	1	2	368
	発達心理学 PSY222M　税田　慶昭	1学期 2年	2	2	369
	教育制度論 EDU227M　児玉 弥生	1学期 3年	3	2	370
	教育課程論 EDU360M　児玉 弥生	2学期 3年	3	2	371
	中国語科教育法Ａ EDU254C　休講	1学期 3年	3	2	
	中国語科教育法Ｂ EDU255C　休講	2学期 3年	3	2	
	中国語科教育法Ｃ EDU256C　休講	1学期 3年	3	2	
	中国語科教育法Ｄ EDU257C　胡　玉華	1学期 3年	3	2	372
	道徳教育指導論 EDU262M　田中　友佳子	2学期 2年	2	2	373
	特別活動論 EDU263M　楠 凡之	2学期 2年	2	2	374
	教育方法学 EDU260M　下地　貴樹	2学期 2年	2	2	375
	生徒・進路指導論 EDU261M　楠 凡之	2学期 2年	2	2	376
	教育相談 EDU264M　楠 凡之	1学期 2年	2	2	377
	教育実習１ EDU380C　児玉 弥生　他	2学期 3年	3	2	378
	教育実習２ EDU480C　恒吉 紀寿　他	1学期 4年	4	2	379

外国語学部 中国学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	380
	教職実践演習（中・高）	2学期	4	2	381
	EDU490C 楠 凡之 他	4年			
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期 2年	2	2	382
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育社会学 EDU225M 休講	1学期 2年	2	2	
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期 2年	2	2	
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期 2年	2	2	
	教育工学 EDU265M 大塚 一徳	2学期 2年	2	2	383

歴史と政治 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
第３回　明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
第４回　日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
第５回　立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
第６回　日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
第７回　憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
第８回　大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21ヵ条要求】
第９回　政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
第10回　二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
第11回　軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
第12回　2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
第13回　日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
第14回　太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…10%　期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード　/Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要　/Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではぐくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書　/Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
○奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
○田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
○波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部　文化の基礎としての家族
第2回　伝統的家族の多様性
第3回　近代以降の家族・親族関係の変容
第4回　親族という認識
第5回　親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回　ジェンダーと伝統文化
第7回　文化相対主義の考え方
第8回　伝統文化について：構築主義と本質主義
第9回　中間テスト

第II部　文化と世界観
第10回　儀礼と世界観
第11回　宗教と近代化
第12回　さまざまな信仰心
第13回　不幸への対処としての呪術
第14回　政教分離と世俗化
第15回　中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題など 40%、 期末テスト 60%　を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
・講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード　/Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ことばの不思議
第2回 ことばの要素
第3回 ことばの習得
第4回 普遍文法と個別文法
第5回 ことばの単位(1)：音韻
第6回 連濁
第7回 鼻濁音
第8回 ことばの単位(2)：語
第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
第11回 ことばの単位(3)：文
第12回 動詞の自他
第13回 日本語と英語の受動態
第14回 数量詞
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度…10%　課題…30%　期末試験…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門 【昼】

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法―哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	近代とは何か【概説】
２回	近代の勃興【ガリレイと科学革命】
３回	生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
４回	生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
５回	生活世界の変容（１）【工場労働】
６回	生活世界の変容（２）【近代産業社会】
７回	確認テスト
８回	生活世界の変容（３）【戦争の美学】
９回	生活世界の変容（４）【政治の美学】
１０回	生活世界の変容（５）【ホロコースト】
１１回	生活世界の変容（６）【全体主義と思考能力】
１２回	生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１３回	古代世界の公共空間（１）【古代文明と戦争】
１４回	古代世界の公共空間（２）【アテナイ民主政】
１５回	古代世界の公共空間（３）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第７回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障(1)
　　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障(2)
　　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障(3)
　　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

併せて特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード　/Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高・中尾）
２回　自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）　【物質の単位】【自然科学】
３回　自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）　【元素】【原子】【超新星爆発】
４回　自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）　【DNA】【タンパク質】
５回　生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）　【種】【学名】【系統樹】
６回　生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）　【細胞膜】【共生説】
７回　生物の多様性（３）生態系と進化（日高）　【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回　遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）　【突然変異】【遺伝学】
９回　遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）　【有性生殖】【減数分裂】
１０回　遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）
１１回　科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）　【血液型】【星座】
１２回　科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）　【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回　科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）【ミトコンドリア】
１４回　関連ビデオ鑑賞（日高）
１５回　質疑応答とまとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また，この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は，国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち，「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて，これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウェア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に随時提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分，復習60分）。その他，ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

可能性としての歴史 【昼】

担当者名 /Instructor: 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次　単位 /Credits: 2単位　学期 /Semester: 2学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

可能性としての歴史	HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
3回　政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
4回　軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
5回　日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
6回　ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
7回　日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
8回　ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
9回　ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
10回　日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
11回　日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
12回　太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
13回　太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
14回　敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み…10%、期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書 (「日本史」「世界史」) レベルの文献の該当箇所に目を通しておいて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史 【昼】

キーワード　/Keywords

現代社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
○太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
○陳天璽 2005『無国籍』新潮社
○本多俊和ほか 2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会
○塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：授業の説明　/ 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部　現代社会において異文化を理解するということ
第2回　文化を「知る」とはどういうことか？
第3回　ナショナリズムと文化
第4回　「未開の人々」への工キゾチズム
第5回　植民地主義と文化
第6回　先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
第7回　多文化主義の可能性と限界
第8回　分類の不明瞭さ①：国籍・人種
第9回　分類の不明瞭さ②：移動する人々
第10回　中間テスト

第II部　文化の違いを超えて？
第11回　近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回　身体の近代化
第13回　医療の持つ権力と文化
第14回　中間テストの解説
第15回　癒しの多様性　　/　講義全体の総括

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題40%、期末テスト60%
そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
・Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
・講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとすることが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知 【昼】

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝　幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 長　加奈子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次　2年次	単位　2単位	学期　2学期	授業形態　講義	クラス　2年
/Year	/Credits	/Semester	/Class Format	/Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語と認知	LIN210F

授業の概要　/Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

第1回　序（漆原・ 全員）
第2回　眼はどのように動いているか、それをどう測定するか（中溝）
第3回　文を読むとき、眼はどのように動いているのか（中溝）
第4回　言語活動時、脳のどこが働いているか（中溝）
第5回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
第6回　ことばはどのように失われるのか（失語症・ 失文法）（漆原）
第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
第8回　ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
第9回　特別講義（外部講師）：2016年度実績　東京大学教授　大堀　壽夫氏
第10回　文の形と意味をつなぐもの（文法形式と意味の類像性）（杉山）
第11回　左右の区別がなかったら（ことばと思考・ 言語相対論）（杉山）
第12回　概念と言葉（概念におけるプロトタイプ効果など）（ストラック）
第13回　隠喩とは何か（隠喩論）（ストラック）
第14回　詩とほのめかし（アイコン性、phonaesthemesなど）（ストラック）
第15回 まとめ：担当者によるパネル・ ディスカッション（全員）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　20%　レポート　16% x 5 = 80%
（すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。）

言語と認知 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		

共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
第8回：自閉症とは【自閉症】
第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

共生社会論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共同体と身体	PHR210F

授業の概要　/Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　日本的身体の哲学
３回　日本的身体のイメージ
４回　近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
５回　古代ギリシャの身体観１【プラトン】
６回　古代ギリシャの身体観２【概観】
７回　キリスト的共同体の身体
８回　身体としての共同体１【表現主義】
９回　身体としての共同体２
１０回　身体・家族・社会１【精神分析的アプローチ】
１１回　身体・家族・社会２【脳科学的アプローチ】
１２回　身体・家族・社会３【シュレーバー症例】
１３回　身体の社会的統制１【政治と規律】
１４回　身体の社会的統制２【統制される身体】
１５回　身体の社会的統制３【処罰される身体】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業で扱われる内容は、１年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

心身二元論　身体像　精神病理　規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

戦争論	PLS210F

授業の概要　/Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
第３回　ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
第４回　戦争概論～戦争の定義
第５回　戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
第６回　戦争の経歴(2)革命戦争
第７回　戦争の経歴(3)近代戦争
第８回　両大戦の特徴(1)総力化
第９回　両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
第10回　日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
第11回　核兵器の構造
第12回　核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
第13回　核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
第14回　核兵器の役割（抑止概念、抑止条件、相互確証破壊）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

戦争論 【昼】

キーワード　/Keywords

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命科学と社会	BIO200F

授業の概要　/Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、（１）生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、（２）DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、（３）食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、（４）遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　生命科学の基礎（１）遺伝子の概念　【DNA二重らせん】
３回　生命科学の基礎（２）生命活動の実行役　【タンパク質】
４回　生命科学の基礎（３）ゲノム　【ヒトゲノム計画】
５回　DNAでわかること（１）遺伝と疾患　【メンデル遺伝】
６回　DNAでわかること（２）個性と体質　【遺伝子検査】
７回　DNAでわかること（３）DNA鑑定　【多型】
８回　安心・安全とは（１）食品と医薬品　【健康食品】
９回　安心・安全とは（２）遺伝子組換え作物　【カルタヘナ法】
１０回　安心・安全とは（３）人体と放射線　【確率的影響】【がん】
１１回　生命の倫理（１）生命と遺伝子操作1　【再生医療】【iPS細胞】
１２回　生命の倫理（２）生命と遺伝子操作2　【ゲノム編集】
１３回　生命の倫理（３）生命科学と家族　【遺伝的つながり】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

＊タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）により提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード　/Keywords

情報社会を読む 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会を読む	INF200F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

●情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
●最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
●未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
●未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　身の回りにあるICTと情報社会　【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
２回　位置情報を利用したサービス　【ジオメディア】【GPS】
３回　演習１：位置情報を利用した未来のサービスを読む
４回　コンピュータは持ち歩くから着る時代へ　【ウェアラブルコンピュータ】
５回　近未来の入力装置　【モーション操作】
６回　演習２：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
７回　画像認識の仕組み　【画像処理】【ドット】【解像度】
８回　顔画像認識の応用と危険性　【マーケティング】【個人情報】
９回　画像認識技術はどこまで人間に近づけるか【形状認識】【機械学習】
１０回　演習３：画像認識を利用した未来のサービスを読む
１１回　IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
１２回　演習４：IoTを利用した未来のサービスを読む
１３回　自律型ロボットと人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
１４回　人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】【法整備】
１５回　演習５：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・　５０％、授業中に実施するグループワーク課題・・・　４０％、レポート・・・　１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。
事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイディアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地域資源管理論	ENV200F

授業の概要　/Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
②地域資源を有効に活用する手法　- フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約　ー滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟についてー

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著（２００６）『コモンズ論再考』晃洋書房
角谷 嘉則著（２００９）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
神谷由紀子編著（２０１４）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　地域資源の考え方
第3回　行き過ぎた市場主義経済の弊害
第4回　生業とは何か？
第5回　適応した共助の仕組み
第6回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み①　- 日本の伝統的な茅資源の利用方法についてー
第7回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み②　- 株式会社制度を利用した現代的地域資源の共同管理システムー
第8回　地域資源の過少利用問題を超えて
第9回　地域資源を活用したまちづくりの実践　- フットパスとは何か？ -
第10回　外部講師の講演　「フットパスはどうやって創るのか？」
第11回　フットパスのまとめ
第12回　地域資源としての都市環境　- 景観問題の観点から -
第13回　都市の特徴と管理組織
第14回　総括と復習
第15回　おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：２０％
最終試験：８０％（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　稲月　正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	演習	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

AI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）文献レビューの方法（レジュメの作り方）
（５）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、￥1080
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、￥2700
その他、適宜、紹介する。

教養演習AI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を集める２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）1
第９回　文献レビュー（テキスト批評）2
第10回　文献レビュー（テキスト批評）3
第11回　文献レビュー（テキスト批評）4
第12回　文献レビュー（テキスト批評）5
第13回　文献レビュー（テキスト批評）6
第14回　文献レビュー（テキスト批評）7
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　レポート…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＡＩ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。
この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習AI（防衛セミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＡＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

AII（２学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会１
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会２
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　　レポート（論文）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習ＡII（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＡⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ（教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ）を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間（8月中下旬～9月上旬）に、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習AII（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (１００％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＡⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢＩ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次　3年次 /Year　単位　2単位 /Credits　学期　1学期 /Semester　授業形態　演習 /Class Format　クラス　３年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習ＢＩ(防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＢＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＢⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ（教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ）を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間（8月中下旬～9月上旬）に、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然学のまなざし	ENV002F

授業の概要　/Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を２つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

■竹川
第１講　自然学で学ぶこと
第２講　今西錦司という人がいた
第３講　バックミンスターフラーという人がいた
第４講　人類の進化と狩猟採集生活
第５講　自然学における日常実践
第６講　カボチャ島の自然学【食と資源】
第７講　風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
第８講　自然学の視点の重要性
■岩松
第９講　近世の旅と自然
第１０講　山村暮らしと故郷
第１１講　山と森の自然観
第１２講　竹の産業史
第１３講　竹の文化
第１４講　木の文化
第１５講　第９ー１４講のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

（竹川）
講義で紹介するさまざまな活動に参加する　・・・15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える　・・・15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く　・・・20%
（岩松）
小レポート…25%　試験…25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意　/Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード　/Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor　到津の森公園、文学部　竹川大介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		

動物のみかた	Z0L001F

授業の概要　/Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書　/Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編　小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　動物園学概論１（動物園の歴史）
２回　動物園学概論２（人と公園の歴史）
３回　キーパーの仕事１（動物の飼育と歴史）
４回　キーパーの仕事２（動物園のみかた）
５回　キーパーの仕事３（動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割）
６回　キーパーの仕事４（どうぶつと人間のくらい）
７回　キーパーの仕事５（動物園とデザイン）
８回　キーパーの仕事６（動物園の植栽）
９回・１０回　校外実習（到津の森公園）
１１回　獣医の仕事１（どうぶつの病気）
１２回　獣医の仕事２（どうぶつたちとくらそう）
１３回　動物園学まとめ１（動物園を振り返る）
１４回　動物園学まとめ２（新しい動物園とは）
１５回　まとめ（外部講師講演）

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート … ８０％　　平常の学習状況 … ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意　/Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

＿　＿

動物園の園長･獣医･飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード　/Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない 【昼】

担当者名 /Instructor
日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科（19～）
柳川　勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科（19～）, 野井　英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然史へのいざない	BIO001F

授業の概要　/Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員、および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義です。北九州市は化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市であり、古くより交通の要衝として栄えてきた都市でもあります。北九州の自然と歴史の魅力、それを展示している博物館を、まず皆さんに知ってもらうことがこの講義の大きな目的です。講義では、地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史に関する基礎的な知識を身につけながら、各学芸員や教員による調査・研究を通して、それぞれの分野の最先端の話を聞いていただきます。北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学んでもらいたいと思います。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通りです（【　】内はキーワード、（　）内は担当者)。

１回　ガイダンス（日高・柳川）
博物館1日目
２回　石の声が聞こえる（森）　【岩石】【鉱物】【大地のダイナミクス】
３回　生命の起源を探る（柳川）　【微生物】【極限環境】【地球外生命体】
４回　館内見学（1回目）
５回　アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【古生態学】【異常巻アンモナイト】
６回　昆虫の多様性と進化（養島）　【新種発見】【完全変態】【甲虫】
博物館2日目
７回　魚類分類学と多様性（日比野）【ホロタイプ】【分類学の歴史】
８回　両生類の多様性と保全（江頭）【絶滅危惧】【ホットスポット】
９回　館内見学（2回目）
１０回　フィールドの地学と歴史を楽しむ（野井）【地学と歴史のかかわり】【ジオパーク】
１１回　人新世におけるヒトと植物の関係（河野）【科学史】【地球環境】【植物】【人新世】
博物館3日目
１２回　哺乳類に関するトピック（未定）
１３回　北九州の埋蔵文化財（宮元）　【考古学】【古墳時代】
１４回　北九州の歴史と文化（日比野）【近現代史】【地域の歴史意識】
１５回　まとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

・積極的な授業への参加（課題提出を含む）　100%

自然史へのいざない 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前に【　】内のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。10月2日に両キャンパスにて予備ガイダンスを予定しているので掲示物に注意すること。
・第2回〜第15回の授業は10月19日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
・博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor　秋貞　英雄 / Akisada　Hideo / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

くらしと化学	CHM001F

授業の概要　/Course Description

現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、生活を豊かにするため、身近な問題の科学・技術情報の理解のため、教養としての基礎的な化学知識を必要としています。化学の知識は、興味の赴くまま学んでも、根付きません。一方、系統的に学ぶことでその知識を根付かせることができますが、学習の意欲を育てるとは限りません。これらを両立させることが教育の課題です。高校の化学教育を基礎に、化学への興味の促進、身近な現象への理解力の向上がこの授業のねらいです。その学習を進めるために、身近な現象と学習事項の関連を講義の中で示します。

身近な物質や現象を通して、物質の構造（原子・分子・化学結合）、物質の状態すなわち物質三態（気・液・固、コロイド）や物性（酸塩基、酸化還元など）など、さらに一般化学物質(無機物、有機物）や生命に関わる生体物質(糖、脂質、タンパク質、核酸など）を、生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題との関連で解説します。

これらの学習で化学現象の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解することをねらいます。

教科書　/Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)
著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著
出版社：三共出版
定価2592円（本体2400円＋税8％）/ 2016年4月発行
ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳　(丸善) \2200円、 ISBN 978-4-621-04227-4
○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳　(新潮社)
○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著　(翔泳社)
「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善)￥2200+税　ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

くらしと化学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1, 2コマ：　１）身近な元素と周期律と化学結合
　1章 原子の成り立ちと周期律
　2章 化学結合と物質の結合

第3, 4コマ：　２）化学物質はどう造られるか。化学の言葉での表現
　　化学式、化学反応式の説明。
　11章　無機物質と無機化学　　補足：石灰岩（北九州市の資源）

第5, 6コマ：　３）物質の存在状態は身の回りの現象とどう関わるか。
　　気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
　3章 物質の三態と相平衡

第7, 8コマ：　４）酸や酸化などの現象と生活の関わり。 健康と酸塩基、電池
　5章　酸と塩基、6章　酸化と還元

第9, 10コマ：　５）有機物とは何、身の回りの有機物の特性と分類
　第7章　簡単な有機化合物
　第10章　生活の中の有機物質

第11, 12コマ：　６）生命と健康への生体物質の関わり
　第8章　生体を構成する物質
　第9章　生命を支える物質

第13コマ：　７）エネルギー源と原子力問題
　第13章　原子力エネルギーとクリーンエネルギー

第14コマ：　８）人間生活と地球環境問題
　第14章14 - 7節　放射能汚染
　第14章　大気と環境
　第15章　水と環境

第15コマ：　９）まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など）２０％、期末試験８０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調（しるし）することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問すると良い。

履修上の注意　/Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料（プリント）を必ず受け取る（翌週も配る）。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード　/Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、糖、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島　司 / 人間関係学科 松本　亜紀 / 人間関係学科

履修年次　1年次	単位　2単位	学期　1学期	授業形態　講義	クラス　1年
/Year	/Credits	/Semester	/Class Format	/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
第３回　自己の発見【自己意識、自己概念】
第４回　他者への気づき【アニマシー、バイオロジカルモーション】
第５回　他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
第６回　こころの科学１【心理学、統計】
第７回　こころの科学２【進化、行動主義】
第８回　こころと行動【本能、生得的プログラム】
第９回　こころと他者【愛着、葛藤】
第10回　まとめと小テスト
第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意　/Remarks

現代人のこころ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達的特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード　/Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子発現　【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【胚】
８回　細胞の社会（１）細胞の増殖　【細胞周期】【細胞死】
９回　細胞の社会（２）シグナル伝達　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・がん　【がん遺伝子】
１１回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【染色体】【テロメア】
１２回　体を守るしくみ（２）細菌とウイルス　【ウイルス】【細菌】
１３回　体を守るしくみ（３）免疫　【自然免疫】【抗体】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

環境都市としての北九州 【昼】

担当者名 /Instructor
日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科, 松永　裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程
村江　史年 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		

環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要　/Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト　999円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高）
２回　持続可能な社会をめざして〜ESD〜（法学部・三宅）
３回　北九州の自然と環境（日高・村江）
４回　北九州における環境政策（外部講師）
５回　環境問題と市民の関わり（外部講師）
６回　環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
７回　施設見学・エコタウン
８回　北九州の環境経済（経済学部・牛房）
９回　施設見学・環境ミュージアム
１０回　環境首都検定に向けて（外部講師）
１１回　小テスト（日高）
１２回　環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
１３回　環境問題と企業の取り組み（外部講師）
１４回　環境問題と学生の取り組み（421Lab・村江）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

環境首都検定の成績（４０％）、小テストおよび授業中の課題（６０％）

環境都市としての北九州 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。
・ エコタウン（バスツアー）は12月25日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
・ 環境ミュージアム見学は11月23日（土）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
・ 環境首都検定は12月15日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第１回目ガイダンス時に確認すること。
*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd

キーワード　/Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor
上江洲　一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科（19～）, 白石　靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科（19～）
永原　正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 松本　亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 金本　恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所
河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科（19～）

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		

未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要　/Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
第２回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
第３回：世界における風力発電
第４回：日本における風力発電（その１）
第５回：日本における風力発電（その２）
第６回：日本における風力発電（その３）
第７回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
第８回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
第９回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポートおよび小テスト70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード　/Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業

思想と現代 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に着けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
○合田正人『入門　ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　ユダヤ人の原点【概説】
３回　ユダヤ人の歴史（１）【民族の起源】
４回　ユダヤ人の歴史（２）【古代から中世へ】
５回　ユダヤ人の歴史（３）【中世から近代へ】
６回　ユダヤ人の歴史（４）【近代から現代へ】
７回　補足回【紛争と現代】
８回　精神分析の思想（１）【概説】
９回　精神分析の思想（２）【一神教の精神】
１０回　文学の思想【カフカ】
１１回　音楽の思想【シェーンベルク】
１２回　心理療法の思想【フランクル】
１３回　倫理の思想【ヨナス】
１４回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
１５回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…１００％
（不定期に実施されるMoodle上での課題内容をもとに評価する）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化と表象 【昼】

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		

文化と表象	MCC001F

授業の概要　/Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　【表象論事始め】　理論的背景
３回　【表象の歴史的追尾】イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
４回　イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
５回　イメージとしての〈日本〉③【演劇】
６回　イメージとしての〈日本〉④【映画】
７回　イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
８回　イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
９回　イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
１０回　イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
１１回　【特別講義】
１２回　【表象分析事始め】　映画を事例として①【活字から映像へ】
１３回　映画を事例として②【原作とテーマ設定】
１４回　映画を事例として③まとめ
１５回　全体総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (課題・コメントカードなど)　… 20%　　期末レポート　…　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

文化と表象 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

芸術と人間 【昼】

担当者名 /Instructor	真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

芸術と人間	PHR001F

授業の概要　/Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」　美術手帖編集部　美術出版社　2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ　アートダイバー　2014
「20世紀末・日本の美術――それぞれの作家の視点から」編著・中村ケンゴ　アートダイバー　2015

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ　ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司　　劇的想像力について
5. 中平卓馬　なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン　大地の改造計画
8. 青木野枝　鉄と生きる　鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ　人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　2回　　50%
レポート(学期末)　40%
日常の取組(出欠など)　10%

芸術と人間 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上）（下）』(早川書房、2010年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

民主主義とは何か 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず，社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では，理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で，どのような状況においてその決定の品質が保たれたり，そもそも政治的安定性を維持できるのか，様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は，理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また，民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ，我々は多様な人々の間において適切な集合的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書　/Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○マクファーソン，C.B.（田口訳 1978）『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
待鳥聡史（2015）『代議制民主主義–「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
○坂井豊貴（2015）『多数決を疑う–社会的選択理論とは何か』岩波新書
シュンペーター，J（大野訳 2016）『資本主義，社会主義，民主主義』日経BP
○ダール，R.（高畠・前田訳）『ポリアーキー』岩波文庫
○杉田敦（2001）『デモクラシーの論じ方–論争の政治』筑摩書房
○久保慶一，末近浩太，高橋百合子（2016）『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．イントロダクション
2．基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3．近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4．民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5．実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6．デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7．民主制の多様性とその生存・品質１：制度【議会制】【大統領制】
8．民主制の多様性とその生存・品質２：選挙【SMD】【PR】
9．民主制の多様性とその生存・品質３：運用【ｳｴｽﾄﾐﾝｽﾀｰ型】【ｺﾝｾﾝｻｽ型】
10．民主制の多様性のその生存・品質４：社会【ｺﾝｿｼｴｰｼｮﾅﾙﾃﾞﾓｸﾗｼｰ】【民族問題】
11．公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12．民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13．権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14．権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15．民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また，各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので，それらについては事前予習してくること。

履修上の注意　/Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また，本シラバスをご覧になった学生諸君は，本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それらがない人を想定して授業を行います）。ただし，高校卒業程度の英語・世界史，中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので，各自で能力を維持してください。

キーワード　/Keywords

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

社会学的思考	SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。
そのために、以下の２点について講義する。
（１）社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
（２）現代の社会問題を社会学的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　はじめに
第２回　社会学的な考え方とは
第３回　社会的な要因による説明とは
第４回　個人と社会をつなぐ１ - デュルケム１【自殺論 - 集合意識と行為】
第５回　個人と社会をつなぐ２ - デュルケム２【自己本位的自殺】
第６回　個人と社会をつなぐ３ - デュルケム３【アノミー的自殺】
第７回　個人と社会をつなぐ４ - ウェーバー１【理解社会学】
第８回　個人と社会をつなぐ５ - ウェーバー２【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
第９回　機能主義とシンボリック相互作用論
第１０回　現代の社会学的解読１ - ファシズム１【社会的性格とファシズム】
第１１回　現代の社会学的解読２ - ファシズム２【デモクラシーと大衆社会】
第１２回　現代の社会学的解読３ - 社会的排除と貧困１【社会的排除と生活困窮の現状】
第１３回　現代の社会学的解読４ - 社会的排除と貧困２【生活困窮化のメカニズム】
第１４回　現代の社会学的解読５ - 社会的排除と貧困３【社会的な支援のあり方】
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題…１５％　　期末試験…８５％
（総合的に判断する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

社会学的思考 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード　/Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル

政治のなかの文化 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

政治のなかの文化	ANT001F

授業の概要　/Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになっても、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ヘンドリー・ジョイ2002『社会人類学入門』法政大学出版局
○織田竜也ほか（編）2009『経済からの脱出』春風社
○春日直樹（編）2008 『人類学で世界をみる』 ミネルヴァ書房
○ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
○本多俊和ほか編 2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

政治のなかの文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入/グローバル化の時代と文化
第2回　理念の土着化は可能か？
第3回　伝統社会のなかの政治の始まり
第4回　互酬と社会
第5回　伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
第6回　資本主義への対抗
第7回　異なる社会の価値観を図る
第8回　中間テスト
第9回　政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
第10回　政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
第11回　開発の現場における公共性と文化
第12回　地域通貨の可能性
第13回　市民参加の時代における実践の土着化
第14回　中間テストの解説
第15回　グローバルな連帯という想像力　/　講義全体の総括

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題など40%、期末テスト60%
※受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目へのリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
・Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替提出課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・人々はどうやって意思決定をしてきた（いる）か、どうやって経済活動をしてきた（いる）かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
・「異文化理解の基礎」または「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード　/Keywords

政治、公共性、文化、互酬、国家

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
1．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3．現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2　「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3　「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4　「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5　「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6　「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7　「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8　「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9　「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10　「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11　「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12　「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13　「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14　「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15　「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意　/Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意　/Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード　/Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉症スペクトラム障害を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉症スペクトラム障害とは①自閉症の特性【自閉症観の変遷】
第6回：自閉症スペクトラム障害とは②自閉症観の変遷【自閉症】
第7回：自閉症スペクトラム障害支援方法①構造化の意味【構造化】
第8回：自閉症スペクトラム障害支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
第12回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第13回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
第15回：質問日。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意　/Remarks

特になし。

障がい学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生の作法 【昼】

担当者名 /Instructor	髙橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科 中村 英樹 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科 水野 陽一 / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科 今泉 恵子 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）があることを知ることが重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　ガイダンス
第 2回　民主主義の限界と立憲主義
第 3回　政教分離と叙任権闘争
第 4回　変化する社会と行政
第 5回　国際社会と法ー国際行政の観点から
第 6回　刑罰とは何か
第 7回　刑事裁判とは何か
第 8回　契約とは何か
第 9回　担保とは何か
第10回　商取引における不正競争と法
第11回　民事訴訟とは何か
第12回　「働く＝労働」について考える
第13回　法と道徳について
第14回　家族とは何か
第15回　まとめ

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートによる（100%，ただし④に注意）。
① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを１つ選び，レポートを１本作成して提出すること。
② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは３０００字以上とする。
③ レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意　/Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくと、各回の理解がいっそう深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード　/Keywords

【現代社会】　【共生】　【作法】　【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス–法律を読むために
２回　憲法の役割と基本原則を知る①【最高法規】【個人の尊厳】【基本的人権】【国民主権】
３回　憲法の役割と基本原則を知る②【平和主義】【権力分立】【違憲法令審査制】【個人と国家】
４回　民法の役割と基本原則を知る①【私的自治】【所有権の絶対】【過失責任】【家族法の特質】
５回　民法の役割と基本原則を知る②【公共の福祉】【信義誠実の原則】【権利濫用】【取引の安全】
６回　刑法の役割と基本原則を知る①【罪刑法定主義】【犯罪の要件】【刑罰】
７回　刑法の役割と基本原則を知る②【刑事手続】【裁判員制度】【刑事責任と民事責任】
８回　法の特性と構造、機能を知る①【社会規範】【法規範の特性】【社会統制】【活動促進】
９回　法の特性と構造、機能を知る②【紛争解決】【行為規範】【裁判規範】【法源】
１０回　法の適用と解釈の仕方を知る　【裁判所】【裁判の役割】【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
１１回　判例の読み方を知る　【判例集】【判例の調べ方】【事実の概要】【判旨】【参照条文】
１２回　判例を読む①　【判例部分の抽出】【判例研究の意義】【判例研究の仕方】
１３回　判例を読む②　【判例評価の方法】【判例と学説】【特別受益】【生命保険金】
１４回　法律の視点から社会を読む　【相続】【親子関係】【婚姻】【離婚】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題…　４０　%　　定期試験…　６０　%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'19』信山社（１，０００円）をお勧めします。

法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会調査 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、￥2592
入門・社会調査法〔第3版〕: 2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、￥2700
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、￥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　はじめに
第２回　社会調査の種類と倫理
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング１【質問文を作る】
第６回　ワーディング２【選択肢を作る】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方と方法
第９回　実査とデータファイルの作成
第１０回　度数分布、代表値、分散と標準偏差
第１１回　検定の考え方
第１２回　平均値の差の検定
第１３回　変数間の関連１【クロス表】
第１４回　変数間の関連２【相関係数】
まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
第3回「株式会社」の仕組み①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第4回「株式会社」の仕組み②　【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
第5回社会における「大企業」の意味①　【大企業とは何か】【所有と支配】
第6回社会における「大企業」の意味②　【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
第7回社会における「大企業」の意味③　【官僚制】【科学的管理の展開】
第8回社会における「大企業」の意味④　【環境問題】【随伴的結果】
第9回社会における「大企業」の意味⑤　【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
第10回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第11回「家」としての日本企業②　日本企業特有の組織原理【階統制】【能力主義】【企業別組合】
第12回「家」としての日本企業③　日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第13回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第14回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 70%　　レポート・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【昼】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス　株式会社　大企業　家の論理　社会的器官

現代社会と倫理 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と倫理	PHR002F

授業の概要　/Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
○ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
○加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
○江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
○安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか―要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	イントロダクション
２回	20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
３回	現代における人命の価値（１）【生命の神聖説】
４回	現代における人命の価値（２）【積極的行為と消極的行為】
５回	現代における人命の価値（３）【最大幸福原理】
６回	現代における人命の価値（４）【不完全義務】
７回	現代における人命の価値（５）【自己意識】
８回	現代における差別の問題（１）【人種差別】
９回	現代における差別の問題（２）【差別反対論】
１０回	現代における差別の問題（３）【優生学】
１１回	現代における公平性の意義（１）【人口問題】
１２回	現代における公平性の意義（２）【貧困問題】
１３回	現代における公平性の意義（３）【公平主義】
１４回	現代における公平性の意義（４）【援助義務論】
１５回	予備回

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

現代社会と倫理 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第１回もしくは第２回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命　義務論　功利主義　貧困　公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

担当者名 /Instructor　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

現代社会と新聞ジャーナリズム	SOC001F

授業の概要　/Course Description

多様な情報メテ゛ィアが錯綜する現代における「新聞」について学び、情報を評価・識別する力（メディアリテラシー）を身につけることを目的としています。同時に、「新聞」を通して現代社会の諸側面について理解を深めることも目指します。

インターネットか普及した中で、情報や言論の発信・伝達役としての「新聞」の存在感は低下しているという指摘も聞かれます。しかし、社会に流布している情報の出所の多くは新聞です。また、ネットメディアが独自に発する情報は、断片的であったり、信頼性に欠けていたりすることも少なくありません。

新聞社は、24時間、洪水のように情報が飛び交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に、①社会の出来事を客観的に伝える、②その背景や問題点を深く掘り下げる、③社会が抱える課題の解決策を提供する、④権力者などの不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守ることに取り組んできました。この講義では、そうした新聞社が培ってきた長い経験と実績を基盤に、新聞社のデスクや第一線の記者などが取材や報道体験を話すことを通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法などについて考えます。なお、本講義は西日本新聞社の提供講座です。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回目から１４回目までは、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務めます。ただし、事件・事故の発生や講師の都合などにより順番・内容が変わることがあります。

【第１回】オリエンテーション / 電子メディアへの挑戦　（編集企画委員長 / 西日本新聞メディアラボ メディア事業担当部長）
【第２回】災害被災者に寄りそう　（社会部記者）
【第３回】地方の視線で政治と向き合う　（都市圏総局デスク）
【第４回】アジアと九州を読み解く　（国際部デスク）
【第５回】調査報道・キャンペーン報道　（西日本新聞メディアラボ デジタル報道部デスク）
【第６回】新聞デザインの展開 / ビジュアル発信を目指して　（デザイン部デスク）
【第７回】地域文化をみつめて / 文化部記者の仕事　（文化部デスク）
【第８回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは　（写真部記者）
【第９回】九州経済をどう見るか　（経済部デスク）
【第１０回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面　（こどもタイムズ編集長）
【第１１回】スポーツ報道の世界 / 運動記者は何を伝えるか　（運動部デスク）
【第１２回】新聞の作り方・読み方　（編集センターデスク）
【第１３回】暮らしの視点で社会見つめる　（生活特報部長）
【第１４回】北九州の現場から　（北九州本社編集部）
【第１５回】社会学者は新聞をどのように「使う」のか（稲月）

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート（３回提出が必要です）・・・ 100％
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわず、成績を不可（Ｄ）とします。
詳細は第1回目の講義で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞や雑誌などに目を通し、現代社会や地域が直面する課題やその解決の方法について考えてください。（必要な学習時間の目安は、90分以上。）

履修上の注意　/Remarks

「成績評価の方法」にも記したように、この授業では、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわず、成績を不可（Ｄ）とします。就職活動や実習などで欠席する予定がある者はよく考えて履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現代人に欠かせない能力て゛ある「メテ゛ィアリテラシー」（メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力）を身につけてください。

西日本新聞社の記者・デスクが、取材や報道の体験等をもとに、現代社会の諸問題、新聞の役割、新聞コンテンツの活用法等について解説する（西日本新聞社の提供講座）。

キーワード　/Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会、実務経験のある教員による授業

都市と地域 【昼】

担当者名 /Instructor　奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

都市と地域	RDE002F

授業の概要　/Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。
「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　共通　：クラス紹介および注意事項
２回　地域１　：地域の概念：『地域』とは何か？
３回　地域２　：地域学と地域科学
４回　地域３　：地域開発とは
５回　地域４　：地域間という視点
６回　地域５　：地域を分析する
７回　地域６　：地域事例（ＬＱによる分析）
８回　地域７　：地域最終クイズ
９回　都市１　：都市』はなぜ存在するか？
１０回　都市２　：都市の理論
１１回　都市３　：都市開発（再開発）
１２回　都市４　：都市の変遷・動態
１３回　都市５　：都市を分析する
１４回　都市６　：都市事例
１５回　都市７　：都市最終クイズ

成績評価の方法　/Assessment Method

クイズ（合計）…３０％　授業内貢献…２０％　最終クイズ（２回合計）…５０％

都市と地域 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やＴＶニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意　/Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の（Moodleによる）クイズへの回答、および２回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数（授業貢献を含む）が０点になります。

キーワード　/Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策

現代の国際情勢 【昼】

担当者名 /Instructor	下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金　鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科 大平　剛 / 国際関係学科, 白石　麻保 / 中国学科 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田　真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　下野　日中台関係：ボーダーエリア
第3回　下野　日中台関係：国家の枠組みと社会
第4回　ウェイン　The Role of Public Spaces in Cities
第5回　大平　変容するアジア情勢（１）中国とインドの台頭
第6回　大平　変容するアジア情勢（２）日本の防衛力強化
第7回　大平　変容するアジア情勢（３）開発協力における熾烈な争い
第8回　金　日本の「戦後」の終わり
第9回　金　日本の対外関係の諸問題
第10回　金　戦後の国体、永続敗戦
第11回　白石　中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
第12回　寺田　インターネットを巡る国際情勢
第13回　松田　日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
第14回　下野　台湾：歴史
第15回　下野　台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（7～14回）100%　※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

現代の国際情勢 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【昼】

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第６回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第７回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第８回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅
第９回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々 【こども食堂】 担当：原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論 【大学生】 担当：原田・三宅
第12回 グループワーク（アクティビティ作り）を通じたガバナンス概念の把握 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える 担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30% 小課題の提出…20 % 試験…50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治 【昼】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　フードバンク　貧困　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

グローバル化する経済 【昼】

担当者名 /Instructor	田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科, 前田　淳 / MAEDA JUN / 経済学科 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科 魏　芳 / FANG WEI / 経済学科, 高橋　秀直 / マネジメント研究科　専門職学位課程 鳥取部　真己 / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身についてる。
	コミュニケーション力		

グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要　/Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション–グローバル化とは何か
2回　自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
3回　地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
4回　企業の海外進出と立地（１）【直接投資】
5回　企業の海外進出と立地（２）【人件費】【為替レート】
6回　海外との取引の描写 【経常収支と資本移動について】
7回　先進国と途上国間の資本移動 【経済成長と資本移動について】
8回　企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
9回　企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
10回　グローバル化と人材(1)　【JIT】【海外生産】【熟練】
11回　グローバル化と人材(2)　【派遣・請負】【OJT】【Off-JT】
12回　国際労働移動（１）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】
13回　国際労働移動（２）【移民と財政】【移民の経済的同化】【日本における外国人労働の受け入れ】
14回　グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
15回　グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

グローバル化する経済 【昼】

履修上の注意　/Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

テロリズム論	PLS001F

授業の概要　/Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見･分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　テロリズムとは何か(1)
　　定義が困難な理由について
　　①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
　　②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
　　③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
３回　テロリズムとは何か(2)
　　テロリズムの定義
　　①911の特殊性と国土安全保障の考え方
　　②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
　　③テロリズムの定義
４回　テロリズムとは何か(3)
　　テロリズムの特徴　①テロの目的　　②テロの標的　　③テロの主体
　　テロと犯罪のグレーゾーンについて
５回　テロの歴史(1)
　　テロの起源、１９世紀のテロとアナキズム
６回　テロの歴史(2)
　　ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
７回　現代テロ(1)
　　国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
　　反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
　　補論（ハイジャックとは何か)
８回　現代テロ(2)
　　無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
　　劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG９、ダッカ事件とSAT）
９回　反近代・脱近代のテロ
　　オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
10回　無差別大量殺戮テロ(1)
　　「大量」殺戮テロの始まり
　　化学テロと生物テロ
　　化学兵器の特徴
11回　無差別大量殺戮テロ(2)
　　地下鉄サリン事件の概要
　　サリンについて
12回　無差別大量殺戮テロ(3)
　　地下鉄サリン事件の動機
13回　９１１米国同時多発テロ(1)
　　９１１の特異性
　　９１１の概要と計画性
14回　９１１米国同時多発テロ(2)
　　ビンラディンのプロファイル
　　アルカイダとテロ、米国の対応
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際社会と日本 【昼】

担当者名 /Instructor	中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

国際社会と日本	IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回 戦後日本外交の構図
3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
5回 独立国の条件1 【自主外交】【二大政党制】
6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
8回 経済大国外交の原型2 【沖縄復帰】
9回 自立的協調の模索1 【デタント】
10回 自立的協調の模索2 【石油危機】
11回 「国際国家」の使命と苦悩1 【日米同盟】
12回 「国際国家」の使命と苦悩2 【経済摩擦】
13回 冷戦後の外交1 【軍縮】【湾岸戦争】
14回 冷戦後の外交2 【テロとの戦い】
15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

国際社会と日本 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード　/Keywords

近現代　国際関係史　東アジア

韓国の社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

韓国の社会と文化	ARE010F

授業の概要　/Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書　/Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　グローバル化するK-POP
3　韓国について概観
4　韓国（人）にとって日本（人）とは？
5　日本（人）にとって韓国（人）とは？
6　現代韓国社会と文化の特徴I（外部講師）
7　韓国における日本大衆文化の受け入れ
8　日本における「韓流」史
9　韓国人の名字と名前①【名字について】
10　韓国人の名字と名前②【名前について】
11　韓国の歴史
12　現代韓国社会と文化の特徴II（外部講師）
13　日韓の食文化について考える
14　現代韓国を知るVTR視聴/解説
15　まとめ

＊上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（出席レポートや討論への参加）４０％
中間レポート20%
期末テスト40%

韓国の社会と文化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意　/Remarks

●初回の授業には必ず出席すること

・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。（チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻３回をもって１回の欠席とカウントする）
・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは０点とする

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

エスニシティと多文化社会	IRL001F

授業の概要　/Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ヨーロッパにおけるとエスニシティと多文化主義【国民国家】
2回　連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
3回　連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
4回　イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
5回　イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
6回　英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
7回　英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
8回　前半のまとめ
9回　東南アジアの多文化社会とエスニシティ
10回　「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
11回　「独立か否か」：インドネシア・アチェの事例
12回　文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
13回　「想像の共同体」の読み方
14回　共存のための区切り：マレーシアの民族概念
15回　後半のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史の読み方I 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。
１．この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
２．この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
３．この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：
この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『想像の共同体』（NTT出版）
○小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
○新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
○ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
○野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
○網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス①授業の進め方
２回　「東アジア」という視点
３回　日本の近代と国民国家の歴史観
４回　中国・韓国から見たアジアの近代
５回『ラスト・サムライ』の誤解
６回　新渡戸稲造の『武士道』
７回　武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
８回　『平家物語』を読む①二つの平家物語
９回　『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
１０回　県名を読む①国郡制と幕藩制
１１回　県名を読む②県名と県庁所在地
１２回　県名を読む③戊辰戦争を「見直す
１３回　「国語」とは何か
１４回　網野善彦と日本史の多様性
１５回　『もののけ姫』を読む–網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート・・・ 50%、筆記試験・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor　小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅱ	HIS005F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』(ミネルヴァ書房)。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
第３回　危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
第４回　雌伏の日々 - 佐倉にて -
第５回　洋行と近代陸軍の建設
第６回　陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
第７回　台湾経営 - 後藤新平の登場 -
第８回　政治との関わり - 第一次桂内閣
第９回　陸軍改革の模索 - 大山巌・山県有朋との対立・協調 -
第10回　日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
第11回　旅順攻防戦 - 明治国家の危機 -
第12回　児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
第13回　「憲法改革」の頓挫
第14回　歴史小説と政治史研究の間
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…20%期末試験…80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所に目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【昼】

担当者名 /Instructor: 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次　単位 /Credits: 2単位　学期 /Semester: 2学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、映像等を交えながら、世界と日本の状況を対比させ考えていく。その過程を通じて現代世界の特徴について学んでいく。対象となるのは、第2次世界大戦前から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション（伊野担当）。【オリエンテーション】
第２回：第2次世界大戦以前の世界（伊野担当）。【世界大戦前の世界】
第３回：第2次世界大戦以前の日本（小林担当）。【世界大戦以前の日本】
第４回：第2次世界大戦と世界（伊野担当）。【第2次世界大戦】【世界】
第５回：第2次世界大戦と日本（小林担当）。【第2次世界大戦】【日本】
第６回：1950～60年代の世界（伊野担当）。【1950～60年代】【世界】
第７回：1950～60年代の日本（小林担当）。【1950～60年代】【日本】
第８回：1970年代の世界（伊野担当）。【1970年代】【世界】
第９回：1970年代の日本（小林担当）。【1970年代】【日本】
第１０回：1980～90年代の世界（伊野担当）。【1980～90年代】【世界】
第１１回：1980～90年代の日本（小林担当）。【1980～90年代】【日本】
第１２回：現代の世界（伊野担当）。【現代】【世界】
第１３回：現代の日本（小林担当）。【現代】【日本】
第１４回：現代の世界再考（伊野担当）。【現代世界】【再考】
第１５回：まとめ。【まとめ】
第１５回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

そのとき世界は 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

戦後の日本経済 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		

戦後の日本経済	ECN002F

授業の概要　/Course Description

皆さんは、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界Ｎｏ１の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。
このことをふまえ本講義では、主に１９５０年代から６０年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　Ⅰ．現代社会の理想と現実
　　１．現代の若者の就職と結婚
第３回　２．キャリア形成を巡る理想と現実
第４回　Ⅱ．戦後文化の担い手
　　１．「団塊の世代」
第５回　２．戦後文化と家族モデル
第６回　Ⅲ．「高度経済成長」への道程
　　１．戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
第７回　２．「高度経済成長」と「人口ボーナス」
第８回　３．「高度経済成長」と人口移動
第９回　Ⅳ．戦後家族モデルの成立
　　１．「豊かさ」の象徴
第１０回　２．「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
第１１回　３．日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
第１２回　４．日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
第１３回　Ⅴ．「ロストジェネレーション」
　　１．「幸せモデル」の確立
第１４回　２．「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
第１５回　２．モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…８０％　日常での授業への取り組み…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード　/Keywords

日本経済史　戦後史　高度経済成長　団塊の世代

ものと人間の歴史 【昼】

担当者名 /Instructor	中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ものと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ものと人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ものと人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ものと人間の歴史	HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点をしぼり、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子カ】
第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
第6回 自動車発明の前提 1【職人文化】
第7回 自動車発明の前提 2【互換性の思想】
第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
第10回 自動車と道路【道路】
第11回 現代社会 - 「光の巨大」
第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
第13回 原子力政策と地域社会
第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

ものと人間の歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード　/Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【3・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回 ２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回 イギリスとＥＵの関係について
第10回 キャメロン首相と国民投票
第11回 なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回 トランプ候補が勝利した理由
第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回 総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

西欧における倫理思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は２年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は古代世界における思想の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、倫理的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　古代ギリシャの倫理（１）【悲劇の誕生】
３回　古代ギリシャの倫理（２）【悲劇の生成】
４回　古代ギリシャの倫理（３）【悲劇の実例】
５回　古代ギリシャの倫理（４）【道徳哲学の誕生】
６回　古代ギリシャの倫理（５）【道徳哲学の完成】
７回　古代ローマの倫理
８回　古代ユダヤ教の倫理（１）【宗教民族史】
９回　古代ユダヤ教の倫理（２）【信仰の継承】
１０回　ローマの中のユダヤ（１）【権力と隷属】
１１回　ローマの中のユダヤ（２）【愛と憎悪】
１２回　ローマの中のユダヤ（３）【新時代の萌芽】
１３回　古代キリスト教の倫理（１）【イエスの思想】
１４回　古代キリスト教の倫理（２）【原始キリスト教】
１５回　古代キリスト教の倫理（３）【教義の生成】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

日本史 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　康士 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本史	HIS110F

授業の概要　/Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？　それは単に過去の出来事を暗記するだけのことでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
　この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書　/Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？　―過去・史料・歴史家―
第２回：さまざまな「歴史」のとらえ方　―循環・進歩・システム―
第３回：ヒトはどこから来たのか？　―人類の拡散と日本列島―
第４回　狩猟採集経済と農耕経済　―気候変動と縄文・弥生人―
第５回：前方後円墳とヤマト王権　―初期国家の成立―
第６回：古代国家と天皇　―東アジアの律令国家―
第７回：日本の中世国家　―分権化する国家と社会―
第８回：越境するヒトとモノ　―銭貨・倭寇・鉄砲―
第９回：世界史のなかの「近世」　―東アジアにおける伝統社会の形成―
第10回：歴史人口学の世界
第11回：結婚と離縁　–歴史のなかの男と女–
第12回：貨幣からみる近世社会
第13回：日本の「近代」　–世界史における明治日本–
第14回：「日本人」と戦争
第15回：まとめ　–「歴史」を学ぶということ–

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意　/Remarks

日本史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

東洋史	HIS120F

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　秦（１）–戦国時代から中国統一へ–
3回　秦（２）–始皇帝の統一政策–
4回　前漢前期（１）–項羽と劉邦–
5回　前漢前期（２）–高祖と冒頓単于–
6回　前漢前期（３）–呂后–
7回　前漢中期（１）–武帝–
8回　前漢中期（２）–昭帝–
9回　前漢中期（３）–宣帝–
10回　前漢後期（１）–元帝–
11回　前漢後期（２）–成帝–
12回　前漢後期（３）–哀帝–
13回　新の王莽 –王莽は「簒奪者」か–
14回　後漢の光武帝と「漢委奴国王」
15回　まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。（60分）

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。（60分）

東洋史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくと、理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国　歴史　政治　社会　文化　皇帝支配

西洋史 【昼】

担当者名 /Instructor　曙谷　憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

西洋史	HIS130F

授業の概要　/Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　「１３世紀世界システム」とヨーロッパ　【パックス・モンゴリカ】
２回　ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界　【港市国家】
３回　イベリア諸国の形成　【レコンキスタ】
４回　「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
５回　新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
６回　ポルトガル海洋帝国の形成①　【香辛料】
７回　ポルトガル海洋帝国の形成②　【点と線の支配】
８回　スペインによる植民地帝国の形成①　【ポトシ】
９回　スペインによる植民地帝国の形成②　【モナルキーア・イスパニカ】
１０回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
１１回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
１２回　環大西洋世界の展開①　【第二次英仏百年戦争】
１３回　環大西洋世界の展開②　【環大西洋革命】
１４回　ヨーロッパ勢力とアジアの海　【近代世界システム】
１５回　まとめ　【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内に課す小レポート（５回）・・・２５％、期末試験・・・７５％
（小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください（とくに世界史）。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

特にありません。

西洋史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード　/Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　外杤保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人文地理学	GE0110F

授業の概要　/Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　人文地理学の基礎(1)　地理学の体系
第2回　人文地理学の基礎(2)　地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
第3回　人文地理学の基礎(3)　様々な距離、時間地理学、空間認識
第4回　社会・文化と地域(1)　言語と地域
第5回　社会・文化と地域(2)　町並み保存
第6回　経済発展と人口移動(1)　近世・近代日本の都市発展
第7回　経済発展と人口移動(2)　現代日本の都市発展
第8回　都市構造と都市システム(1)　世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
第9回　都市構造と都市システム(2)　都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
第10回　都市構造と都市システム(3)　都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
第11回　都市構造と都市システム(4)　都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
第12回　産業立地と集積(1)　チェーンストアの配送と立地
第13回　産業立地と集積(2)　産業集積、企業城下町
第14回　産業立地と集積(3)　コンテンツ産業の集積
第15回　産業立地と集積(4)　空間分業

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

人文地理学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　野井 英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

土地地理学	GE0111F

授業の概要　/Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅　付・地図の読み方入門 改訂」(大沼一雄著　東洋選書)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　地理学では何を学ぶか
2回　地図の役割と地図の能力　【地理的情報を整理する働き】
3回　地図の歴史　【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
4回　地図にはどのような種類があるか　【地図には様々な種類がある】
5回　地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
6回　地図記号と景観　【地図を読む楽しみ】
7回　山の地形を地形図から描く1　(講義・実習)【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
8回　山の地形を地形図から描く2　(実習)
9回　地図を利用して地表を計測する
10回　地形図を利用して景観を読みとる1 (実習)　【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
11回　地形図を利用して景観を読みとる2 (実習)　【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
12回　リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
13回　空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
14回　衛星データを利用して地表の環境を調べる
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　試験…70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor　外杤保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地誌学	GE0112F

授業の概要　/Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。
本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。
必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書　/Textbooks

松原　宏編　『先進国経済の地域構造』　東京大学出版会　2003年
平岡昭利編　『地図で読み解く日本の地域変貌』　海青社　2008年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　欧米地誌(1)　ヨーロッパ総論(1)：ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
第3回　欧米地誌(2)　ヨーロッパ総論(2)：ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
第4回　欧米地誌(3)　イギリス地誌
第5回　欧米地誌(4)　ドイツ地誌
第6回　欧米地誌(5)　スペイン・フランス地誌
第7回　欧米地誌(6)　イタリア・北欧地誌
第8回　欧米地誌(7)　ベネルクス・スイス地誌
第9回　欧米地誌(8)　アメリカ合衆国地誌
第10回　日本地誌(1)　近世城下町の変容：島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
第11回　日本地誌(2)　干拓地域の変容：山口県防府市、県庁所在地の変容：宮崎県宮崎市
第12回　日本地誌(3)　軍事都市の変容：広島県呉市、熊本県熊本市
第13回　日本地誌(4)　鉱業地域の変容：福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
第14回　日本地誌(5)　港湾都市の変容：山口県下関市
第15回　日本地誌(6)　工業都市の変容：福岡県北九州市

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

地誌学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本国憲法	LAW120F

授業の概要　/Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○駒村圭吾編『プレステップ憲法　第2版』（弘文堂、2018年）
○斎藤一久·堀口悟郎編『図録　日本国憲法』（弘文堂、2018年）
○芦部信喜『憲法　第6版』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法　第7版』（新世社、2018年）

授業計画· 内容　/Class schedules and Contents

第1回　憲法とは何か①–国家と憲法
第2回　憲法とは何か②–民主主義と立憲主義
第3回　平和主義①–平和主義と「正しい」戦争
第4回　平和主義②–日本国憲法の平和主義
第5回　表現の自由とその限界①–表現の自由の保障根拠
第6回　表現の自由とその限界②–規制の根拠と手段の妥当性
第7回　自己決定権とは何か①–憲法上の根拠と内容
第8回　自己決定権とは何か②–生命の自己決定？
第9回　自己決定権とは何か③–安楽死·尊厳死法制化の是非
第10回　議院内閣制①–国会と内閣の関係
第11回　議院内閣制②–国会の制度と運営
第12回　議院内閣制③–国会と選挙制度
第13回　憲法と死刑制度①–日本国憲法と死刑制度
第14回　憲法と死刑制度②–立法政策上の諸課題
第15回　全体まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法史　立憲主義　基本的人権　統治機構

メンタル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類】
第4回　メンタルヘルスに関する基礎知識（３）【よくある誤解】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第6回　ライフサイクルとメンタルヘルス（２）【大人】
第7回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第8回　精神と行動の異変（２）【精神疾患①】
第9回　精神と行動の異変（３）【精神疾患②】
第10回　自己分析
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスII	PSY002F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書　/Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　自己分析①【心理テスト】
第3回　自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
第4回　精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
第5回　精神病理の紹介②【人格障害】
第6回　自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
第7回　自己覚知②【ライフヒストリー】
第8回　自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
第9回　リフレッシュ【感動、感謝】
第10回　事例検討①【非行】
第11回　事例検討②【虐待】
第12回　事例検討③【ホームレス】
第13回　事例検討④【孤立、社会的排除】
第14回　事例検討⑤【障害】
第15回　受援力、援助力

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

メンタル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor　柴原　健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には，運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており，特に運動は，体力の向上のみならず，リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である．また，今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは，社会人になっても必要なことである．
この授業では，グループ内で協力しながら，目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする．他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う．さらに既存のルールにとらわれず，運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する．授業全体のキーワードは，笑顔とコミュニケーションである．

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　ソフトバレーボール（実習）
４回　ストレッチの理論（講義）
５回　ストレッチの実際、ゲーム（実習）
６回　ふとる・やせる、適度な運動とは（講義）【体脂肪】
７回　軽運動、エアロビクス･ダンス（実習）
８回　フェアプレイ、スポーツマンシップとは（講義）
９回　球技を楽しもう①（卓球、バドミントン・ショートテニス）（実習）【スポーツマンシップ】
１０回　球技を楽しもう②（卓球、バドミントン・ショートテニス）（実習）【スポーツマンシップ】
１１回　これからの運動①（心臓の予備力、体力の変化）（講義）
１２回　これからの運動②（体力の維持・向上、継続性）（講義）
１３回　レッツ・スポーツ（講義）【計画・企画】
１４回　レッツ・スポーツ（実習）【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み …７０％　レポート …３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので，講義内容の復習を行い，次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること．

フィジカル・ヘルスI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので，次回の予告を聞いて間違いがないようにする．体育館入口の黒板にも記載するので，確認すること．実習の場合は，運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor　柴原　健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には，運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており，特に運動は，体力の向上のみならず，リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である．また，今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは，社会人になっても必要なことである．
この授業では，グループ内で協力しながら，目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする．他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う．さらに既存のルールにとらわれず，運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する．授業全体のキーワードは，笑顔とコミュニケーションである．

教科書　/Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　ソフトバレーボール（実習）
４回　ストレッチの理論（講義）
５回　ストレッチの実際、ゲーム（実習）
６回　ふとる・やせる、適度な運動とは（講義）【体脂肪】
７回　軽運動、エアロビクス･ダンス（実習）
８回　フェアプレイ、スポーツマンシップとは（講義）
９回　球技を楽しもう①（卓球、バドミントン・ショートテニス）（実習）【スポーツマンシップ】
１０回　球技を楽しもう②（卓球、バドミントン・ショートテニス）（実習）【スポーツマンシップ】
１１回　これからの運動①（心臓の予備力、体力の変化）（講義）
１２回　これからの運動②（体力の維持・向上、継続性）（講義）
１３回　レッツ・スポーツ（講義）【計画・企画】
１４回　レッツ・スポーツ（実習）【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み …７０％　レポート …３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので，講義内容の復習を行い，次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること．

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので，次回の予告を聞いて間違いがないようにする．体育館入口の黒板にも記載するので，確認すること．実習の場合は，運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor: 日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡　栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次　単位 /Credits: 2単位　学期 /Semester: 1学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

自己管理論	HSS003F

授業の概要　/Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自立した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、今後の人生の指針となる考え方の習得を目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　社会人マナーについて
3回　北九州市での生活について
4回　犯罪防止について　～被害者や加害者にならないように～
5回　自転車の交通安全について
6回　薬物乱用防止について　～飲酒との向き合い方～
7回　消費者トラブルについて
8回　ブラックバイトについて
9回　大学生とお金について
10回　いざという時のための消防と救急について
11回　災害への備えについて
12回　ハラスメント防止とデートDVについて
13回　地域で生きることについて
14回　振り返り
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業への参加（ほぼ毎回実施する課題レポートを含む）　…　70%
まとめレポート　…　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。（必要な学習時間の目安は、60分。）授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、まとめておくこと。（必要な学習時間の目安は、60分。）振り返り内容は、レポートとして提出してもらうことがある。

自己管理論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

入学式で配布される資料や、北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照しておいてほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。
①　第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
②　遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
③　質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

＿　＿
関連する自治体職員などが、大学生活を送る上での自己管理に関して解説する。

キーワード　/Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor	黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	実技
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　キャッチボール (スローイング、キャッチング)
３回　ピッチング (ウインドミル)
４回　バッティング (トスバッティング)
５回　ゴロの捕球・フライの捕球
６回　守備練習
７回　フリーバッティング
８回　ベースランニング
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ゲーム (１)　内野の連係プレイ
１２回　ゲーム (２)　内外野の連係プレイ
１３回　ゲーム (３)　走者の進め方
１４回　ゲーム (４)　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　倉﨑　信子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）<アンダーサーブ>
３回　サーブ練習（２）<オーバーサーブ>
４回　パス練習（１）<アンダーパス>
５回　パス練習（２）<オーバーパス>
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）<サイド>
８回　アタック練習（２）<センター>
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　<サーブに留意して>
１２回　ゲーム（２）　<サーブカットに意識して>
１３回　ゲーム（３）　<アタックに留意して>
１４回　ゲーム（４）　<フォーメーションに留意して>
１５回　スキル獲得テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者名 /Instructor	黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	実技
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅠ	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　ストロークの基礎練習（球出しによるフォアハンド練習）
３回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのフォアハンド練習）
４回　ストロークの基礎練習（球出しによるバックハンド練習）
５回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのバックハンド練習）
６回　サービスの基礎練習
７回　ボレーの基礎練習
８回　スマッシュの基礎練習
９回　ルールの説明
１０回　戦術の説明・実践
１１回　シングルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１２回　シングルスゲーム（２）ゲームの実践
１３回　ダブルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１４回　ダブルスゲーム（２）ゲームの実践
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　小幡　博基 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）<アンダーサーブ>
３回　サーブ練習（２）<オーバーサーブ>
４回　パス練習（１）<アンダーパス>
５回　パス練習（２）<オーバーパス>
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）<サイド>
８回　アタック練習（２）<センター>
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　<サーブに留意して>
１２回　ゲーム（２）　<サーブカットに意識して>
１３回　ゲーム（３）　<アタックに留意して>
１４回　ゲーム（４）　<フォーメーションに留意して>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム (リーグ戦)
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　梨羽　茂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（２）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（３）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　集団行動〔走る（ラン）・跳ぶ（ジャンプ）・投げる（スロー）〕
３回　ボールに慣れる（ドリブル・パス・シュート）
４回　シュートの基礎練習（レイアップシュート・ジャンプシュート）
５回　応用練習（２対１）
６回　応用練習（３対２）
７回　ルール・戦術の説明
８回　簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
９回　スキルアップ（ドリブルシュート・リバウンド）
１０回　スキルアップ（速攻、スクリーンプレイ）
１１回　ゲーム（１）　ゾーンディフェンス（２－３）
１２回　ゲーム（２）　ゾーンディフェンス（２－１－２）
１３回　ゲーム（３）　マンツーマンディフェンス
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor　小幡　博基 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）<アンダーサーブ>
３回　サーブ練習（２）<オーバーサーブ>
４回　パス練習（１）<アンダーパス>
５回　パス練習（２）<オーバーパス>
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）<サイド>
８回　アタック練習（２）<センター>
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　<サーブに留意して>
１２回　ゲーム（２）　<サーブカットに意識して>
１３回　ゲーム（３）　<アタックに留意して>
１４回　ゲーム（４）　<フォーメーションに留意して>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor　梨羽　茂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (１)
３回　サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (２)
４回　サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (３)
５回　サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
６回　サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
８回　サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合 (１) パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合 (２) 戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合 (３) まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（３）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（４）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生活を実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。
外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

木曜３限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
3回　大学の「使い方」
4回　「理想」の大学生活・・なんてあるの？
5回　ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
6回　大学での勉強、どうする？
7回　健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
8回　自分の可能性を広げるために
9回　「自分」はだれか？
10回　かわいい子には「旅」をさせるべき？
11回　ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
12回　変わりつつある世界の中でどう生きるか
13回　ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
14回　ようこそ先輩
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

各回の授業内レポート50%　課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意　/Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年生だけでなく、２年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード　/Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞
我が国は少子高齢化に対峙し、生産年齢人口をカバーすることが急務となっています。その対策のため、未就業の状態にある人々の就業支援や、外国人労働者の受け入れに加え、近年注目されているのがRPA（Robotic Process Automation）です。RPAとは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉で、「デジタルレイバー（Digital Labor）」や「仮想知的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピューター上で再現しようとするAIや、AIが反復によって学ぶ「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の自動化を指します。つまり、従来の高度成長時代に基本を置く、一般的なコミュニケーション能力や主体性、チームワークなどの力の習得だけでなく、「AIやロボットには代替されない力」の習得が大学に課せられていると言えるでしょう。

では、その「AIやロボットには代替されない力」とは何でしょうか。それは創造力です。AIやロボットは指示されたことしかできないのだから。
では、創造力を大学時代にどう身に付ければいいのでしょうか。創造力とは解決すべき課題にぶち当たった時、その課題と過去の学びとの関連性を見出す力です。具体的には、課題を一人で取り組むことはほぼないので「多様な人々と協働する力」は欠かせません。また、「幅広い視野・柔軟性」がなければ、課題を解決してくれるかもしれない新しい知識を得ることはできないし、「失敗を恐れず挑戦する力」がなければ、課題を解決する上で必要な能力を高めることもできません。そして「経験を振り返る力」がなければ、経験からの学びを記憶することはできません。さらに答えのない課題を解決する経験に取り組み、その課題と過去の学びとの関連性を見出す経験を積んで、「答えのない課題を解決する力」を高めなくてはならないのです。

大学時代は人生で最も時間を自由に使える時代です。自らが自らを成長させる機会を創り出し、試行錯誤を繰り返して、これら5つの力を身に付ける時間はたくさんあるのです。以上を念頭に、創造性を発揮する土台作りを本授業で学んでください。

＜進め方と目標＞
まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしていてください。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール『ハイフライヤー　次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー　自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子『改訂版　アサーション・トレーニング –さわやかな〈自己表現〉のために』金子書房
○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
スプツニ子!『はみだす力』宝島社
アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) –人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン『ワーク・シフト–孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト) 』東洋経済新報社
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社
○中原淳、見舘好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　全体ガイダンス・社会で求められる力
２回　振り返りの仕方
３回　幅広い視野・柔軟性を身に付けるには (先輩登壇)
４回　コミュニケーション技法①傾聴
５回　コミュニケーション技法②アサーション
６回　コミュニケーション技法③打ち合わせ
７回　働くということ (社会人登壇)
８回　新しい仕事を創る (ジョブスタ)
９回　ケーススタディワーク (酒造メーカーの改革)
１０回　自分らしい就職活動をするには (卒業生・内定者登壇)
１１回　企業団体研究 (面白い企業団体を知る)
１２回　計画された偶発性 (幸運は準備とチャンスの交差点)
１３回　ロールモデルインタビュー (社会人を取材する)
１４回　ロールモデルインタビュー (先輩を取材する)
１５回　自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み (予習・復習・メンバーからの相互評価) ･･･78%
インタビューレポート･･･13%
最終レポート･･･9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

< 通常授業 > Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
< インタビューレポート > 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
< 最終レポート > 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意　/Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違って履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません (私の口マの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です) 。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できる

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

だけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか？」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

＿　＿

人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード　/Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

実務経験のある教員による授業

コミュニケーション実践 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要　/Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。
しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないでしょうか。
この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。
コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。
講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。

教科書　/Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス　　【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
2回　コミュニケーション上手になるために
　　【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
3回　聴くことの重要性
　　【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
4回　話す・伝えるテクニック
　　【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
5回　マナーおもてなしの心
　　【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
6回　美しい敬語をマスターする
　　【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
7回　障害をお持ちの方へのコミュニケーション
　　【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
8回　プレゼンテーションを磨く
　　【プレゼンテーションとは　、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法（PREP法）など】
9回　質問応対力（面接）
　　【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
10回　グループディスカッション①
　　【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
11回　グループディスカッション②
　　【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
12回　ディベート
　　【ディベートとは、目的、流れなど】
13回　授業の振り返り
　　【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
14回　発表
　　【1人プレゼンテーション】
15回　まとめ
　　【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%、授業の成果物…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ｉ	CAR210F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状　②仕事の現実　③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1.企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2.仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3.大学時代にすべきこと・してほしいこと
4.学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

＜進め方＞講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

＜目標＞様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～15回　各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

＜2018年度＞ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

＜2017年度＞サニーサイドアップ、ジンズ（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

＜2016年度＞電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

＜2015年度＞ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

＜2014年度＞ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンズ（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製薬所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習…91%　　最終レポート…9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意　/Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード　/Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究、実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅱ	CAR211F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

＜進め方＞以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1.企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2.提示された課題についての解決プランを作成します。
3.企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
　ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4.フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5.企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
　社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

＜目標＞現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。
また、以下書籍を参考にしてください。
○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
スプツニ子!『はみだす力』宝島社

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第01回　ガイダンスと課題解決のノウハウ（その１）
第02回　【団体A】課題の提示とチームビルディング
第03回　【団体B】課題の提示とチームビルディング
第04回　【団体C】課題の提示とチームビルディング
第05回　クリエイティブシンキングのノウハウ
第06回　相談日
第07回　【団体A】中間発表とフィードバック
第08回　【団体B】中間発表とフィードバック
第09回　【団体C】中間発表とフィードバック
第10回　課題解決のノウハウ（その２）※各班の発表を題材に
第11回　プレゼンテーションのノウハウ
第12回　相談日
第13回　【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
第14回　【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
第15回　【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考
＜2018年度の企業団体と課題＞
■NHK北九州放送局
毎日見たくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？
■株式会社タカギ
タカギの資産を利用した新提案
■株式会社スターフライヤー
新しい機内販売の提案

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）･･･56%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）･･･30%
最終レポート･･･14%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意　/Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3～5団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード　/Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ、実務経験のある教員による授業

地域の達人 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		

地域の達人	CAR212F

授業の概要　/Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 仕事以外で社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 雇われないで個人として仕事をしている方
・ 会社やお店を経営している方
このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

①どんな活動をしているのか
②活動のねらい、社会的意義、成果
③活動するときに乗り越えた壁
④人、組織をどう動かすのか
⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が拡がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～13回　地域の達人によるお話
第14回　達人を振り返る
第15回　まとめ

【これまでの登壇者】
海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2019年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード　/Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	地域で活動する上で求められる自己管理力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力		

サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要　/Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
・ 地域活動の実践と学び

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回目　ガイダンス　講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
第２回目　サービスラーニング概論①（サービスラーニングという概念と考え方）
第３回目　サービスラーニング概論②（サービスラーニングの理論と実践）
第４回目　地域活動概論①（地域活動の紹介）
第５回目　地域活動概論②（コミュニティワークの紹介と応用）
第６回目　地域活動参加学生とのワークショップ①
第７回目　地域活動参加学生とのワークショップ②
第８回目　サービスラーニング活動の紹介
第９回目　サービスラーニングに向けて①（マナー・ルール・手続き等について）
第１０回目　サービスラーニングに向けて②（サービスラーニングを通じた学びへの姿勢）
第１１回目　実践報告①
第１２回目　実践報告②
第１３回目　実践報告③
第１４回目　実践報告④
第１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート＋講義中の課題」（６０点）+「実践報告レポート」（４０点）＝合計１００点評価

サービスラーニング入門I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備も、そうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は、受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」（１５００字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II 【昼】

担当者名 /Instructor	石川　敬之 / 地域共生教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。

サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気付きを得られることを期待します。

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　サービス・ラーニング概論①（サービスラーニングの理論枠組み）
3　サービス・ラーニング概論②（実践としてのサービスラーニングについて）
4　サービス・ラーニングの実践と学び①（受入先の探索）
5　サービス・ラーニングの実践と学び②（実践にむけての心構えと準備）
6　サービス・ラーニングの実践に向けて①（実習先での学習計画の作成・提出）
7　サービス・ラーニングの実践に向けて②（学習計画書の修正・提出）
8　計画発表会①
9　計画発表会②
10　実践報告①
11　実践報告②
12　実践報告③
13　実践報告④
14　受講生による振り返り
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加貢献（50点）+ 活動報告書（50点）= 100点

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、１学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門Iの内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題＋「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。
また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅰ	CAR280F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意　/Remarks

※プロジェクト演習Iの履修対象者は、原則2年次です。
※プロジェクト演習IIIの履修対象者は、原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II 【昼】

担当者名 /Instructor	柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
履修年次 /Year	2年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅱ	CAR281F

授業の概要 /Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

プロジェクト演習II 【昼】

キーワード　/Keywords
課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　後藤　宇生 / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅲ	CAR380F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意　/Remarks

※プロジェクト演習Iの履修対象者は、原則2年次です。
※プロジェクト演習IIIの履修対象者は、原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習IV	CAR381F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法　/Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意　/Remarks

※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

プロジェクト演習IV 【昼】

キーワード　/Keywords
課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor　読売新聞西部本社､基盤教育センター 永末 康介、稲月正

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅰ	SPL001F

授業の概要　/Course Description

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す (伝える) 力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「流行語大賞や１０大ニュースを予測してみよう」など、新聞を活用した演習やクイズを実施します。文章添削も行う予定です。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。新聞を授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
(※気になる記事を選んで作る「まわし読み新聞」は毎回作成します。)
第２回　新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
第３回　新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
第４回　新聞のちから③文章の書き方 (基礎編)
第５回　新聞のちから④文章の書き方 (応用編)
第６回　新聞のちから⑤模擬取材体験
第７回　新聞のちから⑥取材結果をまとめる
第８回　新聞のちから⑦発表と講評
第９回　社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法　/Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します (100%)。
詳しくは１回目の授業で説明します。

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード　/Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II（現代社会とエシカル消費）【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅱ	SPL002F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（講義の目的、進め方、文献案内など）、「エシカル消費」とは何か？
第2回　【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』（DVD）前半の鑑賞
第3回　『ザ・トゥルー・コスト』（DVD）後半の鑑賞、論点整理
第４回　ファッション、綿花栽培に関してのディスカッション
第5回　【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』（DVD）の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第6回　『Food Inc.』（DVD）前半の鑑賞
第7回　『Food Inc.』（DVD）後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第8回　【プラスティック】ペットボトル、マイクロプラスティック、論点整理、ディスカッション
第9回　【鉱物資源】『スマホの真実』（DVD）の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第10回　【100円ショップ】『徹底解剖！100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第11回　【フェアトレード】『もっと！フェアトレード』（DVD）の鑑賞
第12回　フェアトレードの展開、役割、課題
第13回　グループ・ワーク
第14回　受講生によるプレゼンテーション1
第15回　受講生によるプレゼンテーション2、まとめ

教養特講II（現代社会とエシカル消費）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回のレポート（20%）、グループによるプレゼンテーション（80%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、エシカル消費を促進するためのアイデアについて、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フェアトレード、エシカル

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

●ソーシャルメディアの歴史
●ソーシャルメディアの現在
●ソーシャルメディアの未来
●メディア・リテラシー

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論・改訂版 - つながりを再設計する - 、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：情報メディアとは何か　【ガイダンス】【情報メディア】
２回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点　【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
３回目：ディスカッションのまとめ方１【ザ・マインドマップ】
４回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
５回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
６回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
７回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
８回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
９回目：ディスカッションのまとめ方2【ブレーンストーミング】【KJ法】
１０回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
１１回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
１２回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
１３回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
１４回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
１５回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する課題・・・ 40%、レポート・・・ 30%、授業への参加態度・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかり行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意　/Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、毎回のようにグループディスカッションを展開する予定である。ディスカッションには積極的に参加し、グループ活動に貢献してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、ザ・マインドマップ、ブレーンストーミング、KJ法

英語I (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込むことがあります。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500 Listening（松柏社）ISBN978-4-88918-749-0　1,300円
連続ミステリー：もうひとりの自分（朝日出版）　ISBN978-4-255-15445-9　1.700円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　はじめに　英語を学ぶということ
2回　聴解（単語と文法の力をつける①）　読解（単語と文法の力をつける①）
3回　聴解（単語と文法の力をつける②）　読解（単語と文法の力をつける②）
4回　聴解（単語と文法の力をつける③）　読解（単語と文法の力をつける③）
5回　聴解（単語と文法の力をつける④）　読解（表現に注目する①）
6回　聴解（英語の音に注目する①）　読解（表現に注目する②）
7回　聴解（英語の音に注目する②）　読解（表現に注目する③）
8回　聴解（英語の音に注目する③）　読解（文脈を考える①）
9回　聴解（英語の音に注目する④）　読解（文脈を考える②）
10回　聴解（多様な英語に注目する①）　読解(文脈を考える③)
11回　聴解（多様な英語に注目する②）　読解（言語外の知識を利用する①）
12回　聴解（文脈や話題の流れを捉える①)　読解（言語外の知識を利用する②）
13回　聴解（文脈や話題の流れを捉える②）　読解（言語外の知識を利用する③）
14回　聴解（「聞き取る」から「理解する」へ）　読解（訳読からテクスト理解へ）
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (中 1 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力 (リーディング力) と聴く力 (リスニング力) の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書　/Textbooks

Mathew Wilson 他著　「Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500　リスニング編」　松柏社　￥1404

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション＆基礎力確認テスト
第2回　Scene 1・2　/ 文と文型 1
第3回　Scene 3・4　/ 文と文型 2
第4回　Scene 5・6　/ 文と文型 3
第5回　Scene 7・8　/ 時制 1
第6回　Scene 9・10 / 時制 2
第7回　Scene 11・12/ 時制 3
第8回　中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
第9回　Scene 13・14 /　能動態と受動態
第10回　Scene 15・16 / 現在分詞と過去分詞
第11回　Scene 17・18 / 動名詞
第12回　Scene 19・20 / 不定詞
第13回　Scene 21・22 /　関係詞 1
第14回　Scene 23・24 / 関係詞 2
第15回　Scene 25・26 / 関係詞 3

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト２０％ + 中間テスト４０％　+ 期末テスト　４０％

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/ リーディング / リスニングの 3 本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習) にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

英語I (中 1 - B) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから 1 学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード　/Keywords

英語II (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力 (リーディング力) と聴く力 (リスニング力) の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書　/Textbooks

北尾泰幸 他著　「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 」 朝日出版社　￥1836

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション & 基礎力確認テスト
第2回　Unit 1　Eating Out　/ 文と文型 1
第3回　Unit 2　Travel　/ 文と文型 2
第4回　Unit 3　Amusement　/ 文と文型 3
第5回　Unit 4　Meetings　/ 時制 1
第6回　Unit 5　Personnel　/ 時制 2
第7回　Unit 6　Shopping / 時制 3
第8回　中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
第9回　Unit 7 Advertisement /　能動態と受動態
第10回　Unit 8 Daily Life　/ 現在分詞と過去分詞
第11回　Unit 9 Office Work　/ 動名詞
第12回　Unit 10 Business　/ 不定詞
第13回　Unit 11 Traffic　/　関係詞 1
第14回　Unit 12 Finance and Banking　/ 関係詞 2
第15回　Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト２０％ + 中間テスト４０％　+ 期末テスト ４０％

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/ リーディング / リスニングの 3 本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習) にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

英語II（中1-A）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード　/Keywords

英語II (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor	杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	1単位	2学期	講義	中１ - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力 (リーディング力) と聴く力 (リスニング力) の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込むことがあります。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

TOEIC5分間ドリル リスニング 2 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6256-1 1,000円
イギリス人特派員が見た日本 (金星堂) ISBN978-4-7647-4041-9 1,900円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (表現に注目する①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (文脈を考える①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (文脈を考える②)
10回	聴解 (多様な英語に注目する①)	読解(文脈を考える③)
11回	聴解 (多様な英語に注目する②)	読解 (言語外の知識を利用する①)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①)	読解 (言語外の知識を利用する②)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②)	読解 (言語外の知識を利用する③)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテクスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (中 1 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III（中1-A）【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2A Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-33-756257-7 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 1: Healthy Lives
Week 3: Speaking Skills: Applying
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 4: A Thirsty World
Week 9: Speaking Skills: Personalizing
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 5: Inside the Brain
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法　/Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

英語III（中１-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III（中１-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中１ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Active learning式の英語プレゼンクラスです。英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力とピアレビュー能力、更に作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Theme 1 -Introductions (Solo work)
第3回 Theme 1 -Building Skills (Group work)
第4回 Theme 1 -Essay Composition (Group work)
第5回 Presentations and Peer Assessment
第6回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
第7回 Theme 2 -Introduction
第8回 Theme 2 -Building Skills (Group work)
第9回 Theme 2 -Essay Composition (Group work)
第10回 Presentations and Peer Assessment
第11回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
第12回 About “Active Learning” (Solo work)
第13回 About “Active Learning” (Group work)
第14回 Presentations and Peer Assessment
第15回 Discussion and test preparations

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Active Learning式で学ぶプレゼン作りとプレゼン発表の授業ため、授業外（教室外）でのGroup work又は一人での下準備がほぼ毎回必要です。

履修上の注意　/Remarks

英語III（中1-B）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しいクラスです。自分の語りたいことを英語でもっと語れるようになります。Group workを行いながら、お互いにアイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになります。勿論、文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

English Presentations, Active Learning, Group Work, Peer Assessment, Solo Assessment

英語IV（中1-A）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書　/Textbooks

Smart Choice 3rd Ed 2B by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart.(B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

英語IV（中1-A）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード　/Keywords

英語IV（中1-B）【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中１－Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-33-756258-4 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 6: Let's Eat! – Food Culture
Week 3: Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 7: Our Active – Natural Disasters
Week 9: Speaking Skills: Using Transitions
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法　/Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

英語IV (中 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（中２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC（R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

①SCORE BOODSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE　「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」　番場直之他著　金星堂　￥2000(税別)
②TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ　TEX加藤 著　朝日新聞出版　￥890(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit 1　Travel
3回　Unit 2　Dining Out
4回　Unit 3　Media
5回　Unit 4　Entertainment
6回　Unit 5　Purshasing
7回　Unit 6　Clients
8回　Unit 7　Recruiting
9回　Unit 8　Personnel
10回　Unit 9　Advertising
11回　Unit 10　Meetings
12回　Unit 11　Finance
13回　Unit 12　Offices
14回　Unit 13　Daily Life
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語V（中２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・第1回の授業に必ず出席すること。
・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。
・受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（中２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書　/Textbooks

"SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST：INTERMEDIATE"
（著者）早川幸治他共著　金星堂　\2,052 ISBN978-4-7647-4090-7

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1　Travel、文法：
3回　Unit 2 Dining Out、文法：形容詞
4回　Unit 3　Media、文法：副詞
5回　Unit 4 Entertainment、文法：時制
6回　Unit 5 Purchasing、文法：主語と動詞の一致
7回　Unit 6 Clients、文法：能動態・受動態
8回　Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞、TOEIC練習問題
9回　Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞、TOEIC練習問題
10回　Unit 8 Personnel、文法：現在分詞・過去分詞
11回　Unit 9 Advertising、文法：代名詞
12回　Unit 10 Meeting、文法：比較
13回 Unit 11 Finance、文法：前置詞
14回　Unit 12 Offices、文法：接続詞
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。（学習時間の目安は、30分）

英語V（中２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（中２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書　/Textbooks

"BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-"
（著者）吉塚弘他共著　成美堂　￥2,376　ISBN9784791960309
単語等はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1 Restaurant 文法：人称代名詞、小テスト：Day 1
3回　Unit 2 Entertainment 文法：不定代名詞と再帰代名詞、小テスト：Day 2
4回　Unit 3 Business 文法：現在・過去の時制、小テスト：Day3
5回　Unit 4 Office 文法：現在完了、小テスト：Day 4
6回　Unit 5 Telephone 文法：時・期間を表す前置詞、小テスト：Day 5
7回　Unit 6 Letter & E-mail 文法：位置・場所を表す前置詞、小テスト：Day 6
8回　Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題、小テスト：Day 7
9回　Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題、小テスト：Day 8
10回　Unit 8 Bank & Post Office 文法：自動詞と他動詞、小テスト：Day 9
11回　Unit 9 New Products文法：形容詞を作る接尾辞、小テスト：Day10
12回　Unit 10 Travel①　文法：副詞を作る接尾辞、まとめ小テスト：Day1~10
13回　Unit 11 Travel②　文法：分詞構文
14回　Unit 12 Job Applications 文法：比較
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくること。また、配布したプリントを覚えてくること。（学習時間の目安は、60分）

英語VI（中２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI (中２-Ｂ) 【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC（R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

①PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TESTーRevised Editionー「TOEIC L&R TEST パーフェクト演習ー改　訂新版ー」　石井隆之 他著　成美堂　￥2200(税別)
②TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ　TEX加藤 著　朝日新聞出版　￥890(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit 1　Studying Abroad
3回　Unit 2　International Conference
4回　Unit 3　Holidays
5回　Unit 4　Leisure
6回　Unit 5　Restaurant
7回　Unit 6　Online Shopping
8回　Unit 7　Global Warming
9回　Unit 8　Web Sites
10回　Unit 9　Workplace
11回　Unit 10　Nursing Care
12回　Unit 11　Global Trading
13回　Unit 12　Eco-Friendly Economy
14回　Unit 13　Business Trips
15回　Unit 14　Hybrid Cars

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語VI（中２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・第1回の授業に必ず出席すること。
・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。
・受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII (中２-Ａ) 【昼】

担当者名 /Instructor　クリスティン・マイスター / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティングカ）と話す力（スピーキングカ）の更なる向上を目指します。

教科書　/Textbooks

World English 3A (KL Johannsen, M Milner and R Tarver Chase, Cengage. ¥2782)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

To Be Announced

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Lesson 1 Orientation and Self-Introduction
Lesson 2Unit 1 Lesson A-B
Lesson 3Unit 1 Lesson C and Unit 1 review
Lesson 4Unit 2 Lesson A-B
Lesson 5Unit 2 Lesson C and Unit 2 review
Lesson 6Unit 3 Lesson A-B
Lesson 7Unit 3 Lesson C and Written Quiz
Lesson 8Mid-term spoken test
Lesson 9Unit 4 Lesson A-B
Lesson 10 Unit 4 Lesson C and Unit 4 review
Lesson 11 Unit 5 Lesson A-B
Lesson 12 Unit 5 Lesson C and Unit 5 review
Lesson 13 Unit 6 Lesson A-B
Lesson 14 Unit 6 Lesson C
Lesson 15 Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Written and Spoken tests (50%), Homework (20%), Participation and Diligence (30%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

N/A

履修上の注意　/Remarks

別に初回授業時に説明いただく資料を学期の初めに配布いたします。ご協力お願いいたします。
We plan to distribute additional information regarding Kiban English classes at the start of the semester.

英語Ⅶ（中２-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語Ⅶ（中２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅶ	ENG202F

授業の概要　/Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書　/Textbooks

Pathways 3A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase & Lee, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56259-1

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Syllabus and Introductions
2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
4回 Elevator Pitch – My new app
5回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
6回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
7回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
8回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
9回 Colonizing Mars Presentation Preparation
10回 Colonizing Mars Presentations
11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

英語Ⅶ（中２-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語Ⅷ（中２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course is a speaking and listening course. Students will actively communicate with their peers in the classroom. Students will work in pairs and groups. Students will give individual and group presentations.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書　/Textbooks

The instructor will provide the material.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Cinema Etiquette 1
Week 3: Cinema Etiquette 2
Week 4: Listening test #1
Week 5: Alcohol
Week 6: Young, British , Sober 2
Week 7: Listening test #2
Week 8: Global Migration
Week 9: Going where the work is
Week 10: Listening test #3
Week 11: Technology & Shopping
Week 12: Showrooming
Week 13: Develop your own topic 1
Week 14: Develop your own topic 2
Week 15: Record your own topic for submission

成績評価の方法　/Assessment Method

Listening Quizzes 30%
Homework 25%
Recorded Topic 20%
Final Exam 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should review material before coming to class.

英語VIII（中２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語Ⅷ（中２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書　/Textbooks

Pathways 3B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：Orientation
第2回：Design 1
第3回：Design 2
第4回：Presentation 1
第5回：Environment 1
第6回：Environment 2
第7回：Presentation 2
第8回：Medicine & Health 1
第9回：Medicine & Health 2
第10回：Presentation 3
第11回：Anthropology 1
第12回：Anthropology 2
第13回：Presentation 4
第14回：Emotions & Personality 1
第15回：Emotions & Personality 2

成績評価の方法　/Assessment Method

Final grades will combine class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意　/Remarks

Check the Moodle site for this course

英語VIII（中２-Ｂ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let’s have fun learning English together

キーワード　/Keywords

Content-based language learning

英語IX (英中国比人３年) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IX	ENG301F

授業の概要　/Course Description

英語の読解力の向上だけではなく、教科書で扱われているトピックに対する理解を深めることを目標とする。毎回、教科書の中からUnitを二つ選び、それぞれの担当者に、内容をレポートしてもらいながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう。

教科書　/Textbooks

最新科学の知見　Science Updates　成美堂　978-4-7919-4783-6　2052円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　教科書のUnit 二つ分
３回　教科書のUnit 二つ分
４回　教科書のUnit 二つ分
５回　教科書のUnit 二つ分
６回　教科書のUnit 二つ分
７回　教科書のUnit 二つ分
８回　教科書のUnit 二つ分
９回　教科書のUnit 二つ分
１０回　教科書のUnit 二つ分
１１回　教科書のUnit 二つ分
１２回　教科書のUnit 二つ分
１３回　教科書のUnit 二つ分
１４回　プレゼンテーション
１５回　プレゼンテーション

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…15%　教科書の課題…30%　レポート…40%　プレゼンテーション…15%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意　/Remarks

英語IX (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語X (英中国比人３年) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語X	ENG311F

授業の概要　/Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけではなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書　/Textbooks

クリスタルのことばの世界　成美堂　978-4-7919-3096-8

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　プレゼンテーション
１５回　プレゼンテーション

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…15%　　教科書の課題…30%　レポート…40%　プレゼンテーション…15%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意　/Remarks

英語X（英中国比人３年）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XI（英中国比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸＩ	ENG302F

授業の概要　/Course Description

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書　/Textbooks

World Class 2A N. Douglas & J.R. Morgan ISBN 9781285419893

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit I Language and Life (A)
Week 3 Unit I Language and Life (B)
Week 4 Unit 2 Money Talks (A)
Week 5 Unit 2 Money Talks (B)
Week 6 Unit 3 Bright Lights, Big Cities (A)
Week 7 Unit 3 Bright Lights, Big Cities (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 You've got Personality (A)
Week 10 Unit 4 You've got Personality (B)
Week 11 Unit 5 Mystery Solved (A)
Week 12 Unit 5 Mystery Solved (B)
Week 13 Unit 6 New Horizons (A)
Week 14 Unit 5 New Horizons (B)
Week 15 Review

英語XI（英中国比人３年）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード　/Keywords

英語XII（英中国比人３年）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国比人３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸⅡ	ENG312F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Active learning式の英語プレゼンクラスです。英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力とピアレビュー能力、更に作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Love-Introductions
第3回 Love-Building Skills (Group work)
第4回 Love-Essay Composition (Group work)
第5回 Presentations and Peer Assessment
第6回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
第7回 Justice-Introduction
第8回 Justice-Building Skills (Group work)
第9回 Justice-Essay Composition (Group work)
第10回 Presentations and Peer Assessment
第11回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
第12回 About "Active Learning"-Introduction
第13回 About "Active Learning" (Group work)
第14回 Presentations and Peer Assessment
第15回 Discussion and test preparations

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Active Learning式で学ぶプレゼン作りとプレゼン発表の授業ため、授業外（教室外）でのGroup work又は一人での下準備がほぼ毎回必要です。

履修上の注意　/Remarks

英語XII（英中国比人３年）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。Group workを行いながら、お互いにアイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

English Presentations, Active Learning, Group Work, Peer Assessment, Solo Assessment

朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅰ	KRN101F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である１学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩』（厳　基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　文字と発音【単母音】【鼻音】
３回　文字と発音【単母音その２】【流音】
４回　文字と発音【平音】【半母音】
５回　文字と発音【激音】【濃音】
６回　文字と発音【合成母音】まとめと復習
７回　文字と発音【パッチム】
８回　発音の規則【有声音化】【連音化】
９回　発音の規則【濃音化】【激音化】
１０回　発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
１１回　まとめと復習
１２回　第11課　指定詞の丁寧形【～です】
１３回　第12課　指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
１４回　第11課と第12課の復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IIIと並行して受講することが望ましい。

朝鮮語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩』（厳 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　前期の復習
３回　第13課　どこで習っていますか？【かしこまった丁寧形①】
４回　第14課　暑くありませんか？【かしこまった丁寧形の否定表現】
５回　フリートーキング
６回　数詞のまとめ
７回　第15課　誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
８回　第16課　どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
９回　復習とフリートーキング
１０回　第17課　先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
１１回　第18課　何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
１２回　第19課　何をしましたか？【過去形】
１３回　復習とフリートーキング
１４回　何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…３０％　　期末試験…７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IVと並行して受講するほうが望ましい。

朝鮮語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書　/Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2017年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
2回　基本母音字とその発音【基本母音】
3回　基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
4回　基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
5回　子音（激音）字とその発音【派生子音1】
6回　子音（濃音）字とその発音【派生子音2】
7回　合成母音字とその発音【派生母音】
8回　終声子音字とその発音【パッチム】
9回　終声子音字とその発音【パッチム】
10回　連音化、激音化、濃音化【音の変化】
11回　連音化、激音化、濃音化【音の変化】
12回　辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
13回　自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
14回　自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といいます】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50%(小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要　/Course Description

初級文法に基づいた会話表現を中心に、聞き取り・発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。習った表現を活用して、自分自身の身の回りのことなど、基礎レベルでの会話をなめらかに表現できるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2017年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期の復習
2回　時間ありますか【存在の有無】【助詞】
3回　時間ありますか【存在の有無】【助詞】
4回　それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
5回　それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
6回　何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
7回　初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
8回　初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
9回　何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
10回　何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
11回　週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
12回　週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
13回　スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
14回　スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%　（小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語V 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語V	KRN201F

授業の概要　/Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3：B5判）2,400円（税抜き）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語I・II』の復習
第 3回目　第１課　フランスから来ました【文法、単語】
第 4回目　第１課　フランスから来ました【練習問題、スキット】
第 5回目　第２課　家族は何名様ですか【文法、単語】
第 6回目　第２課　家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
第 7回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
第 8回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
第11回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
第12回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
第13回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題・小テスト　30%　定期試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

朝鮮語V 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語VIIと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要　/Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3：B5判）2,400円（税抜き）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V』の復習
第 3回目　第６課　どのように行けばいいですか【文法、単語】
第 4回目　第６課　どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
第 5回目　第７課　写真を添付しますよ【文法、単語】
第 6回目　第７課　写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
第 7回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
第 8回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
第11回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
第12回目　第10課　何にも聞いていませんが【文法、単語】
第13回目　第10課　何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題・小テスト　30%　定期試験　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

朝鮮語VI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅶ	KRN202F

授業の概要　/Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心かける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書　/Textbooks

金順玉　他『ちょこっとチャレンジ！韓国語　改訂版』、白水社（2017年3月）、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　お名前なんとおっしゃいますか？【インタビューする】
3回　お名前なんとおっしゃいますか？【インタビューする】
4回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
5回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
6回　朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
7回　魚は焼かないでください。【決まりを言う】
8回　魚は焼かないでください。【決まりを言う】
９回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１０回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１１回　ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
１２回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１３回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１４回　道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（発表・課題・小テスト・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅷ	KRN212F

授業の概要　/Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書　/Textbooks

金順玉　他『ちょこっとチャレンジ！韓国語　改訂版』、白水社（2017年3月）、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　自由会話【夏休みの出来事】
2回　ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
3回　ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
4回　少し安くしてください。【買い物をする】
５回　少し安くしてください。【買い物をする】
６回　少し安くしてください。【買い物をする】
７回　私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
８回　私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
９回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
１０回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
11回　咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
12回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
13回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
１４回　字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（発表・課題・小テスト・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語 I	KRN301F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。　同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自己紹介【講読】
3回　自己紹介【作文】
4回　私の家【講読】
6回　私の家【作文】
7回　私の学校【講読】
8回　私の学校【作文】
9回　病院と薬局【講読】
10回　病院と薬局【作文】
11回　手紙【講読】
12回　手紙【作文】
13回　趣味【講読】
14回　趣味【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅱ	KRN311F

授業の概要　/Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書　/Textbooks

曺喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　映画【講読】
3回　映画【作文】
4回　地下鉄【講読】
5回　地下鉄【作文】
6回　感想文【講読】
8回　感想文【作文】
9回　日記【講読】
10回　日記【作文】
11回　試験【講読】
12回　試験【作文】
13回　韓国と日本【講読】
14回　韓国と日本【作文】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

上級朝鮮語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅲ	KRN302F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V/VI』の復習
第 3回目　学校生活【スキットを読んでみよう】
第 4回目　学校生活【文法、練習問題】
第 5回目　アルバイト【スキットを読んでみよう】
第 6回目　アルバイト【文法、練習問題】
第 7回目　私の一日【スキットを読んでみよう】
第 8回目　私の一日 【文法、練習問題】
第 9回目　プレゼント【スキットを読んでみよう】
第10回目　プレゼント 【文法、練習問題】
第11回目　風邪【スキットを読んでみよう】
第12回目　風邪【文法、練習問題】
第13回目　休日【スキットを読んでみよう】
第14回目　休日約束【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要　/Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　前期の復習
第 3回目　夏休み【スキットを読んでみよう】
第 4回目　夏休み【文法、練習問題】
第 5回目　趣味【スキットを読んでみよう】
第 6回目　趣味【文法、練習問題】
第 7回目　大学祭【スキットを読んでみよう】
第 8回目　大学祭【文法、練習問題】
第 9回目　仕事【スキットを読んでみよう】
第10回目　仕事【文法、練習問題】
第11回目　日記　【スキットを読んでみよう】
第12回目　日記　【文法、練習問題】
第13回目　外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
第14回目　外国語の勉強【文法、練習問題】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題…４０％　　期末試験…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

上級朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語I 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語 I	RUS101F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社、1994年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語概論、アルファベット
２回　文字と発音：母音、子音(１)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(１)
３回　子音(２)、疑問詞のある疑問文と答え方(２)、硬子音と軟子音、名詞の性
４回　所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(３)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
５回　硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
６回　50音のロシア文字表記法
７回　一課前半　テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
８回　一課後半　テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
９回　二課前半　テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
１０回　二課後半　テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
１１回　三課前半　テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
１２回　三課後半　テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
１３回　四課前半　テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
１４回　四課後半　テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・和文露訳課題 … 20%　　予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意　/Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語II 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社、1994年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　一学期に習ったことの復習(１)
２回　一学期に習ったことの復習(２)
３回　五課前半　テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(１)、曜日
４回　五課後半　テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
５回　六課前半　テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
６回　六課後半　テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
７回　七課前半　テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
８回　七課後半　テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
９回　八課前半　テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(１)(２)
１０回　八課後半　テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(３)、和文露訳
１１回　九課前半　テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
１２回　九課後半　テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
１３回　十課前半　テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
１４回　十課後半　テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・和文露訳課題 … 20%　　予習復習状況 … 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語III 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅲ	RUS102F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社 ￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
２回　ロシア語のアルファベット【交際】
３回　短文のイントネーション　【これは誰ですか】、【これは何ですか】
４回　簡単な問いと答え　【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
５回　第１課①　【挨拶】、【紹介】
６回　第１課②　【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
７回　第１課③　会話
８回　第２課①　【教室でロシア語】
９回　第２課②　【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
１０回　第２課③　【趣味】、【私はロシア語を話します】
１１回　第３課①　【家族の紹介】
１２回　第３課②　【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
１３回　第３課③　【形容詞】、【これは新しい車です】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	1単位	2学期	講義	英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第４課①　【一日の生活】、【過去の表現】
２回　第４課②　【時間表現】
３回　第４課③　【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
４回　第４課④　【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
５回　第５課①　【休日】、【動詞の未来】
６回　第５課②　【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
７回　第５課③　【名詞の造格】、【命令形】
８回　第５課④　【どうぞ、午後に私に電話してください】
９回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
１０回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
１１回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
１２回　第６課④　【あなたはどこから来ましたか】
１３回　会話　【どこへ】、【どこに】、【どこから】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語V 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語V	RUS201F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書　/Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○プリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　定動詞・不定動詞（１）、完了体・不完了体
２回　関係代名詞（１）、形容詞・副詞の比較級と最上級
３回　個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
４回　時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
５回　不定人称文、仮定法（１）、複文（１）
６回　移動動詞の派生、曜日表現
７回　関係副詞、関係代名詞（２）、勧誘法表現、年月日表現
８回　相互代名詞、述語生格、仮定法（２）、普遍人称文
９回　無人称動詞、定動詞・不定動詞（２）、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
１０回　副動詞、形動詞現在
１１回　完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
１２回　時刻表現、概数、姓の格変化
１３回　複文（２）、存在状態を表す動詞と動作動詞（「横たわっている」と「横になる・横たわせる」）
１４回　形動詞過去、間接命令法
１５回　定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・課題・学習状況 … 40 %
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード　/Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VI	RUS211F

授業の概要　/Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ГОСТИНИЦА　その1　読み、訳、練習問題　ロシアのことわざ「自己抑制について」
２回 ГОСТИНИЦА　その2　読み、訳、練習問題　ロシアの白樺
３回 СТОЛОВАЯ　その1　読み、訳、練習問題　ロシア人メンタリティ特徴
４回 СТОЛОВАЯ　その2　読み、訳、練習問題　新居祝い
５回　ГАСТРОНОМ　読み、訳、練習問題　民族言語教育について
６回　УНИВЕРМАГ　読み、訳、練習問題　異民族間婚姻
７回　ТРАНСПОРТ　読み、訳、練習問題　ペテルブルグへの旅
８回　ПОЧТА　読み、訳、練習問題　パブロフ「若者への書簡」
９回　ТЕЛЕФОН　読み、訳、練習問題　若いジャーナリストとの出会い
１０回　ВОКЗАЛ　読み、訳、練習問題　「花束」
１１回　ПОЛИКЛИНИКА　読み、訳、練習問題　「イワン・ペトロ-ビッチとの対話」
１２回　ПАРИКМАХЕРСКАЯ　読み、訳、練習問題　チェーホフ短編「別荘で」
１３回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その1　読み、訳、練習問題　春の洪水
１４回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その2　読み、訳、練習問題　ロシア人の名前
１５回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その3　読み、訳、練習問題　シベリアの蒸し風呂

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験５０％、授業での発表　５０％
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・ 和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ロシア語VI 【昼】

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要　/Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り･会話」と「作文」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第５課の復習
2回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
3回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
4回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
5回　第７課①　【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
6回　第７課②　【気温】、【雨が降る】
7回　第７課③　【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
8回　ビデオ学習①【В ГОСТИНИЦЕ】
9回　ビデオ学習②　会話練習
10回　第８課①　【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
11回　第８課②　【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
12回　第８課③　【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
13回　ビデオ学習③【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
14回　ビデオ学習④　会話練習、　作文【Я И СПОРТ】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第９課①　【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】　2回　第９課②　【買い物】、【値段】
3回　第９課③　会話練習
4回　ビデオ学習①　【В ГОСТЯХ】
5回　ビデオ学習②　会話練習【В ГОСТЯХ】
6回　ビデオ学習③　作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ 】
7回　第１０課①【モスクワの町】
8回　第１０課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
9回　第１０課③【モスクワの町】、【単文と複文】
10回　第１０課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
11回　読み物①　12回　読み物②
13回　読み物③
14回　練習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修してくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・4級・3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】（５級対応）
２回　自己紹介。【動詞の現在人称変化】
３回　ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
４回　その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
５回　その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
６回　フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】（4級対応）
７回　その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
８回　ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
９回　私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
１０回　その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
１１回　私達は今日、ケンとその学食に行きます。【３・４格支配の前置詞】
１２回　彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
１３回　私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
１４回　私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
１５回　彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書　/Textbooks

CD付き『独検５級・4級・3級対応　ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】（3級対応）
２回　私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
３回　君達は何をしましたか。【完了形】
４回　私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
５回　アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
６回　私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
７回　ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
８回　彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
９回　フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
１０回　もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
１１回　私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
１２回　その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
１３回　あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
１４回　それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
１５回　彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト(５０%)　　学期末試験（５０%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツァウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化· 歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語III 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅲ	GRM102F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、１・２人称、】
２回　名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
３回　紹介、数字、電話番号【３人称、数詞】
４回　各国の国名、車のナンバープート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
５回　履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
６回　ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
７回　趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
８回　ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
９回　好物、外国料理【接続詞】
１０回　ドイツの食事【頻度を表す副詞】
１１回　家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、１(主) 格】
１２回　ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト (５０％)　　学期末試験 (５０％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツァウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語IV	GRM112F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツエーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
２回　傘はドイツ語でなんと言うか【４（直接目的）格】
３回　住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の３格、】
４回　家賃はいくらですか、部屋の広さは
５回　時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
６回　日付、曜日、誕生日、今週の予定
７回　大学の建物、道案内、【副詞】
８回　交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
９回　休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
１０回　ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
１１回　過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
１２回　クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語IV 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語V 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語V	GRM201F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
２回　駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
３回　私達は注文したいのですが。【レストランで】
４回　部屋は空いていますか？【ホテルで】
５回　郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
６回　円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
７回　フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
８回　ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
９回　どこが悪いのですか？【病気】
１０回　頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
１１回　君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
１２回　ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
１３回　ドイツ語でクロスワード遊び。
１４回　一日の活動を日記に書く。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　パーティーに何を着ますか？【服装】
２回　このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
３回　家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
４回　ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
５回　ここで犬を放してはいけません。【禁止】
６回　何歳になったら何ができますか？【選挙権】
７回　ドイツの学校制度。【教育】
８回　パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
９回　あなたは何に興味がありますか？【職業】
１０回　イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
１１回　イースターのウサギが語ります【祭り】
１２回　君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
１３回　君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
１４回　クリスマスクッキーの作り方。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅶ	GRM202F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
２回　人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
３回　軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
６回　相手の言うことが聞き取れないとき
７回　理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くとき
８回　綴りを聞くとき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　場所を聞くとき、道順・方向を聞くとき、距離を聞くとき
１１回　時刻を聞くとき、時間を聞くとき、曜日を聞くとき、日付を聞くとき
１２回　値段を聞くとき、数量を聞くとき、方法を聞くとき、理由を聞くとき
１３回　目的を聞くとき、住所を聞くとき、出身地を聞くとき、生年月日を聞くとき
１４回　ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VIII	GRM212F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
２回　両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
３回　服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
６回　自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
７回　相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
８回　予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
１１回　会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
１２回　自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
１３回　贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
１４回　ドイツビデオ、１０回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語 I	FRN101F

授業の概要　/Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って原則二回で１課進み、1学期は第６課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　フランス語の発音とつづり字
２回　国籍・職業をいう
３回　主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
４回　名前・持ち物をいう
５回　動詞 avoir と冠詞の使い方
６回　友人・家族を紹介する
７回　第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
８回　疑問文の作り方
９回　人・物を説明する
１０回　形容詞の使い方
１１回　電話をかける、近い未来・過去についていう
１２回　指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
１３回　人、物、場所、時についてたずねる
１４回　疑問詞の使い方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属ＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい）
遅くとも２回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って２学期は第７課から第１２課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　食べ物・飲み物についていう
２回　部分冠詞、数量の表現について
３回　時刻・天候についていう
４回　疑問形容詞と命令形
５回　非人称構文と第二群規則動詞について
６回　人・物を比較する
７回　比較級と最上級の表現
８回　人を紹介する
９回　補語人称代名詞の使い方
１０回　代名動詞について
１１回　過去のことを話す
１２回　複合過去の作り方
１３回　未来のことを話す
１４回　単純未来の作り方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
１学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語III 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅲ	FRN102F

授業の概要　/Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ボルドー　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著　（朝日出版社　２０１６年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　発音の仕方
２回目　綴り字の読み方　（１課終了）
３回目　主語人称代名詞
４回目　国籍を表す形容詞（２課終了）
５回目　名詞と不定冠詞
６回目　名詞と形容詞　（３課終了）
７回目　第１群規則動詞の活用
８回目　定冠詞　疑問文　（４課終了）
９回目　指示形容詞
１０回目　動詞＜avoir＞の活用　否定文　（５課終了）
１１回目　動詞＜aller＞の活用
１２回目　疑問代名詞　不規則動詞　（６課終了）
１３回目　所有形容詞と疑問形容詞
１４回目　人称代名詞強勢形　（７課終了）
１５回目　il y a の表現

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト：４０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、専用ノートに文法項目ごとに整理をし、単語帳や例文リストを日本語・フランス語で作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語III 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書　/Textbooks

『パリ・ボルドー　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版　２０１６年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　定冠詞の縮約
２回目　補語人称代名詞　（８課終了）
３回目　代名動詞
４回目　中性代名詞　y　（９課終了）
５回目　非人称構文
６回目　命令形　感嘆文　（１０課終了）
７回目　部分冠詞
８回目　中性代名詞　en　（１１課終了）
９回目　比較級
１０回目　単純未来形　（１２課終了）
１１回目　複合過去　1
１２回目　複合過去２
１３回目　半過去　（１３課終了）
１４回目　条件法現在
１５回目　接続法現在　（１４課終了）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト４０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてにテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語IV 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語V 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語V	FRN201F

授業の概要　/Course Description

初級で学んだ文法で特にむつかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書　/Textbooks

『クロワッサン２　もっと知りたいフランス語』松村博史　著　２０１７年　朝日出版社　２３００円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『フラ語入門　わかりやすいにもホドがある』　清岡智比古著　白水社
『ケータイ万能　フランス語文法』　久松健一著　駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』　杉山利恵子著　NHK出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　アルファベ　数字　綴り字と発音のルール
２回目　動詞の現在形と複合過去の復習
３回目　頻度に関する表現　（１課終了）
４回目　直接・間接目的語と強勢形の代名詞
５回目　コミュニケーションに関する表現（２課終了）
６回目　代名動詞の使い方
７回目　一日の行動に関する表現　（３課終了）
８回目　中性代名詞と指示代名詞
９回目　程度に関する表現　（４課終了）
10回目　単純未来
11回目　「～と言う」「～と思う」などの表現　（5課終了）
12回目　Lecture １　（6課終了）
13回目　現在分詞とジェロンディフ
14回目　過去分詞と受動態
15回目　所有代名詞

成績評価の方法　/Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40%　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

フランス語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語VI	FRN211F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書　/Textbooks

『クロワッサン２　もっと知りたいフランス語』　松村博史著　2017年　朝日出版社　2300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中級フランス語　叙法の謎を解く』　渡邊淳也著　2018年　白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著　2012年　NHK出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　1学期の復習
2回目　半過去
3回目　活動に関する表現　（7課終了）
4回目　時・理由・条件を表す接続詞
5回目　大学生活に関する表現　（8課終了）
6回目　条件法
7回目　レストランに関する表現　（9課終了）
8回目　関係代名詞
9回目　観光地に関する表現　（10課終了）
10回目　接続法
11回目　いろいろな相づち　（11課終了）
12回目　lecture　2　（12課終了）
13回目　話法と時制の一致
14回目　単純過去
15回目　覚えておきたいフランス語の基本動詞８０について

成績評価の方法　/Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験６０%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語VI 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor	小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅶ	FRN202F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１）unité 1：自己紹介（前半）
２）unité 1：自己紹介（後半）
３）unité 1：自己紹介（復習）
４）unité 2：質問する（前半）
５）unité 2：質問する（後半）
６）unité 2：質問する（復習）、小テスト
７）unité 3：買い物をする（前半）
８）unité 3：買い物をする（後半）
９）unité 3：買い物をする（復習）
１０）unité 4：いつ（前半）
１１）unité 4：いつ（後半）
１２）unité 4：いつ（復習）、小テスト
１３）unité 5：どこ（前半）
１４）unité 5：どこ（後半）
１５）前期の復習、小テスト
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・２０％
小テスト（３回）・・・６０％
期末テスト・・・２０％
授業中の「取り組み」は２０％ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１）前期の復習、unité 6：誰（前半）
２）unité 6：誰（後半）
３）unité 6：誰（復習）、リスニング
４）unité 7：何（前半）
５）unité 7：何（後半）
６）unité 7：何（復習）、小テスト
７）unité 8：どのように（前半）
８）unité 8：どのように（後半）
９）unité 8：どのように（復習）、読解
１０）unité 9：過去について（前半）
１１）unité 9：過去について（後半）
１２）unité 9：過去について（復習）、小テスト
１３）unité 10：仮定、条件（前半）
１４）unité 10：仮定、条件（後半）
１５）後期の復習、プレゼンテーション
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・２０％
小テスト（２回）・・・４０％
プレゼンテーション・・・２０％
レポート・・・２０％
授業中の「取り組み」は２０％ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン語I 【昼】

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語 I	SPN101F

授業の概要　/Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは５つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。

またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書　/Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
2回　５つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
3回　名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
4回　人称代名詞、一般動詞の活用（３つのタイプ）：直説法現在
５回　一般動詞の活用（１）と基本文例、肯定文、否定文
6回　一般動詞の活用（２）と基本文例、　否定文、疑問文
7回　一般動詞の活用（３）と基本文例、目的語と前置詞
8回　一般動詞の復習、形容詞
9回　ser動詞とestar動詞（１）
10回　ser動詞とestar動詞（２）およびhayについて
11回　疑問詞を使った疑問文（１）
12回　疑問詞を使った疑問文（２）
13回　不規則動詞の活用、指示詞
14回　短文を読む（プリント）
15回　復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード　/Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語Ⅰの復習
2回　直説法現在ー不規則動詞の活用（１）
3回　指示代名詞と基本文例
4回　指示形容詞と基本文例
5回　不規則動詞の活用（２）
6回　所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
7回　不規則動詞の活用（３）直接目的格
8回　不規則動詞の活用（４）間接目的格
9回　前置詞と基本文例
10回　前置詞と人称代名詞
11回　gustar型の動詞（１）
12回　gustar型の動詞（２）
13回　再帰動詞と基本表現
14回　無人称表現、曜日・日付の表現
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペインもイスパノアメリカも「情熱の国です！」。熱意でスペイン語に挑戦！

キーワード　/Keywords

スペイン語III 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅲ	SPN102F

授業の概要　/Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは３－４人のグループでの会話練習を行います。
スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書　/Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
２回　スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
３回　１課　主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
４回　estar動詞、疑問文「元気ですか？」
５回　２課　名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはフアンです。」
６回　数字1 - 100「消防の電話番号は？」
７回　３課　規則活用動詞1　「わたしは文学を学んでいます。」
８回　規則活用動詞2　「スペイン語を話しますか？」
９回　４課　ser,estar,hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
１０回　ir動詞　「どこに行きますか？」
１１回　５課　gustar動詞　「好きな食べ物は？」
１２回　料理の注文　「メキシコ料理は好きですか？」
１３回　６課　家族について　「私の祖父はホルヘです。」
１４回　家族について　tener動詞　「兄弟はいますか？」
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語I（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。
また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がるＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心。）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語IV	SPN112F

授業の概要　/Course Description

スペイン語IIIの続きから、更に表現を学んでいきます。IIIと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは３ - ４人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書　/Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはIIIの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
２回　7課　店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
３回　8課　「カルロスの家は3部屋で、トイレは２つあります。」
４回　「住まいはどんなですか？」
５回　9課　時間表現「何時ですか？」
６回　再帰動詞「何時におきますか？」
７回　1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
８回　10課　大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
９回　肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
１０回　大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
１１回　11課　現在完了「週末はどうでしたか？」
１２回　「美術館はどうでしたか？」
１３回　12課　休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
１４回　「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
１５回　2学期まとめ

＊テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語II（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。 また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト： http://www.rtve.es/
http://los40.com/
http://www.cadena100.es/
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語V 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語V	SPN201F

授業の概要　/Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので3年生以上で使用したものとは違いますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
1 １年の復習（代名詞を中心に）
2 １年の復習（代名詞を中心に）
3 １年の復習（代名詞を中心に）
4 再帰動詞、無人称文など
5 再帰動詞、無人称文など
6 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）
7 同上
8 点過去、現在完了の用法
9 同上
10 同上
11 線過去の用法
12 同上
13 同上
14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
15 同上

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VI	SPN211F

授業の概要　/Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Ｖに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 未来形とその関連時制の用法
2 同上
3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
4 同上
5 過去完了と時制の一致
6 受け身文、無人称文
7 同上
8 接続法の活用全般について
9 接続法の用法
10 接続法の用法
11 スペイン語版トトロを理解する
12 スペイン語版トトロを理解する
13 スペイン語版トトロを理解する
14 スペイン語版トトロを理解する
15 まとめ
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意　/Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅶ	SPN202F

授業の概要　/Course Description

前年度のスペイン語III・IV（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。
会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布　（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前年度スペイン語の復習、自己紹介
2回　他人の紹介、人についての表現
3回　一日のスケジュール
4回　日常の紹介（１）
5回　日常の紹介（２）
6回　買い物（１）
7回　買い物（２）
8回　好きなこと
9回　食事について（１）パエージャの作り方
10回　食事について（２）
11回　旅行
12回　休暇の過ごし方　どこへ？
13回　スペイン語圏について
14回　町の紹介
15回　まとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語Ⅶ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ･Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がる音楽ＦＭ放送）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要　/Course Description

前期のスペイン語VIIをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や 音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。 会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布
（テキスト購入不要）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期表現の復習、休暇中のこと
2回　さあ食べよう！ 今日の定食
3回　趣味の事（１）
4回　趣味のこと（２）
5回　仕事の紹介
6回　企業について
7回　旅行（１）
8回　旅行（２）
9回　過去の出来事（１）
10回　小さかった時
11回　過去の出来事（２）
12回　現在の推測
13回　スペイン語のDVDを理解する（１）
14回　スペイン語のDVDを理解する（２）
15回　まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか 推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることがで きるはずです。 また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/ など

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。さらに、学期最後の一カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための２５のスキル - 改訂版 - 』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan　Times)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　大学生生(1)【自己紹介から始めよう】
3回　大学生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
4回　大学生活(3)【キャンパスツアー】
5回　大学生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
6回　大学生活(5)【図書館ツアー】
7回　大学生活(6)【大学生活のデザイン】
8回　大学生活(7)【講義の上手な受け方】
9回　大学生活(8)【演習に参加するコツ】
10回　大学生活(9)【大学の定期試験】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　30　%
ポートフォリオ評価　…　70%(学習者評価　30%　　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学に「適応」して、自分らしい大学生活を送りましょう。

キーワード　/Keywords

生活日本語　大学生活日本語　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション（書く）の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書　/Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（由井紀久子他、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』（簗晶子他、The Japan Times）
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』（笠井淳子他、アスク）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
2回　アポイントをとる【PCメール】
3回　問い合わせる【PCメール】
4回　伝言する【メモ】
5回　誘う【携帯メール】
6回　誘われる【携帯メール】
7回　依頼する【PCメール】
8回　依頼される【PCメール】
9回　謝る【PCメール】
10回　お礼を言う【PCメール】
11回　報告する【PCメール】
12回　なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
13回　募集する【チラシ】【掲示】
14回　アドバイスを求める【PCメール】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生（文学部比較文化学科日本語教師養成課程）が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

プロフィシエンシー　書く　対人性　場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor	徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師				
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体の感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書　/Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
　【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
2回　【色模様のワーク】
3回　【オノマトペのワーク】
4回　【比喩のワーク】
5回　【花束のワーク】
6回　【コツのワーク】【共同詩のワーク】
7回　【励ます言葉のワーク】
8回　【マイセンテンス】
9回　【パターンを見つける】
10回　【パターンを交差させる】
11回　【自己PR文を作ろう】
12回　【資料を使って論じよう】
13回　【経験から論じよう】
14回　【感想文を書こう】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み・・・40%　　発表・課題・・・30%　　自己評価…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っていてください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

TAE　　身体の感じ　　日本語の私　　母語の私

日本語IV 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IVでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。
さらに、日本語I同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
2回　話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
3回　自己紹介【オリジナリティ】
4回　食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
5回　失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
6回　失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
7回　情報探索【内容の深化・語彙力】
8回　質疑応答【内容の深化】
9回　責任を持って自慢する(1) 【責任を伴った発信力】
10回　責任を持って自慢する(2) 【学びと社会とのつながり】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…30%
ポートフォリオ評価　…70%(自己評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVと日本語V、日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の興味関心の方向を知っておくと、スピーチに取り組みやすいと思います。

キーワード　/Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、学校や社会で必要な論理的思考力を身につけることを目指す。

教科書　/Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく　日本語ロジカルトレーニング　中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング　改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう
３回　スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう
４回　スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう
５回　スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう
６回　スタディスキル(5)図解で考えよう
７回　スタディスキル(6)表・グラフを使って考えよう
８回　スタディスキル(7)議論の方法を知ろう
９回　スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう
10回　スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう
11回　スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう
12回　スタディスキル(11)発表の資料を作ろう
13回　スタディスキル(12)発表をやってみよう
14回　スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン発表
15回　総括　１年間（半期）の学びをふりかえろう

発想力(1)リストアップ
発想力(2)マッピング
読解力(1)イラストを見て考える
読解力(2)文章を読んで図や表にしてみる
読解力(3)表・グラフの内容を読み取る
読解力(4)表・グラフ以外の内容を読み取る
読解力(5)マッピングしながら読む
読解力(6)登場人物になったつもりで読む
読解力(7)理由を考えながら読む
読解力(8)意味を考えながら読む
表現力(1)理由を考えて書いてみる
表現力(2)論理的に考えて書いてみる

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論理的思考力　読解力　発想力　表現力　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　吉嶺　加奈子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自己PR(1)【自分を伝える】
３回　自己PR(2) 【情報を整理する】
４回　自己PR(3)【スピーチの準備をする】
５回　自己PR(4)【スピーチをする】
６回　自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
７回　ブック・トーク(1)【情報を探す】
８回　ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
９回　ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
10回　ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回　ブック・トーク(5)【発表する】
12回　ブック・レポート(1)【書く】
13回　ブック・レポート(2)【内容を検討する】
14回　ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
15回　総括【全体を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…40％
課題評価...30％
自己評価...30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・ラーニング　相互リソース化　批判的思考の獲得　社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『読む力(中上級)』（奥田純子他、くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア･リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（舘岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
2回　私の二ュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
3回　価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
4回　言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
5回　経済学とは何か【分野の概要】
6回　思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
7回　住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
8回　決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
9回　メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
10回　改訂　介護概論【目次から読む】
11回　ことばの構造、文化の構造【入門書】
12回　観光で行きたい国はどこ【調査結果】
13回　化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
14回　クリティカル・リーディングを磨こう
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　課題…40%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。

キーワード　/Keywords

クリティカル・リーディング　ピア・ラーニング　複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』（大島弥生他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』（木下是雄、筑摩書房）
○『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
2回　レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
3回　レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
4回　情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
5回　目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
6回　アウトラインを作る【序論・本論・結論】
7回　パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
8回　パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
9回　文章を点検する【校正/表現の点検】
10回　文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
11回　レポートの完成【体裁】
12回　発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
13回　発表する【話し手/聴き手/司会】
14回　発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
15回　学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　　レポート・発表…40%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてほしい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論証型レポート　ピア・ラーニング　論理的思考

日本事情（人文）A 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。
授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書　/Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
○『「お茶」の学びと人間教育』(梶田叡一、淡交社)
○『表千家茶道十二か月』(千宗左、日本放送出版協会)
○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
○『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
2回　茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
3回　茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
4回　茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
5回　茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
6回　歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
7回　歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
8回　歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
9回　歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
10回　歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
11回　歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
12回　歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
13回　伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
14回　伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート…40%　　ポートフォリオ評価60%(自己評価…20%　ピア評価…20%　教師評価…20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード　/Keywords

茶道　歌舞伎　日本文化　自文化　異文化　伝統文化　現代生活　サブカルチャー　文化の伝承

日本事情（人文）B 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
○細川英雄『日本語教育と日本事情ー異文化を超えるー』明石書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「境目」を読む
３回　「境目」について話し合う
４回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
５回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
６回　「ことばと文化を結ぶために」を読む
７回　「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
８回　文化観を比較する
９回　その他の読み物を読む
10回　レポートの作成（１）「私にとって文化とは何か」
11回　ピア・リーディング　クラスメートンレポートを読んでコメントする
12回　レポートの作成（２）
13回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする①
14回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする②
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート...５０％
日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）...５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、分からない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者が多数の場合、２年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化　比較　交換

日本事情（社会）A 【昼】

担当者名 /Instructor	則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

「日本事情（社会）」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。
「日本事情(社会）A」では、日本の社会を形作っている経済、政治、社会をめぐるさまざまな出来事を読み解き、理解する。また、そこから生まれる疑問や批判、さらには自分を取り巻く社会の未来について前向きに意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書　/Textbooks

『大人のための社会科ー未来を語るために』（井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『財政から読み解く日本社会ー君たちの未来のために』（井出英策、岩波書店）
『「決め方」の経済学ーみんなの意見のまとめ方」を科学する』（坂井豊貴、ダイヤモンド社）
『安心社会から信頼社会へー日本型システムの行方』（山岸俊男、中央公論社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　私たちの生きる社会
3回　「GDP（社会の良さとはなんだろうか）」
4回　「勤労（生きづらさを加速させる自己責任の社会）」
5回　「時代（時代を分けることと捉えること）」
6回　「多数決（私たちのことを私たちで決める）」
7回　「運動（異議申し立てと正統性）」
8回　「私（自分の声が社会に届かない）」
9回　「公正（等しく扱われること）」
10回　「信頼（社会を支えるベースライン）」
11回　「ニーズ（税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える）」
12回　「歴史認識（過去をひらき未来につなぐ）」
13回　「公（「生活の場」「生産の場」「保障の場」を作りかえる）」
14回　「希望（「まだーない」もののカ）」
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…50％　課題や提出物、発表…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。テキストを読み、わからない内容や語句については事前に調べておくようにしてください。また、日頃からニュースや新聞などに目を通しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

内容言語統合学習　日本社会　対話

日本事情（社会）B 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋げられるように、クリティカル･リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡益巳･ 深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
○坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
○葛文綺『中国人留学生･ 研修生の異文化適応』溪水社
　吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
○榎本博明 (2002)『＜ほんとうの自分＞のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
○高松里 (2015)『ライフストーリー･レビュー入門』創元社

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業オリエンテーション
第２回　「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル･リーディングの復習
第３回　クリティカル･リーディングの実践：研究論文を読む
第４回　留学生や元留学生にまつわる言説 (１) 日本社会の中の外国人という視点から
第５回　言説の考察 (１)
第６回　留学生や元留学生にまつわる言説 (２) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
第７回　言説の考察 (２)
第８回　自己物語とアイデンティティ
第９回　自己物語を書こう (１) 自己物語の実際
第１０回　自己物語を書こう (２) 自己物語の書き方
第１１回　自己物語を読もう (１) 論理実証モードと物語モード
第１２回　自己物語を読もう (２) 共感から共鳴へ
第１３回　自己物語を語り直そう
第１４回　留学生のキャリア発達
第１５回　「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　課題…30%　　レポート40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本事情（社会）B 【昼】

キーワード　/Keywords
言説　　留学生のキャリア発達　　自己物語

中国語初級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　平田・李

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合 I	CHN100M

授業の概要 /Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。
第２課
①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
②自分の出身地、家族構成を語ることができる。
第３課
①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
②1日のスケジュールを語ることができる。
第４課
①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。
第５課
①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
②過去に経験したことや完了したことを語ることができる。
第６課
①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
③飲み物や食べ物の好き嫌いを語ることができる。
第７課
①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。
第８課
①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
②旅行の予定、計画などを聞いたり語ったりすることができる。
第９課
①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。
第10課
①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

中国語初級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　発音編　中国語概説、声調
２回　発音編　単母音
３回　発音編　子音前半
４回　発音編　子音後前半
５回　発音編　複母音
６回　発音編　鼻母音
７回　発音編　声調の組み合わせパターン
８回　発音編　変調（一、不）、単語の構造
９回　発音編　発音のまとめ
１０回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１１回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語の確認・コミュニケーション練習）
１２回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（タスク活動・リスニング問題）
１３回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（練習問題、発表準備）
１４回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１５回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１６回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１７回　第２課　出身地・家族構成を語る（タスク活動・リスニング問題）
１８回　第２課　出身地・家族構成を語る（練習問題、発表準備）
１９回　第２課　出身地・家族構成を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２０回　第３課　スケジュールを語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２１回　第３課　スケジュールを語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２２回　第３課　スケジュールを語る（タスク活動・リスニング問題）
２３回　第３課　スケジュールを語る（練習問題、発表準備）
２４回　第３課　スケジュールを語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２５回　第４課　道順を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２６回　第４課　道順を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
２７回　第４課　道順を聞く（タスク活動・リスニング問題）
２８回　第４課　道順を聞く（練習問題、発表準備）
２９回　第４課　道順を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３０回　第５課　買い物をする（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３１回　第５課　買い物をする（単語の確認・コミュニケーション練習）
３２回　第５課　買い物をする（タスク活動・リスニング問題）
３３回　第５課　買い物をする（練習問題、発表準備）
３４回　第５課　買い物をする（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３５回　第６課　料理を注文する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３６回　第６課　料理を注文する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３７回　第６課　料理を注文する（タスク活動＜学外実習を行う予定＞・リスニング問題）
３８回　第６課　料理を注文する（練習問題、発表準備）
３９回　第６課　料理を注文する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４０回　第７課　趣味を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４１回　第７課　趣味を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４２回　第７課　趣味を語る（タスク活動・リスニング問題）
４３回　第７課　趣味を語る（練習問題、発表準備）
４４回　第７課　趣味を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４５回　第８課　夏休みの計画を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４６回　第８課　夏休みの計画を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４７回　第８課　夏休みの計画を語る（タスク活動・リスニング問題）
４８回　第８課　夏休みの計画を語る（練習問題、発表準備）
４９回　第８課　夏休みの計画を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第９課　体の具合を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第９課　体の具合を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第９課　体の具合を聞く（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第９課　体の具合を聞く（練習問題、発表準備）
５４回　第９課　体の具合を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第10課　手紙を書く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第10課　手紙を書く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第10課　手紙を書く（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第10課　手紙を書く（練習問題、発表準備）

中国語初級総合I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

５９回　第10課　手紙を書く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

なお、いずれかの課で学外実習を行うことがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…５０％　　小テスト・宿題…５０％
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　西・李

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合 I	CHN100M

授業の概要 /Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。
第２課
①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
②自分の出身地、家族構成を語ることができる。
第３課
①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
②1日のスケジュールを語ることができる。
第４課
①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。
第５課
①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
②過去に経験したことや完了したことを語ることができる。
第６課
①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
③飲み物や食べ物の好き嫌いを語ることができる。
第７課
①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。
第８課
①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
②旅行の予定、計画などを聞いたり語ったりすることができる。
第９課
①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。
第10課
①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

中国語初級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　発音編　中国語概説、声調
２回　発音編　単母音
３回　発音編　子音前半
４回　発音編　子音後前半
５回　発音編　複母音
６回　発音編　鼻母音
７回　発音編　声調の組み合わせパターン
８回　発音編　変調（一、不）、単語の構造
９回　発音編　発音のまとめ
１０回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１１回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語の確認・コミュニケーション練習）
１２回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（タスク活動・リスニング問題）
１３回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（練習問題、発表準備）
１４回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１５回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１６回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１７回　第２課　出身地・家族構成を語る（タスク活動・リスニング問題）
１８回　第２課　出身地・家族構成を語る（練習問題、発表準備）
１９回　第２課　出身地・家族構成を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２０回　第３課　スケジュールを語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２１回　第３課　スケジュールを語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２２回　第３課　スケジュールを語る（タスク活動・リスニング問題）
２３回　第３課　スケジュールを語る（練習問題、発表準備）
２４回　第３課　スケジュールを語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２５回　第４課　道順を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２６回　第４課　道順を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
２７回　第４課　道順を聞く（タスク活動・リスニング問題）
２８回　第４課　道順を聞く（練習問題、発表準備）
２９回　第４課　道順を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３０回　第５課　買い物をする（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３１回　第５課　買い物をする（単語の確認・コミュニケーション練習）
３２回　第５課　買い物をする（タスク活動・リスニング問題）
３３回　第５課　買い物をする（練習問題、発表準備）
３４回　第５課　買い物をする（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３５回　第６課　料理を注文する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３６回　第６課　料理を注文する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３７回　第６課　料理を注文する（タスク活動＜学外実習を行う予定＞・リスニング問題）
３８回　第６課　料理を注文する（練習問題、発表準備）
３９回　第６課　料理を注文する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４０回　第７課　趣味を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４１回　第７課　趣味を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４２回　第７課　趣味を語る（タスク活動・リスニング問題）
４３回　第７課　趣味を語る（練習問題、発表準備）
４４回　第７課　趣味を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４５回　第８課　夏休みの計画を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４６回　第８課　夏休みの計画を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４７回　第８課　夏休みの計画を語る（タスク活動・リスニング問題）
４８回　第８課　夏休みの計画を語る（練習問題、発表準備）
４９回　第８課　夏休みの計画を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第９課　体の具合を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第９課　体の具合を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第９課　体の具合を聞く（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第９課　体の具合を聞く（練習問題、発表準備）
５４回　第９課　体の具合を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第10課　手紙を書く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第10課　手紙を書く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第10課　手紙を書く（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第10課　手紙を書く（練習問題、発表準備）

中国語初級総合I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

５９回　第10課　手紙を書く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

なお、いずれかの課で学外実習を行うことがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…50%　　小テスト・タスク・単語テスト等…50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）をコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　胡・宋(宥)

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合 I	CHN100M

授業の概要 /Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①初対面の相手に簡単な自己紹介や挨拶をすることができる。
②初対面の相手に姓・名前を尋ねることができる。
③初対面の相手の国籍・身分を尋ねることができる。
第２課
①相手に出身地、家族構成を尋ねることができる。
②自分の出身地、家族構成を語ることができる。
第３課
①時刻・日付・曜日等を聞いたり話したりできる。
②1日のスケジュールを語ることができる。
第４課
①人や物の所在を聞いたり答えたりすることができる。
②ある場所に向かう道順や交通手段を尋ねることができる。
第５課
①買い物する時、商品の値段について尋ねることができる。
②過去に経験したことや完了したことを語ることができる。
第６課
①レストランで飲み物や料理を注文することができる。
②注文すると時に、相手の好みを聞いたり、自分の好みを告げたりすることができる。
③飲み物や食べ物の好き嫌いを語ることができる。
第７課
①相手の趣味や特技を尋ねたり、自分の趣味や特技を語ったりすることができる。
②趣味・特技に関して、相手や自分の腕前にコメントすることができる。
第８課
①電話番号・アドレス等を教えたり、尋ねたりすることができる。
②旅行の予定、計画などを聞いたり語ったりすることができる。
第９課
①体調を崩した人に声をかけたり慰めたりすることができる。
②自分が風邪を引いた時、その症状を説明することができる。
③都合が悪くて授業を休みたい時に、友人からその旨を先生に伝えてもらうように依頼ができる。
第10課
①故郷などの四季・気候について簡単に説明することができる。
②中国の書式を使って簡単な手紙を書くことができる。

中国語初級総合I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 1』（岡田英樹・絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　発音編　中国語概説、声調
２回　発音編　単母音
３回　発音編　子音前半
４回　発音編　子音後前半
５回　発音編　複母音
６回　発音編　鼻母音
７回　発音編　声調の組み合わせパターン
８回　発音編　変調（一、不）、単語の構造
９回　発音編　発音のまとめ
１０回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１１回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（単語の確認・コミュニケーション練習）
１２回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（タスク活動・リスニング問題）
１３回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（練習問題、発表準備）
１４回　第１課　初対面の挨拶と自己紹介（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１５回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１６回　第２課　出身地・家族構成を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１７回　第２課　出身地・家族構成を語る（タスク活動・リスニング問題）
１８回　第２課　出身地・家族構成を語る（練習問題、発表準備）
１９回　第２課　出身地・家族構成を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２０回　第３課　スケジュールを語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２１回　第３課　スケジュールを語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２２回　第３課　スケジュールを語る（タスク活動・リスニング問題）
２３回　第３課　スケジュールを語る（練習問題、発表準備）
２４回　第３課　スケジュールを語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２５回　第４課　道順を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２６回　第４課　道順を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
２７回　第４課　道順を聞く（タスク活動・リスニング問題）
２８回　第４課　道順を聞く（練習問題、発表準備）
２９回　第４課　道順を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３０回　第５課　買い物をする（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３１回　第５課　買い物をする（単語の確認・コミュニケーション練習）
３２回　第５課　買い物をする（タスク活動・リスニング問題）
３３回　第５課　買い物をする（練習問題、発表準備）
３４回　第５課　買い物をする（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３５回　第６課　料理を注文する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３６回　第６課　料理を注文する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３７回　第６課　料理を注文する（タスク活動＜学外実習を行う予定＞・リスニング問題）
３８回　第６課　料理を注文する（練習問題、発表準備）
３９回　第６課　料理を注文する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４０回　第７課　趣味を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４１回　第７課　趣味を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４２回　第７課　趣味を語る（タスク活動・リスニング問題）
４３回　第７課　趣味を語る（練習問題、発表準備）
４４回　第７課　趣味を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４５回　第８課　夏休みの計画を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４６回　第８課　夏休みの計画を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４７回　第８課　夏休みの計画を語る（タスク活動・リスニング問題）
４８回　第８課　夏休みの計画を語る（練習問題、発表準備）
４９回　第８課　夏休みの計画を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第９課　体の具合を聞く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第９課　体の具合を聞く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第９課　体の具合を聞く（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第９課　体の具合を聞く（練習問題、発表準備）
５４回　第９課　体の具合を聞く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第10課　手紙を書く（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第10課　手紙を書く（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第10課　手紙を書く（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第10課　手紙を書く（練習問題、発表準備）

中国語初級総合I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

５９回　第10課　手紙を書く（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

なお、いずれかの課で学外実習を行うことがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…５０％　　小テスト・宿題…５０％
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　平田・李

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合Ⅱ	CHN110M

中国語初級総合II 【昼】

授業の概要　/Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。
②タクシーで運転手に指示ができる。
③入寮手続きをすることができる。
第２課
①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。
②人に生活情報を尋ねることができる。
③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。
第３課
①ある1日の行動範囲や行動内容について語ることができる。
②天気の状況について語ることができる。
第４課
①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。
②ある人の技能や外見をほめることができる。
③ほめ言葉に対して返事ができる。
第５課
①お世話を頂いたことに対して感謝を述べることができる。
②バスに関する情報を人に尋ねることができる。
第６課
①履修科目及びその学習方法について語ることができる。
②学校内の施設及びそれらの場所について語ることができる。
③ある人の性格について語ることができる。
④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。
第７課
①宿泊の予約ができる。
②列車や飛行機の切符の予約ができる。
第８課
①簡単な買い物ができる。
②買い物をする時に値段の交渉ができる。
③お金の両替ができる。
第９課
①映画、劇などを観た後の感想を述べることができる。
②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。
第10課
①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。
②スポーツ観戦後の感想を述べることができる。
第11課
①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。
②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。
第12課
①式辞を書いてスピーチすることができる。
②実用文（求人広告など）を書くことができる。

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 2』（絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2900円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語の確認・コミュニケーション練習）
３回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（タスク活動・リスニング問題）
４回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（練習問題、発表準備）
５回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６回　第２課　身近な情報を得る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
７回　第２課　身近な情報を得る（単語の確認・コミュニケーション練習）
８回　第２課　身近な情報を得る（タスク活動・リスニング問題）
９回　第２課　身近な情報を得る（練習問題、発表準備）
１０回　第２課　身近な情報を得る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１１回　第３課　1日の経験を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）

中国語初級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１２回　第３課　1日の経験を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１３回　第３課　1日の経験を語る（タスク活動・リスニング問題）
１４回　第３課　1日の経験を語る（練習問題、発表準備）
１５回　第３課　1日の経験を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１６回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１７回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語の確認・コミュニケーション練習）
１８回　第４課　中国人の家庭を訪問する（タスク活動・リスニング問題）
１９回　第４課　中国人の家庭を訪問する（練習問題、発表準備）
２０回　第４課　中国人の家庭を訪問する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２１回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２２回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語の確認・コミュニケーション練習）
２３回　第５課　北京の観光予定を話し合う（タスク活動・リスニング問題）
２４回　第５課　北京の観光予定を話し合う（練習問題、発表準備）
２５回　第５課　北京の観光予定を話し合う（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２６回　第６課　留学生活を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２７回　第６課　留学生活を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２８回　第６課　留学生活を語る（タスク活動・リスニング問題）
２９回　第６課　留学生活を語る（練習問題、発表準備）
３０回　第６課　留学生活を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３１回　第７課　列車に乗る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３２回　第７課　列車に乗る（単語の確認・コミュニケーション練習）
３３回　第７課　列車に乗る（タスク活動・リスニング問題）
３４回　第７課　列車に乗る（練習問題、発表準備）
３５回　第７課　列車に乗る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３６回　第８課　値段を交渉する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３７回　第８課　値段を交渉する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３８回　第８課　値段を交渉する（タスク活動・リスニング問題）
３９回　第８課　値段を交渉する（練習問題、発表準備）
４０回　第８課　値段を交渉する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４１回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４２回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４３回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４４回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（練習問題、発表準備）
４５回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４６回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４７回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４８回　第10課　試合観戦の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４９回　第10課　試合観戦の感想を語る（練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第11課　郵便物を出す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第11課　郵便物を出す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第11課　郵便物を出す（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第11課　郵便物を出す（練習問題、発表準備）
５４回　第11課　郵便物を出す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第12課　謝辞を書き、話す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第12課　謝辞を書き、話す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第12課　謝辞を書き、話す（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第12課　謝辞を書き、話す（練習問題、発表準備）
５９回　第12課　謝辞を書き、話す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…５０％　　小テスト・宿題…５０％
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、き

中国語初級総合II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合II 【昼】

担当者名 /Instructor　一木・李

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合Ⅱ	CHN110M

中国語初級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

授業の概要　/Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。
②タクシーで運転手に指示ができる。
③入寮手続きをすることができる。
第２課
①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。
②人に生活情報を尋ねることができる。
③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。
第３課
①ある1日の行動範囲や行動内容について語ることができる。
②天気の状況について語ることができる。
第４課
①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。
②ある人の技能や外見をほめることができる。
③ほめ言葉に対して返事ができる。
第５課
①お世話を頂いたことに対して感謝を述べることができる。
②バスに関する情報を人に尋ねることができる。
第６課
①履修科目及びその学習方法について語ることができる。
②学校内の施設及びそれらの場所について語ることができる。
③ある人の性格について語ることができる。
④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。
第７課
①宿泊の予約ができる。
②列車や飛行機の切符の予約ができる。
第８課
①簡単な買い物ができる。
②買い物をする時に値段の交渉ができる。
③お金の両替ができる。
第９課
①映画、劇などを観た後の感想を述べることができる。
②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。
第10課
①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。
②スポーツ観戦後の感想を述べることができる。
第11課
①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。
②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。
第12課
①式辞を書いてスピーチすることができる。
②実用文（求人広告など）を書くことができる。

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 2』（絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2900円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語の確認・コミュニケーション練習）
３回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（タスク活動・リスニング問題）
４回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（練習問題、発表準備）
５回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６回　第２課　身近な情報を得る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
７回　第２課　身近な情報を得る（単語の確認・コミュニケーション練習）
８回　第２課　身近な情報を得る（タスク活動・リスニング問題）
９回　第２課　身近な情報を得る（練習問題、発表準備）
１０回　第２課　身近な情報を得る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１１回　第３課　1日の経験を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）

中国語初級総合II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１２回　第３課　1日の経験を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１３回　第３課　1日の経験を語る（タスク活動・リスニング問題）
１４回　第３課　1日の経験を語る（練習問題、発表準備）
１５回　第３課　1日の経験を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１６回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１７回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語の確認・コミュニケーション練習）
１８回　第４課　中国人の家庭を訪問する（タスク活動・リスニング問題）
１９回　第４課　中国人の家庭を訪問する（練習問題、発表準備）
２０回　第４課　中国人の家庭を訪問する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２１回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２２回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語の確認・コミュニケーション練習）
２３回　第５課　北京の観光予定を話し合う（タスク活動・リスニング問題）
２４回　第５課　北京の観光予定を話し合う（練習問題、発表準備）
２５回　第５課　北京の観光予定を話し合う（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２６回　第６課　留学生活を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２７回　第６課　留学生活を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２８回　第６課　留学生活を語る（タスク活動・リスニング問題）
２９回　第６課　留学生活を語る（練習問題、発表準備）
３０回　第６課　留学生活を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３１回　第７課　列車に乗る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３２回　第７課　列車に乗る（単語の確認・コミュニケーション練習）
３３回　第７課　列車に乗る（タスク活動・リスニング問題）
３４回　第７課　列車に乗る（練習問題、発表準備）
３５回　第７課　列車に乗る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３６回　第８課　値段を交渉する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３７回　第８課　値段を交渉する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３８回　第８課　値段を交渉する（タスク活動・リスニング問題）
３９回　第８課　値段を交渉する（練習問題、発表準備）
４０回　第８課　値段を交渉する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４１回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４２回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４３回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４４回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（練習問題、発表準備）
４５回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４６回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４７回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４８回　第10課　試合観戦の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４９回　第10課　試合観戦の感想を語る（練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第11課　郵便物を出す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第11課　郵便物を出す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第11課　郵便物を出す（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第11課　郵便物を出す（練習問題、発表準備）
５４回　第11課　郵便物を出す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第12課　謝辞を書き、話す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第12課　謝辞を書き、話す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第12課　謝辞を書き、話す（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第12課　謝辞を書き、話す（練習問題、発表準備）
５９回　第12課　謝辞を書き、話す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…50%　　小テスト・タスク・単語テスト等…50%
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。
タスクの内容によっては学外に出ることもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、き

中国語初級総合II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対しては授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王(晨)・宋(宥)

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の基礎を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級総合Ⅱ	CHN110M

中国語初級総合II 【昼】

授業の概要　/Course Description

本授業は中国語を用いて、他者とコミュニケーションを図るのに必要な基礎能力を身につけることを目標としている。受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、中国語の発音を身につけ、基礎的文型、文法を駆使して、以下のコミュニケーションができるようにする。

第１課
①知らない言葉の意味についての尋ね方が分かる。
②タクシーで運転手に指示ができる。
③入寮手続きをすることができる。
第２課
①自分の友人を人に紹介したり、二人を引き合わせたりすることができる。
②人に生活情報を尋ねることができる。
③レストランや食堂について簡単な評価をすることができる。
第３課
①ある1日の行動範囲や行動内容について語ることができる。
②天気の状況について語ることができる。
第４課
①お土産を渡す場合の礼儀正しい言い方ができる。
②ある人の技能や外見をほめることができる。
③ほめ言葉に対して返事ができる。
第５課
①お世話を頂いたことに対して感謝を述べることができる。
②バスに関する情報を人に尋ねることができる。
第６課
①履修科目及びその学習方法について語ることができる。
②学校内の施設及びそれらの場所について語ることができる。
③ある人の性格について語ることができる。
④将来の夢について尋ねたり、答えたりすることができる。
第７課
①宿泊の予約ができる。
②列車や飛行機の切符の予約ができる。
第８課
①簡単な買い物ができる。
②買い物をする時に値段の交渉ができる。
③お金の両替ができる。
第９課
①映画、劇などを観た後の感想を述べることができる。
②簡単なプログラム・パンフレット・チラシを読むことができる。
第10課
①スポーツの勝敗を中国語で表現することができる。
②スポーツ観戦後の感想を述べることができる。
第11課
①手紙・はがき・小包を郵便局から送ることができる。
②生活に役立つ広告・パンフレットを読むことができる。
第12課
①式辞を書いてスピーチすることができる。
②実用文（求人広告など）を書くことができる。

教科書　/Textbooks

『新コミュニカティブ中国語Level 2』（絹川浩敏・胡玉華・張恒悦、郁文堂）2900円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

授業時に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（単語の確認・コミュニケーション練習）
３回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（タスク活動・リスニング問題）
４回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（練習問題、発表準備）
５回　第１課　空港でのタクシーの乗車と入寮手続き（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６回　第２課　身近な情報を得る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
７回　第２課　身近な情報を得る（単語の確認・コミュニケーション練習）
８回　第２課　身近な情報を得る（タスク活動・リスニング問題）
９回　第２課　身近な情報を得る（練習問題、発表準備）
１０回　第２課　身近な情報を得る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１１回　第３課　1日の経験を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）

中国語初級総合II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１２回　第３課　1日の経験を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
１３回　第３課　1日の経験を語る（タスク活動・リスニング問題）
１４回　第３課　1日の経験を語る（練習問題、発表準備）
１５回　第３課　1日の経験を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
１６回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
１７回　第４課　中国人の家庭を訪問する（単語の確認・コミュニケーション練習）
１８回　第４課　中国人の家庭を訪問する（タスク活動・リスニング問題）
１９回　第４課　中国人の家庭を訪問する（練習問題、発表準備）
２０回　第４課　中国人の家庭を訪問する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２１回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２２回　第５課　北京の観光予定を話し合う（単語の確認・コミュニケーション練習）
２３回　第５課　北京の観光予定を話し合う（タスク活動・リスニング問題）
２４回　第５課　北京の観光予定を話し合う（練習問題、発表準備）
２５回　第５課　北京の観光予定を話し合う（まとめの発表、評価。目標達成確認）
２６回　第６課　留学生活を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
２７回　第６課　留学生活を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
２８回　第６課　留学生活を語る（タスク活動・リスニング問題）
２９回　第６課　留学生活を語る（練習問題、発表準備）
３０回　第６課　留学生活を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３１回　第７課　列車に乗る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３２回　第７課　列車に乗る（単語の確認・コミュニケーション練習）
３３回　第７課　列車に乗る（タスク活動・リスニング問題）
３４回　第７課　列車に乗る（練習問題、発表準備）
３５回　第７課　列車に乗る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
３６回　第８課　値段を交渉する（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
３７回　第８課　値段を交渉する（単語の確認・コミュニケーション練習）
３８回　第８課　値段を交渉する（タスク活動・リスニング問題）
３９回　第８課　値段を交渉する（練習問題、発表準備）
４０回　第８課　値段を交渉する（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４１回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４２回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４３回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４４回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（練習問題、発表準備）
４５回　第９課　アート鑑賞後の感想を語る（まとめの発表、評価。目標達成確認）
４６回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
４７回　第10課　試合観戦の感想を語る（単語の確認・コミュニケーション練習）
４８回　第10課　試合観戦の感想を語る（タスク活動・リスニング問題）
４９回　第10課　試合観戦の感想を語る（練習問題、まとめの発表、評価。目標達成確認）
５０回　第11課　郵便物を出す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５１回　第11課　郵便物を出す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５２回　第11課　郵便物を出す（タスク活動・リスニング問題）
５３回　第11課　郵便物を出す（練習問題、発表準備）
５４回　第11課　郵便物を出す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
５５回　第12課　謝辞を書き、話す（単語・本文の意味確認、読み練習・表現のポイント説明）
５６回　第12課　謝辞を書き、話す（単語の確認・コミュニケーション練習）
５７回　第12課　謝辞を書き、話す（タスク活動・リスニング問題）
５８回　第12課　謝辞を書き、話す（練習問題、発表準備）
５９回　第12課　謝辞を書き、話す（まとめの発表、評価。目標達成確認）
６０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・期末試験…５０％　　小テスト・宿題…５０％
欠席や遅刻、課題の未提出、受講態度が悪い等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は一冊のテキストを用いて、中国人教員と日本人教員ペアで、週四回連続して進められる。特殊な形式の授業なので注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

母語（日本語）で他者ときちんとしたコミュニケーションが図れないのに、外国語（中国語）でコミュニケーションが図れるようになることはまずありません。母語（日本語）のコミュニケーション能力を鍛えることが外国語（中国語）能力の向上にもつながってきます。日頃から、きちんとしたコミュニケーションを心がけて下さい。また、コミュニケーション能力は実践なくして身につくことはありません。受講者に対して

中国語初級総合II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

は授業への積極的な参加を求めます。

キーワード　/Keywords

中国語、コミュニケーション、異文化理解

中国語初級会話I 【昼】

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I	CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語初級会話I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I	CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語初級会話I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話 I	CHN120M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話Ⅱ	CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話Ⅱ	CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語初級会話II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する基礎的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で身近な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語初級会話Ⅱ	CHN121M

授業の概要 /Course Description

中国学科１年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1.「中日・日中」電子辞書
2.『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編 (中国書店)　O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語初級会話II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I	CHN200M

授業の概要　/Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書　/Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『知ってるつもりの中国語ー「同じ漢字」が誤解のモト』（上野惠司、アスキー [アスキー新書]、2007年）
・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
ほか

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　（前半）ガイダンス /（後半）第１課「自我介绍」(1)–「词语与句型」「词汇」
第２回　第１課「自我介绍」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
第３回　第２課「你为什么学习汉语?」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第４回　第２課「你为什么学习汉语?」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第３課「怎么学好汉语?」の学習(1)–「词语与句型」「课文」
第６回　第３課「怎么学好汉语?」(2)–「课文」「词汇」
第７回　第３課「怎么学好汉语?」(3)–「问题」「会话」
第８回　第４課「电子邮件」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第４課「电子邮件」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第10回　第５課「匆匆」(1)–「词语与句型」「课文」
第11回　第５課「匆匆」(2)–「课文」「词汇」「问题」
第12回　第５課「匆匆」(3)–「发音复习」「会话」
第13回　第６課「明日歌」(1)–「课文」「词汇」「问题」
第14回　第６課「明日歌」(2)–「词语与句型」「发音复习」「会话」
第15回　第７課「中日关系」(1)–「语与与句型」「课文」
※進度はあくまで目安です。第７課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70％）＋課題（30％）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I	CHN200M

授業の概要　/Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書　/Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『知ってるつもりの中国語ー「同じ漢字」が誤解のモト』（上野惠司、アスキー [アスキー新書]、2007年）
・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
ほか

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　（前半）ガイダンス /（後半）第１課「自我介绍」(1)–「词语与句型」「词汇」
第２回　第１課「自我介绍」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
第３回　第２課「你为什么学习汉语?」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第４回　第２課「你为什么学习汉语?」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第３課「怎么学好汉语?」の学習(1)–「词语与句型」「课文」
第６回　第３課「怎么学好汉语?」(2)–「课文」「词汇」
第７回　第３課「怎么学好汉语?」(3)–「问题」「会话」
第８回　第４課「电子邮件」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第４課「电子邮件」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第10回　第５課「匆匆」(1)–「词语与句型」「课文」
第11回　第５課「匆匆」(2)–「课文」「词汇」「问题」
第12回　第５課「匆匆」(3)–「发音复习」「会话」
第13回　第６課「明日歌」(1)–「课文」「词汇」「问题」
第14回　第６課「明日歌」(2)–「词语与句型」「发音复习」「会话」
第15回　第７課「中日关系」(1)–「语与与句型」「课文」
※進度はあくまで目安です。第７課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70％）＋課題（30％）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合 I	CHN200M

授業の概要　/Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書　/Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『知ってるつもりの中国語ー「同じ漢字」が誤解のモト』（上野惠司、アスキー [アスキー新書]、2007年）
・『中国人は言葉で遊ぶ』（相原茂、現代書館、2016年）
ほか

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　（前半）ガイダンス /（後半）第１課「自我介绍」(1)–「词语与句型」「词汇」
第２回　第１課「自我介绍」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
第３回　第２課「你为什么学习汉语?」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第４回　第２課「你为什么学习汉语?」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第３課「怎么学好汉语?」の学習(1)–「词语与句型」「课文」
第６回　第３課「怎么学好汉语?」(2)–「课文」「词汇」
第７回　第３課「怎么学好汉语?」(3)–「问题」「会话」
第８回　第４課「电子邮件」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第４課「电子邮件」(2)–「问题」「发音复习」「会话」
第10回　第５課「匆匆」(1)–「词语与句型」「课文」
第11回　第５課「匆匆」(2)–「课文」「词汇」「问题」
第12回　第５課「匆匆」(3)–「发音复习」「会话」
第13回　第６課「明日歌」(1)–「课文」「词汇」「问题」
第14回　第６課「明日歌」(2)–「词语与句型」「发音复习」「会话」
第15回　第７課「中日关系」(1)–「语与与句型」「课文」
※進度はあくまで目安です。第７課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70％）＋課題（30％）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合II 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ	CHN210M

授業の概要　/Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。

教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。

教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書　/Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
○『中国語虎の巻　実力アップ15の秘伝 [増補改訂版] 』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
ほか

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　第７課「中日关系」(2)–「课文」(続)「词汇」「问题」「发音复习」「会话」
第２回　第８課「鲁迅和藤野先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第３回　第８課「鲁迅和藤野先生」(2)–「课文」
第４回　第８課「鲁迅和藤野先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第９課「巴金答井上靖先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第６回　第９課「巴金答井上靖先生」(2)–「课文」
第７回　第９課「巴金答井上靖先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第８回　第10課「陶奇的日记」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第10課「陶奇的日记」(2)–「课文」
第10回　第10課「陶奇的日记」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第11回　第11課「牛郎织女」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第12回　第11課「牛郎织女」(2)–「课文」
第13回　第11課「牛郎织女」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第14回　第12課「成语故事」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第15回　第12課「成语故事」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合I」の進み具合によりますが、第７課の途中から始める予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ	CHN210M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
○『中国語虎の巻　実力アップ15の秘伝［増補改訂版］』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　第７課「中日关系」(2)–「课文」(続)「词汇」「问题」「发音复习」「会话」
第２回　第８課「鲁迅和藤野先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第３回　第８課「鲁迅和藤野先生」(2)–「课文」
第４回　第８課「鲁迅和藤野先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第９課「巴金答井上靖先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第６回　第９課「巴金答井上靖先生」(2)–「课文」
第７回　第９課「巴金答井上靖先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第８回　第10課「陶奇的日记」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第10課「陶奇的日记」(2)–「课文」
第10回　第10課「陶奇的日记」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第11回　第11課「牛郎织女」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第12回　第11課「牛郎织女」(2)–「课文」
第13回　第11課「牛郎织女」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第14回　第12課「成语故事」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第15回　第12課「成语故事」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合I」の進み具合によりますが、第７課の途中から始める予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国語中級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）を総合的に習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級総合Ⅱ	CHN210M

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を習得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の習得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の、語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、「问题」「发音复习」は省略することがあります。また教科書以外の教材（中国語検定試験等の問題）をあつかうこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる　実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
○『誤用から学ぶ中国語』シリーズ（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
○『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
○『中国語虎の巻　実力アップ15の秘伝［増補改訂版］』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　第７課「中日关系」(2)–「课文」(続)「词汇」「问题」「发音复习」「会话」
第２回　第８課「鲁迅和藤野先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第３回　第８課「鲁迅和藤野先生」(2)–「课文」
第４回　第８課「鲁迅和藤野先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第５回　第９課「巴金答井上靖先生」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第６回　第９課「巴金答井上靖先生」(2)–「课文」
第７回　第９課「巴金答井上靖先生」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第８回　第10課「陶奇的日记」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第９回　第10課「陶奇的日记」(2)–「课文」
第10回　第10課「陶奇的日记」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第11回　第11課「牛郎织女」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第12回　第11課「牛郎织女」(2)–「课文」
第13回　第11課「牛郎织女」(3)–「问题」「发音复习」「会话」
第14回　第12課「成语故事」(1)–「词语与句型」「课文」「词汇」
第15回　第12課「成语故事」(2)–「课文」「问题」「发音复习」「会话」
※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合I」の進み具合によりますが、第７課の途中から始める予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題Ａ）と、期限を設けて取り組むもの（課題Ｂ）とがあります。

中国語中級総合II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいると思います。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検webなどを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解していって下さい。

キーワード　/Keywords

中級中国語、文章読解

中国作品講読I 【昼】

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読 I	LIT251M

授業の概要　/Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、中国近代・現代文学について（講義）
第２回　エッセイを読む（１）[文学革命・作者について（講義）、作品講読１]
第３回　エッセイを読む（２）[作品講読２]
第４回　エッセイを読む（３）[作品講読３]、小テスト
第５回　書簡を読む（１）[日常瑣事を描く（講義）、作品講読１]
第６回　書簡を読む（２）[作品講読２]
第７回　書簡を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第８回　日記を読む（１）[個人の内面を描く（講義）、作品講読１]
第９回　日記を読む（２）[作品講読２]
第10回　日記を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第11回　小品文を読む（１）[白話文の普及と教育について（講義）、作品講読１]
第12回　小品文を読む（２）[作品講読２]
第13回　小品文を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60％、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40％

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読Ⅰ	LIT251M

授業の概要　/Course Description

＜中国現代文学作品を読む＞
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、中国近代・現代文学について（講義）
第２回　エッセイを読む（１）[文学革命・作者について（講義）、作品講読１]
第３回　エッセイを読む（２）[作品講読２]
第４回　エッセイを読む（３）[作品講読３]、小テスト
第５回　書簡を読む（１）[日常瑣事を描く（講義）、作品講読１]
第６回　書簡を読む（２）[作品講読２]
第７回　書簡を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第８回　日記を読む（１）[個人の内面を描く（講義）、作品講読１]
第９回　日記を読む（２）[作品講読２]
第10回　日記を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第11回　小品文を読む（１）[白話文の普及と教育について（講義）、作品講読１]
第12回　小品文を読む（２）[作品講読２]
第13回　小品文を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60％、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40％

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読Ⅰ	LIT251M

授業の概要　/Course Description

＜中国現代文学作品を読む＞
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

中国作品講読I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、中国近代・現代文学について（講義）
第２回　エッセイを読む（１）[文学革命・作者について（講義）、作品講読１]
第３回　エッセイを読む（２）[作品講読２]
第４回　エッセイを読む（３）[作品講読３]、小テスト
第５回　書簡を読む（１）[日常瑣事を描く（講義）、作品講読１]
第６回　書簡を読む（２）[作品講読２]
第７回　書簡を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第８回　日記を読む（１）[個人の内面を描く（講義）、作品講読１]
第９回　日記を読む（２）[作品講読２]
第10回　日記を読む（３）[作品講読３]、小テスト
第11回　小品文を読む（１）[白話文の普及と教育について（講義）、作品講読１]
第12回　小品文を読む（２）[作品講読２]
第13回　小品文を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60％、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40％

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読Ⅱ	LIT252M

授業の概要　/Course Description

＜中国現代文学作品を読む＞
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、実力テスト
第２回　小品文を読む（１）・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について（講義）、作品講読１]
第３回　小品文を読む（２）・グループ発表 [作品講読２]
第４回　小品文を読む（３）・グループ発表 [作品講読３]
第５回　小テスト、短編小説を読む（１）[作者と都市文学について（講義）、作品講読１]
第６回　短編小説を読む（２）[作品講読２]
第７回　短編小説を読む（３）[作品講読３]
第８回　小テスト、文芸評論を読む（１）[サイノフォン：魯迅から温又柔まで（講義）]
第９回　文芸評論を読む（２）[文学革命から女子教育、女性の社会進出について（講義）]
第10回　文芸評論を読む（３）
第11回　小テスト、散文詩を読む（１）[作者とその時代について（講義）、作品講読１]
第12回　散文詩を読む（２）[作品講読２]
第13回　散文詩を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

中国作品講読II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読Ⅱ	LIT252M

授業の概要　/Course Description

＜中国現代文学作品を読む＞
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、実力テスト
第２回　小品文を読む（１）・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について（講義）、作品講読１]
第３回　小品文を読む（２）・グループ発表 [作品講読２]
第４回　小品文を読む（３）・グループ発表 [作品講読３]
第５回　小テスト、短編小説を読む（１）[作者と都市文学について（講義）、作品講読１]
第６回　短編小説を読む（２）[作品講読２]
第７回　短編小説を読む（３）[作品講読３]
第８回　小テスト、文芸評論を読む（１）[サイノフォン：魯迅から温又柔まで（講義）]
第９回　文芸評論を読む（２）[文学革命から女子教育、女性の社会進出について（講義）]
第10回　文芸評論を読む（３）
第11回　小テスト、散文詩を読む（１）[作者とその時代について（講義）、作品講読１]
第12回　散文詩を読む（２）[作品講読２]
第13回　散文詩を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

中国作品講読II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国作品講読II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文学等作品に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語で書かれた文学作品等をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の文学等作品について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の文学等作品に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国作品講読Ⅱ	LIT252M

授業の概要　/Course Description

＜中国現代文学作品を読む＞
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがついていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合IIIおよび中国文学概論IIIを履修済みであることがのぞましい。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、実力テスト
第２回　小品文を読む（１）・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について（講義）、作品講読１]
第３回　小品文を読む（２）・グループ発表 [作品講読２]
第４回　小品文を読む（３）・グループ発表 [作品講読３]
第５回　小テスト、短編小説を読む（１）[作者と都市文学について（講義）、作品講読１]
第６回　短編小説を読む（２）[作品講読２]
第７回　短編小説を読む（３）[作品講読３]
第８回　小テスト、文芸評論を読む（１）[サイノフォン：魯迅から温又柔まで（講義）]
第９回　文芸評論を読む（２）[文学革命から女子教育、女性の社会進出について（講義）]
第10回　文芸評論を読む（３）
第11回　小テスト、散文詩を読む（１）[作者とその時代について（講義）、作品講読１]
第12回　散文詩を読む（２）[作品講読２]
第13回　散文詩を読む（３）[作品講読３]
第14回　小テスト、総合討論
第15回　まとめ
※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

中国作品講読II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60%、平常点（小テスト、授業への貢献度、出席状況）40%

※原則、授業回数の３分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

・輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
・予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語中級会話AI 【昼】

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡＩ	CHN220M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	第１課	自己紹介（講読）
２回	暗誦（１課）	第２課　家族（講読）
３回	暗誦（２課）	会話練習
４回	第３課	父母（講読）
５回	暗誦（３課）	第４課　友達（講読）
６回	暗誦（４課）	会話練習
７回	第５課	住居（講読）
８回	暗誦（５課）	第６課　通勤通学（講読）
９回	暗誦（６課）	会話練習
１０回	第７課	飲物（講読）
１１回	暗誦（７課）	第８課　休日（講読）
１２回	暗誦（８課）	会話練習
１３回	第９課	送り迎え−電話会話（講読）
１４回	暗誦（９課）	第１０課　病気（講読）
１５回	暗誦（１０課）	会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話AI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話AI 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡＩ	CHN220M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	第１課	自己紹介（講読）
２回	暗誦（１課）	第２課　家族（講読）
３回	暗誦（２課）	会話練習
４回	第３課	父母（講読）
５回	暗誦（３課）	第４課　友達（講読）
６回	暗誦（４課）	会話練習
７回	第５課	住居（講読）
８回	暗誦（５課）	第６課　通勤通学（講読）
９回	暗誦（６課）	会話練習
１０回	第７課	飲物（講読）
１１回	暗誦（７課）	第８課　休日（講読）
１２回	暗誦（８課）	会話練習
１３回	第９課	送り迎え−電話会話（講読）
１４回	暗誦（９課）	第１０課　病気（講読）
１５回	暗誦（１０課）	会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話AI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話AI 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡＩ	CHN220M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	第１課	自己紹介（講読）
２回	暗誦（１課）	第２課　家族（講読）
３回	暗誦（２課）	会話練習
４回	第３課	父母（講読）
５回	暗誦（３課）	第４課　友達（講読）
６回	暗誦（４課）	会話練習
７回	第５課	住居（講読）
８回	暗誦（５課）	第６課　通勤通学（講読）
９回	暗誦（６課）	会話練習
１０回	第７課	飲物（講読）
１１回	暗誦（７課）	第８課　休日（講読）
１２回	暗誦（８課）	会話練習
１３回	第９課	送り迎え−電話会話（講読）
１４回	暗誦（９課）	第１０課　病気（講読）
１５回	暗誦（１０課）	会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話AI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡⅡ	CHN221M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１１課　　入院（講読）
２回　暗誦（１１課）　第１２課　　旅行（講読）
３回　暗誦（１２課）　会話練習
４回　第１３課　　訃報（講読）
５回　暗誦（１３課）　第１４課　　放送（講読）
６回　暗誦（１４課）　会話練習
７回　第１５課　　手紙（講読）
８回　暗誦（１５課）　第１６課　　ローン（講読）
９回　暗誦（１６課）　会話練習
１０回　第１７課　　天候（講読）
１１回　暗誦（１７課）　第１８課　　繁華街（講読）
１２回　暗誦（１８課）　会話練習
１３回　第１９課　　スポーツ（講読）
１４回　暗誦（１９課）　第２０課　　受験（講読）
１５回　暗誦（２０課）　会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡⅡ	CHN221M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１１課　　入院（講読）
２回　暗誦（１１課）　第１２課　　旅行（講読）
３回　暗誦（１２課）　会話練習
４回　第１３課　　訃報（講読）
５回　暗誦（１３課）　第１４課　　放送（講読）
６回　暗誦（１４課）　会話練習
７回　第１５課　　手紙（講読）
８回　暗誦（１５課）　第１６課　　ローン（講読）
９回　暗誦（１６課）　会話練習
１０回　第１７課　　天候（講読）
１１回　暗誦（１７課）　第１８課　　繁華街（講読）
１２回　暗誦（１８課）　会話練習
１３回　第１９課　　スポーツ（講読）
１４回　暗誦（１９課）　第２０課　　受験（講読）
１５回　暗誦（２０課）　会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話AII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＡⅡ	CHN221M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『中国語実習コース』　張　乃方著　　白水社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第１１課　　入院（講読）
２回　暗誦（１１課）　第１２課　　旅行（講読）
３回　暗誦（１２課）　会話練習
４回　第１３課　　訃報（講読）
５回　暗誦（１３課）　第１４課　　放送（講読）
６回　暗誦（１４課）　会話練習
７回　第１５課　　手紙（講読）
８回　暗誦（１５課）　第１６課　　ローン（講読）
９回　暗誦（１６課）　会話練習
１０回　第１７課　　天候（講読）
１１回　暗誦（１７課）　第１８課　　繁華街（講読）
１２回　暗誦（１８課）　会話練習
１３回　第１９課　　スポーツ（講読）
１４回　暗誦（１９課）　第２０課　　受験（講読）
１５回　暗誦（２０課）　会話練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗誦テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢＩ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－１

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢＩ	CHN222M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」　練習
２回　第二課 東京（本文）
３回　第二課　会話「欢迎您来到日本」　練習
４回　第三課　横浜（本文）
５回　第三課　会話「东京的交通真是太方便了」　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（本文）
７回　第四課　会話「一级棒」練習
８回　第五課　静岡と名古屋（本文）
９回　第五課　会話「这里飞往中国的航班有很多」　練習
１０回　第六課　京都（本文）
１１回　第六課　会話「日本的新干线很人性化」　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（本文）
１３回　第七課　会話「圣德太子是日本的骄傲」　練習
１４回　第八課　大阪（本文）
１５回　第八課　会話「上海和大阪是友好城市」　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話ＢＩ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢＩ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－２

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢＩ	CHN222M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」　練習
２回　第二課 東京（本文）
３回　第二課　会話「欢迎您来到日本」　練習
４回　第三課　横浜（本文）
５回　第三課　会話「东京的交通真是太方便了」　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（本文）
７回　第四課　会話「一级棒」練習
８回　第五課　静岡と名古屋（本文）
９回　第五課　会話「这里飞往中国的航班有很多」　練習
１０回　第六課　京都（本文）
１１回　第六課　会話「日本的新干线很人性化」　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（本文）
１３回　第七課　会話「圣德太子是日本的骄傲」　練習
１４回　第八課　大阪（本文）
１５回　第八課　会話「上海和大阪是友好城市」　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話ＢＩ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢＩ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－３

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢＩ	CHN222M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（本文）会話「我想到日本去旅行」　練習
２回　第二課 東京（本文）
３回　第二課　会話「欢迎您来到日本」　練習
４回　第三課　横浜（本文）
５回　第三課　会話「东京的交通真是太方便了」　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（本文）
７回　第四課　会話「一级棒」練習
８回　第五課　静岡と名古屋（本文）
９回　第五課　会話「这里飞往中国的航班有很多」　練習
１０回　第六課　京都（本文）
１１回　第六課　会話「日本的新干线很人性化」　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（本文）
１３回　第七課　会話「圣德太子是日本的骄傲」　練習
１４回　第八課　大阪（本文）
１５回　第八課　会話「上海和大阪是友好城市」　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語中級会話ＢＩ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－１

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢⅡ	CHN223M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（本文）
２回　第九課　　会話「北九州是个环保模范城市」　練習
３回　第十課　　九州（本文）
４回　第十課　　会話「冲绳是日本最长寿的地方」　練習
５回　第十一課　福岡（本文）
６回　第十一課　会話「我有一个好朋友住在福冈」　練習
７回　第十二課　佐賀（本文）
８回　第十二課　会話「佐贺不再是超级乡下了」　練習
９回　第十三課　長崎（本文）
１０回　第十三課　会話「这是中国送的」　練習
１１回　第十四課　四国（本文）
１２回　第十四課　会話「这次没时间了，真可惜」　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１４回　第十五課　会話「一部电影的力量」　練習
１５回　後期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話ＢII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－２

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢⅡ	CHN223M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（本文）
２回　第九課　　会話「北九州是个环保模范城市」　練習
３回　第十課　　九州（本文）
４回　第十課　　会話「冲绳是日本最长寿的地方」　練習
５回　第十一課　福岡（本文）
６回　第十一課　会話「我有一个好朋友住在福冈」　練習
７回　第十二課　佐賀（本文）
８回　第十二課　会話「佐贺不再是超级乡下了」　練習
９回　第十三課　長崎（本文）
１０回　第十三課　会話「这是中国送的」　練習
１１回　第十四課　四国（本文）
１２回　第十四課　会話「这次没时间了，真可惜」　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１４回　第十五課　会話「一部电影的力量」　練習
１５回　後期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級会話ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　王　暁芳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　２－３

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級会話ＢⅡ	CHN223M

授業の概要　/Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。
近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（本文）
２回　第九課　　会話「北九州是个环保模范城市」　練習
３回　第十課　　九州（本文）
４回　第十課　　会話「冲绳是日本最长寿的地方」　練習
５回　第十一課　福岡（本文）
６回　第十一課　会話「我有一个好朋友住在福冈」　練習
７回　第十二課　佐賀（本文）
８回　第十二課　会話「佐贺不再是超级乡下了」　練習
９回　第十三課　長崎（本文）
１０回　第十三課　会話「这是中国送的」　練習
１１回　第十四課　四国（本文）
１２回　第十四課　会話「这次没时间了，真可惜」　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１４回　第十五課　会話「一部电影的力量」　練習
１５回　後期のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・４０％　暗唱テスト・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語中級会話ＢII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I	CHN224M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　写作训练重点：人物介绍　第１課 我的朋友----李明（１）　范文分析
2回　第１課　我的朋友----李明（２）　写作实践　上次作文讲评
写作训练重点：介绍出国后发生的事情　第２課 来到中国（１）　范文分析
3回　第２課 来到中国（２）　写作实践　上次作文讲评
4回　写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活 第３課　上班族的一天（１）范文分析
5回　第３課　上班族的一天（２）　写作实践　上次作文讲评
6回 写作训练重点：谈谈对……的看法　第４課　第一印象可靠吗（１）　范文分析
7回　第４課　第一印象可靠吗（２）　写作实践　上次作文讲评
8回　写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活 第５課　我的故乡（１）　范文分析
9回　第５課　我的故乡（２）　写作实践　上次作文讲评
10回 写作训练重点：简单介绍自己的经历　第６課　我的恋爱史（１）　范文分析
11回　第６課　我的恋爱史（２）　写作实践　上次作文讲评
12回 写作训练重点：介绍一件事情的过程　第７課　搬家（１）　范文分析
13回 第７課　搬家（２）　写作实践　上次作文讲评
14回 写作训练重点：限时完成作文　第８課　到底发生了什么事（１）范文分析
15回 第８課　到底发生了什么事（２）　写作实践　上次作文讲评

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

中国語中級作文I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I	CHN224M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　写作训练重点：人物介绍　第１課 我的朋友----李明（１）　范文分析
2回　第１課　我的朋友----李明（２）　写作实践　上次作文讲评
写作训练重点：介绍出国后发生的事情　第２課 来到中国（１）　范文分析
3回　第２課 来到中国（２）　写作实践　上次作文讲评
4回　写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活 第３課　上班族的一天（１）范文分析
5回　第３課　上班族的一天（２）　写作实践　上次作文讲评
6回 写作训练重点：谈谈对……的看法　第４課　第一印象可靠吗（１）　范文分析
7回　第４課　第一印象可靠吗（２）　写作实践　上次作文讲评
8回　写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活 第５課　我的故乡（１）　范文分析
9回　第５課　我的故乡（２）　写作实践　上次作文讲评
10回 写作训练重点：简单介绍自己的经历　第６課　我的恋爱史（１）　范文分析
11回　第６課　我的恋爱史（２）　写作实践　上次作文讲评
12回 写作训练重点：介绍一件事情的过程　第７課　搬家（１）　范文分析
13回 第７課　搬家（２）　写作实践　上次作文讲评
14回 写作训练重点：限时完成作文　第８課　到底发生了什么事（１）范文分析
15回 第８課　到底发生了什么事（２）　写作实践　上次作文讲评

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

中国語中級作文I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文 I	CHN224M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　写作训练重点：人物介绍　第１課 我的朋友----李明（１）　范文分析
2回　第１課　我的朋友----李明（２）　写作实践　上次作文讲评
写作训练重点：介绍出国后发生的事情　第２課 来到中国（１）　范文分析
3回　第２課 来到中国（２）　写作实践　上次作文讲评
4回　写作训练重点：按照时间顺序介绍一天的生活 第３課　上班族的一天（１）范文分析
5回　第３課　上班族的一天（２）　写作实践　上次作文讲评
6回 写作训练重点：谈谈对……的看法　第４課　第一印象可靠吗（１）　范文分析
7回　第４課　第一印象可靠吗（２）　写作实践　上次作文讲评
8回　写作训练重点：介绍故乡或其他地方的生活 第５課　我的故乡（１）　范文分析
9回　第５課　我的故乡（２）　写作实践　上次作文讲评
10回 写作训练重点：简单介绍自己的经历　第６課　我的恋爱史（１）　范文分析
11回　第６課　我的恋爱史（２）　写作实践　上次作文讲评
12回 写作训练重点：介绍一件事情的过程　第７課　搬家（１）　范文分析
13回 第７課　搬家（２）　写作实践　上次作文讲评
14回 写作训练重点：限时完成作文　第８課　到底发生了什么事（１）范文分析
15回 第８課　到底发生了什么事（２）　写作实践　上次作文讲评

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

中国語中級作文I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ	CHN225M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 写作训练重点：简单图表分析　第９課　关于出行方式的调查（１）范文分析
2回 第９課　关于出行方式的调查（２）　写作实践　上次作文讲评
3回 写作训练重点：谈谈自己的生活　第10課　愉快的周末（１）　范文分析
4回 第10課 愉快的周末（２）　写作实践　上次作文讲评
5回 写作训练重点：介绍某物的用途　第11課　橘子皮的用途（１）　范文分析
6回 第11課 橘子皮的用途（２）　写作实践　上次作文讲评
7回 写作训练重点：介绍人物　第12課　语言学家赵元任（１）　范文分析
8回 第12課　语言学家赵元任（２）　写作实践　上次作文讲评
9回 写作训练重点：说说你的想法和计划　第13課　如果我是公司老板（１）范文分析
10回 第13課 如果我是公司老板（２）　写作实践　上次作文讲评
11回 写作训练重点：写一件小事　第14課　一件小事（１）　范文分析
12回 第14課　一件小事（２）　写作实践　上次作文讲评
13回 写作训练重点：简单说明意见和看法　第15課　你真是个好孩子（１）　范文分析
14回 第15課　你真是个好孩子（２）　写作实践　上次作文讲评
15回 総合講評

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

中国語中級作文II 【昼】

キーワード　/Keywords
中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ	CHN225M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 写作训练重点：简单图表分析　第９課　关于出行方式的调查（１）范文分析
2回 第９課　关于出行方式的调查（２）　写作实践　上次作文讲评
3回 写作训练重点：谈谈自己的生活　第10課　愉快的周末（１）　范文分析
4回 第10課 愉快的周末（２）　写作实践　上次作文讲评
5回 写作训练重点：介绍某物的用途　第11課　橘子皮的用途（１）　范文分析
6回 第11課 橘子皮的用途（２）　写作实践　上次作文讲评
7回 写作训练重点：介绍人物　第12課　语言学家赵元任（１）　范文分析
8回 第12課　语言学家赵元任（２）　写作实践　上次作文讲评
9回 写作训练重点：说说你的想法和计划　第13課　如果我是公司老板（１）范文分析
10回 第13課 如果我是公司老板（２）　写作实践　上次作文讲评
11回 写作训练重点：写一件小事　第14課　一件小事（１）　范文分析
12回 第14課　一件小事（２）　写作实践　上次作文讲评
13回 写作训练重点：简单说明意见和看法　第15課　你真是个好孩子（１）　范文分析
14回 第15課　你真是个好孩子（２）　写作实践　上次作文讲评
15回 総合講評

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

中国語中級作文II 【昼】

キーワード　/Keywords
中国、作文、コミュニケーション

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor　陳　振華 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級作文Ⅱ	CHN225M

授業の概要　/Course Description

中級作文は記述文を中心に中国語の文章作成方法を勉強する。記述文の構造の分析、中国語の語句の使い方を通して、中国語文章作成の訓練を繰り返して、記述文の作成能力を養う。

教科書　/Textbooks

『发展汉语 中级写作（Ⅰ）』（第二版）　蔡永強　編著　北京言語大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　祝 秉耀編著 北京語言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 写作训练重点：简单图表分析　第９課　关于出行方式的调查（１）范文分析
2回 第９課　关于出行方式的调查（２）　写作实践　上次作文讲评
3回 写作训练重点：谈谈自己的生活　第10課　愉快的周末（１）　范文分析
4回 第10課 愉快的周末（２）　写作实践　上次作文讲评
5回 写作训练重点：介绍某物的用途　第11課　橘子皮的用途（１）　范文分析
6回 第11課 橘子皮的用途（２）　写作实践　上次作文讲评
7回 写作训练重点：介绍人物　第12課　语言学家赵元任（１）　范文分析
8回 第12課　语言学家赵元任（２）　写作实践　上次作文讲评
9回 写作训练重点：说说你的想法和计划　第13課　如果我是公司老板（１）范文分析
10回 第13課 如果我是公司老板（２）　写作实践　上次作文讲评
11回 写作训练重点：写一件小事　第14課　一件小事（１）　范文分析
12回 第14課　一件小事（２）　写作实践　上次作文讲评
13回 写作训练重点：简单说明意见和看法　第15課　你真是个好孩子（１）　范文分析
14回 第15課 你真是个好孩子（２）　写作实践　上次作文讲评
15回 総合講評

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：　50%　課題：　40%　日常の授業への取組み：　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課の授業の前に予習すること、特に各課の「写作实践」に作文を事前に書かなければならない、これは平常点を評価する項目の一つである。
先生に添削された自己の作文をもう一度読んだり、清書したりすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業を調整することがある。

中国語中級作文II 【昼】

キーワード　/Keywords
中国、作文、コミュニケーション

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅠ	CHN226M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一课　买东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第一课　买东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第二课　看病（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
４回　第二课　看病（２）　四．听课文做练习　五，泛听练习
５回　第三课　去餐厅吃饭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
６回　第三课　去餐厅吃饭（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
７回　第四课　问路（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
８回　第四课　问路（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
９回　第五课　寄东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第五课　寄东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１１回　第六课　旅游（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１２回　第六课　旅游（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１３回　第七课　修理（１）　一．生词　二．格式与练习　三．热身练习
１４回　第七课　修理（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード　/Keywords

リスニング　　聴力　　単語

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅠ	CHN226M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一课　买东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第一课　买东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第二课　看病（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
４回　第二课　看病（２）　四．听课文做练习　五，泛听练习
５回　第三课　去餐厅吃饭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
６回　第三课　去餐厅吃饭（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
７回　第四课　问路（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
８回　第四课　问路（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
９回　第五课　寄东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第五课　寄东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１１回　第六课　旅游（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１２回　第六课　旅游（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１３回　第七课　修理（１）　一．生词　二．格式与练习　三．热身练习
１４回　第七课　修理（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード　/Keywords

リスニング　　聴力　　単語

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅠ	CHN226M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一课　买东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第一课　买东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第二课　看病（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
４回　第二课　看病（２）　四．听课文做练习　五，泛听练习
５回　第三课　去餐厅吃饭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
６回　第三课　去餐厅吃饭（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
７回　第四课　问路（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
８回　第四课　问路（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
９回　第五课　寄东西（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第五课　寄东西（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１１回　第六课　旅游（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１２回　第六课　旅游（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１３回　第七课　修理（１）　一．生词　二．格式与练习　三．热身练习
１４回　第七课　修理（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

中国語中級リスニングI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード　/Keywords

リスニング　　聴力　　単語

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅡ	CHN227M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、１学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第八课　休闲娱乐（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第八课　休闲娱乐（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第九课　谈学习（１）　一．生词　二．格式范句　三．热身练习
４回　第九课　谈学习（２）　四．听课文做练习
５回　第九课　谈学习（３）　五．泛听练习
６回　第十课　家庭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
７回　第十课　家庭（２）　四．听课文做练习
８回　第十课　家庭（３）　五．泛听练习
９回　第十一课　北京见闻（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第十一课　北京见闻（２）　四．听课文做练习
１１回　第十一课　北京见闻（３）　五．泛听练习
１２回　第十二课　社会问题（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１３回　第十二课　社会问题（２）　四．听课文做练习
１４回　第十二课　社会问题（３）　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語中級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングⅡ	CHN227M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、１学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第八课　休闲娱乐（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第八课　休闲娱乐（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第九课　谈学习（１）　一．生词　二．格式范句　三．热身练习
４回　第九课　谈学习（２）　四．听课文做练习
５回　第九课　谈学习（３）　五．泛听练习
６回　第十课　家庭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
７回　第十课　家庭（２）　四．听课文做练习
８回　第十课　家庭（３）　五．泛听练习
９回　第十一课　北京见闻（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第十一课　北京见闻（２）　四．听课文做练习
１１回　第十一课　北京见闻（３）　五．泛听练习
１２回　第十二课　社会问题（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１３回　第十二课　社会问题（２）　四．听课文做练习
１４回　第十二课　社会问题（３）　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語中級リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor　張　景珊 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する応用的な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で広範な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で広範な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語中級リスニングII	CHN227M

授業の概要　/Course Description

中国学科２年生を対象に、１学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　基础编』（第二版）　毛　悦主编　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第八课　休闲娱乐（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
２回　第八课　休闲娱乐（２）　四．听课文做练习　五．泛听练习
３回　第九课　谈学习（１）　一．生词　二．格式范句　三．热身练习
４回　第九课　谈学习（２）　四．听课文做练习
５回　第九课　谈学习（３）　五．泛听练习
６回　第十课　家庭（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
７回　第十课　家庭（２）　四．听课文做练习
８回　第十课　家庭（３）　五．泛听练习
９回　第十一课　北京见闻（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１０回　第十一课　北京见闻（２）　四．听课文做练习
１１回　第十一课　北京见闻（３）　五．泛听练习
１２回　第十二课　社会问题（１）　一．生词　二．格式与范句　三．热身练习
１３回　第十二课　社会问题（２）　四．听课文做练习
１４回　第十二课　社会问题（３）　五．泛听练习
１５回　综合复习

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況１０％、小テスト２０％、期末試験７０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

中国語中級リスニングII 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語上級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の応用力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級総合 I	CHN300M

授業の概要　/Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、応用力を身につけることを目標とします。
基本の構文や語彙などは全て２年次までに習得しているはずですので、これまでの知識、能力を応用して、更なる表現力や理解力を身につけることを目指します。
中検２級合格相当のレベルに到達することを一つのめやすとし、応用問題にあたります。

教科書　/Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　レベル確認テスト
第２回　レベル確認テストに関する説明、応用問題1
第３回　応用問題1に関する説明、補充練習
第４回　応用問題2
第５回　応用問題2に関する説明、補充練習
第６回　応用問題3
第７回　応用問題3に関する説明、補充練習
第８回　中間試験
第９回　中間試験に関する説明、補充練習、応用問題4
第10回　応用問題4に関する説明、補充練習
第11回　応用問題5
第12回　応用問題5に関する説明、補充練習
第13回　応用問題6
第14回　応用問題6に関する説明、補充練習
第15回　補充問題

成績評価の方法　/Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）
※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など
　欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。
授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、１回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず１回目の授業から出席してください。

中国語上級総合I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合I 【昼】

担当者名 /Instructor　一木　達彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義・実習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の応用力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級総合 I	CHN300M

授業の概要　/Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、応用力を身につけることを目標とします。
基本の構文や語彙などは全て２年次までに習得しているはずですので、これまでの知識、能力を応用して、更なる表現力や理解力を身につけることを目指します。
中検２級合格相当のレベルに到達することを一つのめやすとし、応用問題にあたります。

教科書　/Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　レベル確認テスト
第２回　レベル確認テストに関する説明、応用問題1
第３回　応用問題1に関する説明、補充練習
第４回　応用問題2
第５回　応用問題2に関する説明、補充練習
第６回　応用問題3
第７回　応用問題3に関する説明、補充練習
第８回　中間試験
第９回　中間試験に関する説明、補充練習、応用問題4
第10回　応用問題4に関する説明、補充練習
第11回　応用問題5
第12回　応用問題5に関する説明、補充練習
第13回　応用問題6
第14回　応用問題6に関する説明、補充練習
第15回　補充問題

成績評価の方法　/Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）
※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など
欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。
授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、１回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず１回目の授業から出席してください。

中国語上級総合I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	1単位	2学期	講義・実習	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の応用力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級総合Ⅱ	CHN310M

授業の概要　/Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、さらなる応用力を身につけることを目標とします。
これまでの中国語に関する知識、能力を応用して、さらなる表現力や理解力を身につけることを目指します。
中検２級合格相当またはそれ以上のレベルに到達することを一つのめやすとし、毎回、応用問題にあたります。

教科書　/Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　レベル確認テスト
第２回　レベル確認テスト問題に関する説明、応用問題1
第３回　応用問題1に関する説明、補充練習
第４回　応用問題2
第５回　応用問題2に関する説明、補充練習
第６回　応用問題3
第７回　応用問題3に関する説明、補充練習
第８回　中間試験
第９回　中間試験問題に関する説明、応用問題4
第10回　応用問題4に関する説明、補充練習
第11回　応用問題5
第12回　応用問題5に関する説明、補充練習
第13回　応用問題6
第14回　応用問題6に関する説明、補充練習
第15回　補充問題

成績評価の方法　/Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）
※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など
　欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。
授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、１回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず１回目の授業から出席してください。

中国語上級総合II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級総合II 【昼】

担当者名 /Instructor　一木　達彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の応用力を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級総合Ⅱ	CHN310M

授業の概要　/Course Description

本授業は、上級レベルの中国語を総合的（聴く・話す・読む・書く）に習得し、さらなる応用力を身につけることを目標とします。
これまでの中国語に関する知識、能力を応用して、さらなる表現力や理解力を身につけることを目指します。
中検２級合格相当またはそれ以上のレベルに到達することを一つのめやすとし、毎回、応用問題にあたります。

教科書　/Textbooks

プリント配布またはWEB問題を利用

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　レベル確認テスト
第２回　レベル確認テスト問題に関する説明、応用問題1
第３回　応用問題1に関する説明、補充練習
第４回　応用問題2
第５回　応用問題2に関する説明、補充練習
第６回　応用問題3
第７回　応用問題3に関する説明、補充練習
第８回　中間試験
第９回　中間試験問題に関する説明、応用問題4
第10回　応用問題4に関する説明、補充練習
第11回　応用問題5
第12回　応用問題5に関する説明、補充練習
第13回　応用問題6
第14回　応用問題6に関する説明、補充練習
第15回　補充問題

成績評価の方法　/Assessment Method

レベル確認テスト（10%）+中間試験（45%）+期末試験（45%）
※課題：毎回の授業中に取り組む課題や宿題など
　欠席や遅刻、授業中の私語、授業に関係のないウェブページなどの閲覧などは減点の対象となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前または授業後に指定された範囲の問題（主に作文問題）を期限内に解き提出すること。
授業で間違った問題などは授業後に必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

この授業は習熟度別に授業を行うため、１回目にレベル確認テストを実施し、クラス分けを行います。
テストを受けない場合には、この授業を履修することができない場合もありますので、必ず１回目の授業から出席してください。

中国語上級総合II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

上級中国語、中国語総合力・応用力

中国語上級会話AI 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＡＩ	CHN320M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语高级教程』（姜丽萍主编；于天星 编）、高等教育出版社
『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動、計３パーツに分け、それぞれ１回の授業をかけ、２人の教員が交互で担当する。

第一周　第一课 让我们认识一下 前半部分
第二周　第一课话题: 如何打招呼
第三周　第二课 健康第一 后半部分
第四周　第三课 好东西人人爱吃 前半部分
第五周　第三课话题：饮食习惯
第六周　第四课 这种款式适合我吗 后半部分
第七周　第五课 你喜欢逛商店吗 前半部分
第八周　第四课话题: 网购
第九周　第六课 生活有时候就是琐碎的 后半部分
第十周　第七课 让我们轻松一下 前半部分
第十一周 第七课话题：娱乐文化
第十二周 第八课 计划赶不上变化 后半部分
第十三周 第九课 大手大脚还是精打细算 前半部分
第十四周 第九课话题：买房还是租房
第十五周 第十课 我想咨询一下 后半部分

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）…50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

中国語上級会話AI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

事前準備と事後復習をしっかりすること。
授業中に積極的に発言すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話AI 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＡＩ	CHN320M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语高级教程』（姜丽萍主编；于天星 编）、高等教育出版社
『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動、計３パーツに分け、それぞれ１回の授業をかけ、２人の教員が交互で担当する。

第一周　第一课 让我们认识一下 前半部分
第二周　第一课话题: 如何打招呼
第三周　第二课 健康第一 后半部分
第四周　第三课 好东西人人爱吃 前半部分
第五周　第三课话题：饮食习惯
第六周　第四课 这种款式适合我吗 后半部分
第七周　第五课 你喜欢逛商店吗 前半部分
第八周　第四课话题: 网购
第九周　第六课 生活有时候就是琐碎的 后半部分
第十周　第七课 让我们轻松一下 前半部分
第十一周 第七课话题：娱乐文化
第十二周 第八课 计划赶不上变化 后半部分
第十三周 第九课 大手大脚还是精打细算 前半部分
第十四周 第九课话题：买房还是租房
第十五周 第十课 我想咨询一下 后半部分

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）…50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

中国語上級会話AI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

事前準備と事後復習をしっかりすること。
授業中に積極的に発言すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話AII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ（彭腊梅）/ ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＡⅡ	CHN321M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。
「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语高级教程』（姜丽萍主编；于天星 编）、高等教育出版社
『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、２人の教員が交互で担当する。

第一周　第十一课 有话好商量 前半部分
第二周　第十一课话题: 城市交通
第三周　第十二课 我们生活在人群里 后半部分
第四周　第十三课 特别的经历 前半部分
第五周　第十三课话题：失败的教训
第六周　第十四课 我想去旅游 后半部分
第七周　第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 前半部分
第八周　第十三课话题: 艺术生活
第九周　第十六课 轻轻松松挣大钱 后半部分
第十周　第十七课 永远的爱情永远的家 前半部分
第十一周 第十七课话题：择偶
第十二周 第十八课 地球村 后半部分
第十三周 第十九课 我们的生活 前半部分
第十四周 第十九课话题：环保
第十五周 第二十课 今天有什么新闻 后半部分

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）…50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

中国語上級会話AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

事前準備と事後復習をしっかりすること。
授業中に積極的に発言すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

語る力　考える力

中国語上級会話AII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ（彭腊梅）/ ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＡⅡ	CHN321M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。
「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语高级教程』（姜丽萍主编；于天星 编）、高等教育出版社
『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、２人の教員が交互で担当する。

第一周　第十一课 有话好商量 前半部分
第二周　第十一课话题: 城市交通
第三周　第十二课 我们生活在人群里 后半部分
第四周　第十三课 特别的经历 前半部分
第五周　第十三课话题：失败的教训
第六周　第十四课 我想去旅游 后半部分
第七周　第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 前半部分
第八周　第十三课话题: 艺术生活
第九周　第十六课 轻轻松松挣大钱 后半部分
第十周　第十七课 永远的爱情永远的家 前半部分
第十一周 第十七课话题：择偶
第十二周 第十八课 地球村 后半部分
第十三周 第十九课 我们的生活 前半部分
第十四周 第十九课话题：环保
第十五周 第二十课 今天有什么新闻 后半部分

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（プレゼンテーション）…50%、
平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

中国語上級会話AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

事前準備と事後復習をしっかりすること。
授業中に積極的に発言すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

語る力　考える力

中国語上級会話ＢⅠ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　馬　叢慧 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＢⅠ	CHN322M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成　提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、上級会話Aと上級会話Bを担当する２人の教員が交互で進める。

	上級会話B	上級会話A
第一周	第一课 让我们认识一下 前半部分	第一课 让我们认识一下 后半部分
第二周	话题1: 如何打招呼	第二课 健康第一 前半部分
第三周	第二课 健康第一 后半部分	话题2: 养生之道
第四周	第三课 好东西人人爱吃 前半部分	第三课 好东西人人爱吃 后半部分
第五周	话题3：饮食习惯	第四课 这种款式适合我吗 前半部分
第六周	第四课 这种款式适合我吗 后半部分	话题4: 时尚与传统
第七周	第五课 你喜欢逛商店吗 前半部分	第五课 你喜欢逛商店吗 后半部分
第八周	话题5: 网购	第六课 生活有时候就是琐碎的 前半部分
第九周	第六课 生活有时候就是琐碎的 后半部	话题6：自己动手，丰衣足食
第十周	第七课 让我们轻松一下 前半部分	第七课 让我们轻松一下 后半部分
第十一周	话题7：娱乐文化	第八课 计划赶不上变化 前半部分
第十二周	第八课 计划赶不上变化 后半部分	话题8：理想与现实
第十三周	第九课 大手大脚还是精打细算 前半部分	第九课 大手大脚还是精打细算 后半部分
第十四周	话题9：买房还是租房	第十课 我想咨询一下 前半部分
第十五周	第十课 我想咨询一下 后半部分	话题10: 信息世界

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級会話BI【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入室してから中国語で話しましょう。

キーワード　/Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話ＢⅠ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　馬　叢慧 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＢⅠ	CHN322M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成　提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、上級会話Aと上級会話Bを担当する２人の教員が交互で進める。

	上級会話B	上級会話A
第一周	第一课 让我们认识一下 前半部分	第一课 让我们认识一下 后半部分
第二周	话题1: 如何打招呼	第二课 健康第一 前半部分
第三周	第二课 健康第一 后半部分	话题2: 养生之道
第四周	第三课 好东西人人爱吃 前半部分	第三课 好东西人人爱吃 后半部分
第五周	话题3：饮食习惯	第四课 这种款式适合我吗 前半部分
第六周	第四课 这种款式适合我吗 后半部分	话题4: 时尚与传统
第七周	第五课 你喜欢逛商店吗 前半部分	第五课 你喜欢逛商店吗 后半部分
第八周	话题5: 网购	第六课 生活有时候就是琐碎的 前半部分
第九周	第六课 生活有时候就是琐碎的 后半部	话题6：自己动手，丰衣足食
第十周	第七课 让我们轻松一下 前半部分	第七课 让我们轻松一下 后半部分
第十一周	话题7：娱乐文化	第八课 计划赶不上变化 前半部分
第十二周	第八课 计划赶不上变化 后半部分	话题8：理想与现实
第十三周	第九课 大手大脚还是精打细算 前半部分	第九课 大手大脚还是精打细算 后半部分
第十四周	话题9：买房还是租房	第十课 我想咨询一下 前半部分
第十五周	第十课 我想咨询一下 后半部分	话题10: 信息世界

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級会話ＢＩ【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教室に入室してから中国語で話しましょう。

キーワード　/Keywords

語る力、考える力

中国語上級会話ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　馬　叢慧 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＢⅡ	CHN323M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、上級会話Aと上級会話Bを担当する２人の教員が交互で進める。

	上級会話A	上級会話B
第一周	第十一课 有话好商量 前半部分	第十一课 有话好商量 后半部分
第二周	话题1: 城市交通	第十二课 我们生活在人群里 前半部分
第三周	第十二课 我们生活在人群里 后半部分	话题2: 为人处世
第四周	第十三课 特别的经历 前半部分	第十三课 特别的经历 后半部分
第五周	话题3：失败的教训	第十四课 我想去旅游 前半部分
第六周	第十四课 我想去旅游 后半部分	话题4: 读万卷书，行千里路
第七周	第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 前半部分	第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 后半部分
第八周	话题5: 艺术生活	第十六课 轻轻松松挣大钱 前半部分
第九周	第十六课 轻轻松松挣大钱 后半部分	话题6：求职
第十周	第十七课 永远的爱情永远的家 前半部分	第十七课 永远的爱情永远的家 后半部分
第十一周	话题7：择偶	第十八课 地球村 前半部分
第十二周	第十八课 地球村 后半部分	话题8：国际交流
第十三周	第十九课 我们的生活 前半部分	第十九课 我们的生活 后半部分
第十四周	话题9：环保	第二十课 今天有什么新闻 前半部分
第十五周	第二十课 今天有什么新闻 后半部分	话题10: 金融危机

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級会話ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業が始まったら中国語ムードに。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

語る力　考える力

中国語上級会話ＢⅡ【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　馬　叢慧 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の会話に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級会話ＢⅡ	CHN323M

授業の概要　/Course Description

さまざまな教室活動を通して、幅広い話題について、「会話」や「プレゼンテーション」などの「語る」力をアップさせることを目指す。「中国語上級会話A」と「中国語上級会話B」は共通の教科書を使用している。新しい語彙や文型を繰り返す練習することによって、会話力を確実に身に着けさせるだけでなく、１つの話題についてより深く考える機会を持たせることもその狙いである。

教科書　/Textbooks

『汉语口语速成 提高篇』（马箭飞主编；李小荣 编著）、北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『体验汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎課は①本文前半、②本文後半及び練習、③展開活動という３パーツから構成され、上級会話Aと上級会話Bを担当する２人の教員が交互で進める。

	上級会話A	上級会話B
第一周	第十一课 有话好商量 前半部分	第十一课 有话好商量 后半部分
第二周	话题1: 城市交通	第十二课 我们生活在人群里 前半部分
第三周	第十二课 我们生活在人群里 后半部分	话题2: 为人处世
第四周	第十三课 特别的经历 前半部分	第十三课 特别的经历 后半部分
第五周	话题3：失败的教训	第十四课 我想去旅游 前半部分
第六周	第十四课 我想去旅游 后半部分	话题4: 读万卷书，行千里路
第七周	第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 前半部分	第十五课 谁能说自己不喜欢艺术 后半部分
第八周	话题5: 艺术生活	第十六课 轻轻松松挣大钱 前半部分
第九周	第十六课 轻轻松松挣大钱 后半部分	话题6：求职
第十周	第十七课 永远的爱情永远的家 前半部分	第十七课 永远的爱情永远的家 后半部分
第十一周	话题7：择偶	第十八课 地球村 前半部分
第十二周	第十八课 地球村 后半部分	话题8：国际交流
第十三周	第十九课 我们的生活 前半部分	第十九课 我们的生活 后半部分
第十四周	话题9：环保	第二十课 今天有什么新闻 前半部分
第十五周	第二十课 今天有什么新闻 后半部分	话题10: 金融危机

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%、平常点（授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語上級会話ＢⅡ【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業が始まったら中国語ムードに。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

語る力　考える力

中国語上級作文I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　篠原　征子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文Ⅰ	CHN324M

授業の概要　/Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

教科書　/Textbooks

『发展汉语　高级写作I』（第二版）　岑玉珍 編著　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　　祝 秉耀　編著　　北京语言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 第１課 我和汉语 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《我和汉语》
（３）边读边练：《我学汉语的原因》
2回 第１課 我和汉语 （３）边读边练：《我学汉语的原因》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
3回 第２課 往事与朋友 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《我的一个朋友》
4回 第２課 往事与朋友
（３）边读边练：《高山流水遇知音——俞伯牙和钟子期的故事》
5回 第２課 往事与朋友 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点
6回 第３課 童年与梦想 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《童年的回忆》
7回 第３課 童年与梦想 （３）边读边练：《狮身人面怪物的谜语》
8回 第３課 童年与梦想 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点
9回 第４課 异域风情 上次作文讲评 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《说不尽的西安古城》 （３）边读边练：《伦敦印象》
10回 第４課 异域风情 （３）边读边练：《伦敦印象》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
11回 第５課 热爱美食 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《我是个"小馋猫"》
12回 第５課 热爱美食 （３）边读边练：《中餐和西餐》
13回 第５課 热爱美食 （３）边读边练：《中餐和西餐》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
14回 第６課 电影和明星 上次作文讲评 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《我喜欢电影明星成龙》（３）边读边练：《我喜欢篮球明星姚明》
15回 第６課 电影和明星 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：50%　　課題：40%　　日常の授業への取り組み：10%

中国語上級作文I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分を自分より書かなくてはならない、これは平常点の評価項目の一つである。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文I 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　篠原　征子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義・実習	3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文 I	CHN324M

授業の概要　/Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

教科書　/Textbooks

『发展汉语　高级写作I』（第二版）　岑玉珍 編著　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　　祝 秉耀　編著　　北京语言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 第１課 我和汉语 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《我和汉语》
（３）边读边练：《我学汉语的原因》
2回 第１課 我和汉语 （３）边读边练：《我学汉语的原因》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
3回 第２課 往事与朋友 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《我的一个朋友》
4回 第２課 往事与朋友
（３）边读边练：《高山流水遇知音——俞伯牙和钟子期的故事》
5回 第２課 往事与朋友 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点
6回 第３課 童年与梦想 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《童年的回忆》
7回 第３課 童年与梦想 （３）边读边练：《狮身人面怪物的谜语》
8回 第３課 童年与梦想 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点
9回 第４課 异域风情 上次作文讲评 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《说不尽的西安古城》 （３）边读边练：《伦敦印象》
10回 第４課 异域风情 （３）边读边练：《伦敦印象》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
11回 第５課 热爱美食 上次作文讲评 （１）本课导入
（２）范文讨论与学习：《我是个"小馋猫"》
12回 第５課 热爱美食 （３）边读边练：《中餐和西餐》
13回 第５課 热爱美食 （３）边读边练：《中餐和西餐》 （４）参考练习
（５）本课写作知识要点
14回 第６課 电影和明星 上次作文讲评 （１）本课导入 （２）范文讨论与学习：《我喜欢电影明星成龙》（３）边读边练：《我喜欢篮球明星姚明》
15回 第６課 电影和明星 （４）参考练习 （５）本课写作知识要点

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：50%　　課題：40%　　日常の授業への取り組み：10%

中国語上級作文I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分を自分より書かなくてはならない、これは平常点の評価項目の一つである。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文II 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　篠原　征子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義・実習	3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文Ⅱ	CHN325M

授業の概要　/Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

教科書　/Textbooks

『发展汉语　高级写作I』（第二版）　岑玉珍 編著　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　　祝 秉耀　編著　　北京语言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第7課 社会的变迁　上次作文讲评　（1）本课导入
（2）范文讨论与学习：读《先人们的快乐》有感
2回　第7課 社会的变迁
（3）边读边练：《我能不能帮助可怜的祥林嫂——<祝福>读后感》
3回　第7課 社会的变迁　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
4回　第8課 生命的意义　上次作文讲评（1）本课导入（2）范文讨论与学习：
《关于生命的思考》　（3）边读边练：《关于生命的再思考》
5回　第8課　生命的意义　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
6回　第9課 父母与孩子　上次作文讲评　（1）本课导入（2）范文讨论与学习：《鲁迅与儿子、父亲》
7回　第9課 父母与孩子　（3）边读边练：《只要努力就行》
8回　第9課　父母与孩子　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
9回　第10課 生活需要挑战　上次作文讲评（1）本课导入（2）范文讨论与学习：《生活需要挑战》（3）边读边练：《家庭变小，影响环境》
10回　第10課 生活需要挑战（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
11回　第11課 幸福是什么　上次作文讲评　（1）本课导入（2）范文讨论与学习
《幸福感与经济发展》　（3）边读边练：《知足者常乐》
12回　第11課 幸福是什么　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
13回　第12課 互联网和社会生活　上次作文讲评（1）本课导入
（2）范文讨论与学习：《大学生上网目的的调查》
14回　第12課 互联网和社会生活　（3）边读边练：《国民阅读情况调查分析》
15回　第12課 互联网和社会生活　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：50%　　課題：40%　　日常の授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分を自分より書かなくてはならない。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

中国語上級作文II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor　篠原　征子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義・実習	3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語の作文に関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題について文章を書け、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級作文Ⅱ	CHN325M

授業の概要　/Course Description

上級作文は中級作文に続き、応用文から小論文までのあらゆる形態の中国語文章の書き方を学び、一般的完全な中国語文章、中国語の小論文が書ける能力を養う。この授業を通して、与えた中国語の文章を中国語で纏めることができるし、自分の意見や考え及び特定の話題を中国語で文の筋がよく通っているように且つ正確に表現できる。

教科書　/Textbooks

『发展汉语　高级写作I』（第二版）　岑玉珍 編著　　北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『汉语写作教程　二年级教材』趙 建華　　祝 秉耀　編著　　北京语言大学出版社
「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第7課 社会的变迁　上次作文讲评　（1）本课导入
（2）范文讨论与学习：读《先人们的快乐》有感
2回　第7課 社会的变迁
（3）边读边练：《我能不能帮助可怜的祥林嫂——<祝福>读后感》
3回　第7課 社会的变迁　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
4回　第8課 生命的意义　上次作文讲评（1）本课导入（2）范文讨论与学习：
《关于生命的思考》　（3）边读边练：《关于生命的再思考》
5回　第8課　生命的意义　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
6回　第9課 父母与孩子　上次作文讲评　（1）本课导入（2）范文讨论与学习：《鲁迅与儿子、父亲》
7回　第9課 父母与孩子　（3）边读边练：《只要努力就行》
8回　第9課　父母与孩子　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
9回　第10課 生活需要挑战　上次作文讲评（1）本课导入（2）范文讨论与学习：《生活需要挑战》（3）边读边练：《家庭变小，影响环境》
10回　第10課 生活需要挑战（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
11回　第11課 幸福是什么　上次作文讲评　（1）本课导入（2）范文讨论与学习
《幸福感与经济发展》　（3）边读边练：《知足者常乐》
12回　第11課 幸福是什么　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点
13回　第12課 互联网和社会生活　上次作文讲评（1）本课导入
（2）范文讨论与学习：《大学生上网目的的调查》
14回　第12課 互联网和社会生活　（3）边读边练：《国民阅读情况调查分析》
15回　第12課 互联网和社会生活　（4）参考练习　（5）本课写作知识要点

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験：50%　　課題：40%　　日常の授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前予習と事後復習をしなければならない。事前に教科書の本文総括、「试一试・写一写」、「边读边练」の部分を自分より書かなくてはならない。事後に誤った作文をもう一度書き直さなければならない。

中国語上級作文II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進捗状況によって、授業の調整をすることがある。

キーワード　/Keywords

中国、作文、コミュニケーション

中国語上級リスニングI 【昼】

担当者名 /Instructor　王　雲燕 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングⅠ	CHN326M

授業の概要　/Course Description

中国学科の３年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一课 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
２回　第一课 校园生活 四、听课文做练习
３回　第二课 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
４回　第二课 饮食 四、听课文做练习
５回　第三课 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
６回　第三课 购物 四、听课文做练习
７回　第四课 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
８回　第四课 寻求帮助 四、听课文做练习
９回　第五课 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１０回　第五课 休闲娱乐 四、听课文做练习
１１回　第六课 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１２回　第六课 交通状况 四、听课文做练习
１３回　第七课 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１４回　第七课 婚姻与家庭 四、听课文做练习
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・・５０％　小テスト・・・２０％　日常の学習状況・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングI 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語上級リスニングI 【昼】

担当者名 /Instructor　王　雲燕 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングⅠ	CHN326M

授業の概要　/Course Description

中国学科の３年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一课 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
２回　第一课 校园生活 四、听课文做练习
３回　第二课 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
４回　第二课 饮食 四、听课文做练习
５回　第三课 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
６回　第三课 购物 四、听课文做练习
７回　第四课 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
８回　第四课 寻求帮助 四、听课文做练习
９回　第五课 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１０回　第五课 休闲娱乐 四、听课文做练习
１１回　第六课 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１２回　第六课 交通状况 四、听课文做练习
１３回　第七课 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
１４回　第七课 婚姻与家庭 四、听课文做练习
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・・５０％　小テスト・・・２０％　日常の学習状況・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングI 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語上級リスニングII 【昼】

専門教育科目
必修科目
専攻外国語

担当者名 /Instructor　王　雲燕 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングII	CHN327M

授業の概要　/Course Description

中国学科３年生を対象に、１学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
２回　第八课 体育运动 四、听课文做练习
３回　第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
４回　第九课 参观旅游 三、热身练习
５回　第九课 参观旅游 四、听课文做练习
６回　第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
７回　第十课 疾病与治疗 三、热身练习
８回　第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
９回　第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
１０回　第十一课 职业工作 三、热身练习
１１回　第十一课 职业工作 四、听课文做练习
１２回　第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
１３回　第十二课 健康 三、热身练习
１４回　第十二课 健康 四、听课文做练习
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・・５０％　小テスト・・・２０％　日常の学習状況・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングII 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

中国語上級リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor　王　雲燕 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・実習　クラス /Class　3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	中国語のリスニングに関する高度な技能を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国語で知的な話題を聞き取り、自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語で知的な話題について、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語上級リスニングII	CHN327M

授業の概要　/Course Description

中国学科３年生を対象に、１学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

『汉语听力速成　提高编』（第二版）毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
２回　第八课 体育运动 四、听课文做练习
３回　第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
４回　第九课 参观旅游 三、热身练习
５回　第九课 参观旅游 四、听课文做练习
６回　第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
７回　第十课 疾病与治疗 三、热身练习
８回　第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
９回　第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
１０回　第十一课 职业工作 三、热身练习
１１回　第十一课 职业工作 四、听课文做练习
１２回　第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
１３回　第十二课 健康 三、热身练习
１４回　第十二课 健康 四、听课文做练习
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・・５０％　小テスト・・・２０％　日常の学習状況・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

必ず単語を覚えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

中国語上級リスニングII 【昼】

キーワード　/Keywords
リスニング　　聴力　　単語

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

＜中国語圏文学研究＞
本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料捜索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

＊研究演習A(前期）：指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います（担当者は発表用の資料を作成します）。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯（i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在）の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。
＊研究演習B(後期）：仮テーマに基づいて文献を選択し、その内容を紹介してもらいます。その後、短編作品の輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書　/Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○）　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
・ 中国文芸研究会編『図説　中国20世紀文学　解説と資料』（白帝社、1995年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
○銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』（北京大学出版社、1998年）
※その他については授業内で随時紹介します。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

研究演習Ａ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス：中国現代文学を読む視点：ジェンダー・日本・サイノフォン〔講義〕、担当決め
第２回　楊おばさんとその時代〔講義〕、魯迅『故郷』精読（１）
第３回　魯迅『故郷』精読（２）
第４回　魯迅『故郷』精読（３）
第５回　魯迅『故郷』精読（４）
第６回　魯迅『故郷』精読（５）
第７回　魯迅作品の延伸閲読、現代文学における女性表象〔講義〕
第８回　魯迅『故郷』精読（５）
第９回　魯迅『故郷』精読（６）
第10回　魯迅『故郷』精読（７）
第11回　魯迅『故郷』精読（８）
第12回　魯迅作品の延伸閲読
第13回　まとめ、現代文学における女性表象２〔講義〕
第14回　仮・研究テーマの発表（１）
第15回　仮・研究テーマの発表（２）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論　50%、中間・学期末のレポート　50%

※討論は担当回以外での発言も含みます。
※発表した仮・研究テーマと関係がある書籍を各自一冊決定し、夏休み明けにその内容を紹介してもらいます。
※学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめたものを提出してもらいます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・担当者以外も必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意　/Remarks

・担当者を決めて輪読します。報告担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジュメを作成してください。
・考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する（と思われる）作品または関連図書を提示してください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。
・中国作品講読IIIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

< 中国古典文学研究 >

１．概要
　本演習（ゼミ）では中国の古典文学をテーマとし、中国でも日本でも人気のある『三国志演義』を取り上げます。
『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説、いわゆる白話小説は、明清時代にたくさん作られ人々に読まれました。明清時代を代表する文学です。
　この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。とはいえ単に訳せば良いのではありません。訳すに当たっては、使われている言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを理解しなければなりません。授業ではそういう所も説明してもらいます。そして訳や説明についてみんなで検討します。2019年度は蜀成立以降の時期を読む予定です。
　白話は文言よりは現代中国語に近いのですが違うところもあり、初めは読みにくく思うかもしれません。ですがすぐに慣れます。もし文言文に興味のある人がいれば、その人には歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文を読んでもらうかもしれません。
　本演習を通して古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は、『三国志演義』はもちろんですが、他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

２．目標
（１）作品に関して
①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤三国時代や明代の社会や文化等について理解する。⑥古典文学の研究方法を学ぶ。
（２）発表に関して
①聞いている人が理解しやすい説明をする。②質問やコメントに対し真摯にこたえる。③発表に対して質問やコメントをする。
★担当者が発表するだけでは、この授業は成立しません。
（３）課題作成に関して
①気になる点や問題点を見つける。②関連する資料を収集する。③決められた文字数でまとめる。
など

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

研究演習Ａ 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
(2)中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
○『中国文学を学ぶ人のために』(興膳宏編、世界思想社、1991年)
○『教養のための中国古典文学史』(松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
○『漢詩のレッスン』(川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年)
×『中国近世小説への招待–才子と佳人と豪傑と』(大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年)
○『中国の五大小説 (上・下)』(井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008～2009年)
など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 【講義】三国時代について–歴史・文学–
第２回 【講義】『三国志』『三国志演義』について
第３回 【演習】作品の精読(1)
第４回 【演習】作品の精読(2)
第５回 【演習】作品の精読(3)
第６回 【演習】作品の精読(4)
第７回 【演習】作品の精読(5)
第８回 【演習】作品の精読(6)
第９回 【演習】作品の精読(7)
第10回 【演習】作品の精読(8)
第11回 【演習】作品の精読(9)
第12回 【演習】作品の精読(10)
第13回 【演習】作品の精読(11)
第14回 【演習】作品の精読(12)
第15回 【演習】作品の精読(13)
※『三国演義』(全2冊) (人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年) を底本とし、担当を決めて作品を読んでいきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】
①発表者–自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
②発表者以外–発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
【事後】
①発表者–質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
②発表者以外–自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

１．この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
２．人が聞いてわかる発表にするにはどうすれば良いか、考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	演習	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

中国語の普通話と方言音との関係を中心に、中国諸方言の多様性について理解を深めると同時に、中国語音声学・音韻学についての基礎的な知識を獲得すること、また問題意識を持ち問題発見能力を向上させることを目的とする。

教科書　/Textbooks

趙元任著「我的語言自伝」（授業時に資料を配布する）中里見敬　編

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

橋本萬太郎　「訳者あとがき」（ユアン・レン・チャオ『言語学入門---言語と記号システム』　岩波書店　1980年）
小川環樹「趙元任の追憶」（小川環樹著作集　第4巻　筑摩書房　1997年）
佐藤昭　『概説　中国語音声学』　2014年
大島正二　『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店　2011年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「我の語言自伝」輪読
３回　「我の語言自伝」輪読
４回　「我の語言自伝」輪読
５回　「我の語言自伝」輪読
６回　「我の語言自伝」輪読
７回　「我の語言自伝」輪読
８回　「我の語言自伝」輪読
９回　「我の語言自伝」輪読
１０回　レポートの書き方
１１回　図書館ツアー
１２回　「我の語言自伝」輪読
１３回　「我の語言自伝」輪読
１４回　「我の語言自伝」輪読
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（発表、小テストなど）･･･５０%、レポート･･･５０%

研究演習Ａ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講生は毎回発表（発音練習、語彙調べ、日本語訳）ができるように事前に準備（予習）をしておくこと。
また、演習の問題については、中国語学の概説書や研究書に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べるなどして、興味関心を広げること。

履修上の注意　/Remarks

・欠席をする場合は必ず事前にメールで連絡をすること。
・締め切りを過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

これまでの中国語の発音をもう一度再確認する機会にしてください。
授業での予習はきちんと行ってください。その際に、疑問に思ったことなどは授業で積極的に提出してましょう。討論を通して問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード　/Keywords

言語　漢語　方言　音韻　音声

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。
ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。

教科書　/Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』光文社新書　2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　テキスト選定、レジュメ作成の方法について
3回　テキスト輪読、ディスカッション（１）
4回　テキスト輪読、ディスカッション（２）
5回　テキスト輪読、ディスカッション（３）
6回　テキスト輪読、ディスカッション（４）
7回　テキスト輪読、ディスカッション（５）
8回　テキスト輪読、ディスカッション（６）
9回　テキスト輪読、ディスカッション（７）
10回　テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方（１）
11回　テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方（２）
12回　テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方（３）
13回　テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方（４）
14回　テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方（５）
15回　まとめ
＊内容については進捗状況に応じて変動することがある。

研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

成績評価の方法　/Assessment Method

受講態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告　50%　　ディスカッションへの参加状況　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：分担部分だけでなく、輪読の対象文献には全員が目を通してゼミに臨むこと。
事後：ゼミでの議論やこれまでに修得した知識を用いて経済記事や文献を読むよう心がけること。

履修上の注意　/Remarks

中国経済論III、時事中国語講読III、その他各国・地域の経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより理解を深めることを目的とする。
本演習では、主として「語用論」という言語学の角度から「ことば」を分析していく。「ことば」は絶えず変化しており、話す相手によって、場所によって、時によって、使用する「ことば」も変わる。
真の言語コミュニケーション能力をつけるためには、文法知識（どのように文を組み立てるか）はもちろんのこと、語用論的知識（ことばをどのように用いるか）も欠かせない。
本演習では主に「語用論」レベルで、日本語と中国語の表現等について比較・対照を行うが、英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書　/Textbooks

資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に、随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎授業のはじめに中国語で話す時間を設ける。現代中国語で書かれた文学作品（小説等）を用いて、文法や表現などの問題を受講者それぞれが見つけ解決していく。さらに、日本語等との比較・対照を行い、日本語と中国語の共通点、相違点を見つける訓練を行なう。

第１回　対照研究とは何か（概説）
第２回　語用論とは何か（概説）
第３回　作品講読と問題点の発見・解決１
第４回　作品講読と問題点の発見・解決２
第５回　作品講読と問題点の発見・解決３
第６回　作品講読と問題点の発見・解決４
第７回　作品講読と問題点の発見・解決５
第８回　作品講読と問題点の発見・解決６
第９回　作品講読と問題点の発見・解決７
第10回　作品講読と問題点の発見・解決８
第11回　学術論文の読み方（概説）
第12回　学術論文講読と解釈１
第13回　学術論文講読と解釈２
第14回　学術論文講読と解釈３
第15回　まとめ

研究演習Ａ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題（毎回の質問事項提出など）…50％、発表（プレゼンテーションと発表資料）…30％、受講態度（積極的な発言）等…20％
＊課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは減点の対象となる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

文学作品、学術論文の講読の際は、毎回、事前に読み、課題（質問事項等）の事前提出が必要である。きちんと授業前に講読を終え、期限内（通常授業の２日前）に課題を提出すること。また、毎回、授業の内容を復習し、次の課題に生かすこと。

履修上の注意　/Remarks

本演習では言語学の知識が必要となる。授業でも取り上げるが、受講前に基本的な言語学の知識を身につけておくことが望ましい。参考文献等を紹介するので、受講前に読んでおきたい場合は、担当者まで問い合わせること。
なお、本演習（ゼミ）は、４年次に卒業作品（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

主にMoodleを利用する。

キーワード　/Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

教科書　/Textbooks

日中友好協会編『日本は中国でなにをしたか』本の泉社、２０１８年、６００円
笠原十九司『南京事件』岩波新書、１９９７年、８６４円
吉見義明『従軍慰安婦』岩波新書、１９９５年、８６４円
姫田光義『「三光作戦」とは何だったか−中国人の見た日本の戦争』岩波ブックレット、１９９５年、品切れ

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田中仁等『新・図説中国近現代史』(法律文化社、２０１２年、２９００円)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　受講説明
２回　中国侵略と加害の歴史 ①１９１５～１９３１年
３回　中国侵略と加害の歴史 ②１９３２～１９４５年
４回　南京事件研究：①東京裁判と南京軍事法廷、南京爆撃
５回　南京事件研究：②上海派遣軍の南京進軍
７回　南京事件研究：③南京近郊農村における被害
８回　南京事件研究：④南京陥落
９回　南京事件研究：⑤南京掃討戦の実相と事件の全貌
１０回 従軍慰安婦研究：①日中戦争期中国における慰安所の設置
１１回 従軍慰安婦研究：②アジア太平洋戦争期における慰安所の拡大
１２回 従軍慰安婦研究：③各地域における慰安婦の徴集と管理
１３回 従軍慰安婦研究：④国際法と慰安婦
１４回 三光作戦研究：①三光作戦の開始
１５回 三光作戦研究：①三光作戦と無人区

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

夏休みに研究レポートの執筆を課題とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。
中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハングルの論文を読ませることもある。
漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書 /Textbooks

1)『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社,2005年(簡体字表記)
2)張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所,1978年(繁体字表記)
3)『清実録』(筆写本)
講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし
韓国語論文を選択する学生には別途論文を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　漢文資料の講読および歴史的検討
3　漢文資料の講読および歴史的検討
4　漢文資料の講読および歴史的検討
5　漢文資料の講読および歴史的検討
6　漢文資料の講読および歴史的検討
7　漢文資料の講読および歴史的検討
8　漢文資料の講読および歴史的検討
9　漢文資料の講読および歴史的検討
10　漢文資料の講読および歴史的検討
11　漢文資料の講読および歴史的検討
12　漢文資料の講読および歴史的検討
13　漢文資料の講読および歴史的検討
14　漢文資料の講読および歴史的検討
15　漢文資料の講読および歴史的検討

研究演習Ａ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

漢文資料読解能力60％
歴史的分析能力40％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が摑めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べること。

履修上の注意　/Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来られないと思われるので、他の演習の履修を奨める。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ａ	SEM311M

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

１．中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
２．『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編（中国書店）O

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　資料を配布
２回　発表
３回　発表
４回　画像を見る
５回　発表
６回　発表
７回　資料を配布
８回　発表
９回　発表
１０回　画像を見る
１１回　発表
１２回　発表
１３回　資料を配布
１４回　発表
１５回　発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・ 50%　　日常の学習状況・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

時事　新聞　雑誌　記事　映画

研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

＜中国語圏文学研究＞
本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料捜索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

＊研究演習A(前期）：指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います（担当者は発表用の資料を作成します）。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯（i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在）の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。
＊研究演習B(後期）：仮テーマに基づいて文献を選択し、その内容を紹介してもらいます。その後、短編作品の輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書　/Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
・ 中国文芸研究会編『図説　中国20世紀文学　解説と資料』（白帝社、1995年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
○銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』（北京大学出版社、1998年）
※その他については授業内で随時紹介します。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

研究演習Ｂ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、夏季休暇課題の発表（１）
第２回　夏季休暇課題の発表（２）
第３回　夏季休暇課題の発表（３）
第４回　図書館ツアー、作品の選定、発表順の決定
第５回　選択テーマによる作品の精読
第６回　選択テーマによる作品の精読
第７回　選択テーマによる作品の精読
第８回　選択テーマによる作品の精読
第９回　選択テーマによる作品の精読
第10回　選択テーマによる作品の精読
第11回　選択テーマによる作品の精読
第12回　選択テーマによる作品の精読
第13回　選択テーマによる作品の精読
第14回　まとめ
第15回　本テーマの発表、卒論報告会でのディスカッション

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論　50%、中間・学期末のレポート　50%

※討論は担当回以外での発言も含みます。
※学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめたものを提出してもらいます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意　/Remarks

・担当者を決めて輪読します。報告担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジュメを作成してください。
・考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する（と思われる）作品または関連図書を提示してください。
・辞書必携。授業中に辞書を使います。
・中国作品講読IIIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

＜中国古典文学研究＞

１．概要
　本演習（ゼミ）では中国の古典文学をテーマとし、中国でも日本でも人気のある『三国志演義』を取り上げます。
『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説、いわゆる白話小説は、明清時代にたくさん作られ人々に読まれました。明清時代を代表する文学です。
　この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。とはいえ単に訳せば良いのではありません。訳すに当たっては、使われている言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを理解しなければなりません。授業ではそういう所も説明してもらいます。そして訳や説明についてみんなで検討します。2019年度は蜀成立以降の時期を読む予定です。
　白話は文言よりは現代中国語に近いのですが違うところもあり、初めは読みにくく思うかもしれません。ですがすぐに慣れます。もし文言文に興味のある人がいれば、その人には歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文を読んでもらうかもしれません。
　本演習を通して古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は、『三国志演義』はもちろんですが、他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

２．目標
（１）作品に関して
①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤三国時代や明代の社会や文化等について理解する。⑥古典文学の研究方法を学ぶ。
（２）発表に関して
①聞いている人が理解しやすい説明をする。②質問やコメントに対し真摯にこたえる。③発表に対して質問やコメントをする。
★担当者が発表するだけでは、この授業は成立しません。
（３）課題作成に関して
①気になる点や問題点を見つける。②関連する資料を収集する。③決められた文字数でまとめる。
など

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

研究演習Ｂ 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。
(2)中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。
○『中国文学を学ぶ人のために』(興膳宏編、世界思想社、1991年)
○『教養のための中国古典文学史』(松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年)
○『漢詩のレッスン』(川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年)
×『中国近世小説への招待–才子と佳人と豪傑と』(大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年)
○『中国の五大小説 (上・下)』(井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008～2009年)
など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 【演習】作品の精読(1)
第２回 【演習】作品の精読(2)
第３回 【演習】作品の精読(3)
第４回 【演習】作品の精読(4)
第５回 【演習】作品の精読(5)
第６回 【演習】作品の精読(6)
第７回 【演習】作品の精読(7)
第８回 【演習】作品の精読(8)
第９回 【演習】作品の精読(9)
第10回 【演習】作品の精読(10)
第11回 【演習】作品の精読(11)
第12回 【演習】作品の精読(12)
第13回 【演習】作品の精読(13)
第14回 【演習】作品の精読(14)
第15回 【演習】作品の精読(15)
※『三国演義』(全2冊) (人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年) を底本とし、担当を決めて作品を読んでいきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】
①発表者–自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
②発表者以外–発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
【事後】
①発表者–質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
②発表者以外–自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

１．この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
２．人が聞いてわかる発表にするにはどうすれば良いか、考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

毎回中国語学に関する短い エッセイを読み、中国語の音声・文法・語彙におけるさまざまな言語現象について討論を行う。ディスカッションや発表を通して、問題意識を持ちつつ課題を発見する力を高めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

①『ことばのしくみ－中国語学読本II - 』内田慶市・相原茂編　朝日出版社　2016年　（1800円＋税）
②必要に応じて関連する資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション
第２回 “谢谢”
第３回 点头是表示赞同吗？
第４回 不分梨的故事
第５回 生前·死前（Ⅰ）
第６回 生前·死前（Ⅱ）
第７回 语言和表情达意（Ⅰ）
第８回 语言和表情达意（Ⅱ）
第９回 “考研究生”到底谁去考 - - - 语感的培养
第１０回 性格演员和多功能演员 - - - 词类与句法成分的对应关系
第１１回 疑和问（Ⅰ）
第１２回 図書館ツアー
第１３回 疑和问（Ⅱ）
第１４回 方言与普通话
第１５回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（発表、小テストなど）･･･５０％、レポート･･･５０％

研究演習Ｂ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講生は発表（音読、日本語訳）ができるように事前に準備（予習）をしておくこと。
また、演習の問題については、中国語学の概説書や研究書（授業時に紹介）に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べ、興味関心を広げること。

履修上の注意　/Remarks

・欠席の場合は事前にメールで連絡すること。
・締め切りを過ぎての課題提出は受けつけない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語ということばの法則性をこの授業を通して自分なりに発見しましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　法則性　問題発見　音声　文法　語彙

研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。

教科書　/Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得（１）
3回　テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得（２）
4回　テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得（３）
5回　テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得（４）
6回　テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得（５）
7回　テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得（１）
8回　テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得（２）
9回　テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得（３）
10回　テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得（４）
11回　テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得（５）
12回　研究テーマ選定、分析、ディスカッション（１）
13回　研究テーマ選定、分析、ディスカッション（２）
14回　研究テーマ選定、分析、ディスカッション（３）
15回　まとめ
＊内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告　50%　　ディスカッションへの参加状況　50%

研究演習Ｂ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

中国経済論III、時事中国語講読III、その他各国・地域経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより深めることを目的とする。主として「語用論」という言語学の角度から「ことば」を分析していく。
特に、当該分野における日本語及び簡単な中国語の学術論文を読み、中国語の語法や表現等についての理解を深め、日中両言語の比較・対照の方法を身につける。英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書　/Textbooks

資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

中国語作品（映像作品の台本・字幕、または小説）講読を通して、語用論的な文法や表現などの問題を受講者それぞれが見つけ解決していく。さらに、日本語等との比較・対照を行い、日本語と中国語の共通点、相違点を見つける訓練を行なう。疑問点等に関連する文献を読むこともある。

第１回　オリエンテーション、役割分担
第２回　中国語作品講読と問題点の発見・解決１
第３回　中国語作品講読と問題点の発見・解決２
第４回　学術論文講読と解釈１
第５回　学術論文講読と解釈２
第６回　中国語作品講読と問題点の発見・解決３
第７回　中国語作品講読と問題点の発見・解決４
第８回　学術論文講読と解釈３
第９回　学術論文講読と解釈４
第10回　中国語作品講読と問題点の発見・解決５
第11回　中国語作品講読と問題点の発見・解決６
第12回　学術論文講読と解釈５
第13回　学術論文講読と解釈６
第14回　中国語作品講読と問題点の発見・解決７
第15回　学術論文講読と解釈７

成績評価の方法　/Assessment Method

発表（プレゼンテーションと発表資料）…30%、課題（毎回の質問事項提出）…50%、受講態度（積極的な発言）等…20%
＊課題提出の遅延や未提出、欠席、遅刻などは減点の対象となる。

研究演習Ｂ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

文学作品、学術論文の講読の際は、毎回、事前に読み、課題（質問事項等）の事前提出が必要である。きちんと授業前に講読を終え、期限内（通常授業の２日前）に課題を提出すること。また、毎回、授業の内容を復習し、次の課題に生かすこと。

履修上の注意　/Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習（ゼミ）は、４年次に卒業作品（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

主にMoodleを利用する。

キーワード　/Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

教科書　/Textbooks

吉田裕『日本人の戦争観–戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、２００５年、１１６６円
荒井信一『歴史和解は可能か』岩波書店、２００６年、品切れ

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○田中仁等『新・図説中国近現代史』（法律文化社、２０１２年、２９００円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　受講説明
２回　夏休み課題の学生報告①
３回　夏休み課題の学生報告②
４回　夏休み課題の学生報告③
５回　夏休み課題の学生報告④
６回　日本人の歴史認識研究：①戦後占領期における歴史意識の形成
７回　日本人の歴史認識研究：②講和と歴史認識
８回　日本人の歴史認識研究：③１９５０～７０年代における歴史認識
９回　日本人の歴史認識研究：④１９８０年代以降における歴史認識
１０回 歴史和解研究：①日本における過去の克服
１１回 歴史和解研究：②朝鮮半島における過去の封印
１２回 歴史和解研究：③中国における日中戦争の記憶
１３回 歴史和解研究：④アジア太平洋戦争の記憶
１４回 総合討論：戦争加害と歴史認識
１５回 総合討論：②歴史認識と東アジア

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。
中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハングルの論文を読ませることもある。
漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書　/Textbooks

1)『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社,2005年(簡体字表記)
2)張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所,1978年(繁体字表記)
3)『清実録』(筆写本)
講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし
韓国語論文を選択する学生には別途論文を指定する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　漢文資料の講読および歴史的検討
3　漢文資料の講読および歴史的検討
4　漢文資料の講読および歴史的検討
5　漢文資料の講読および歴史的検討
6　漢文資料の講読および歴史的検討
7　漢文資料の講読および歴史的検討
8　漢文資料の講読および歴史的検討
9　漢文資料の講読および歴史的検討
10　漢文資料の講読および歴史的検討
11　漢文資料の講読および歴史的検討
12　漢文資料の講読および歴史的検討
13　漢文資料の講読および歴史的検討
14　漢文資料の講読および歴史的検討
15　漢文資料の講読および歴史的検討

研究演習Ｂ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

漢文資料読解能力60％
歴史的分析能力40％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が摑めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べること。

履修上の注意　/Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来られないと思われるので、他の演習の履修を奨める。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国及び中国語圏の専門分野について、他者と協働し、かつ独自の見解を持ち、目標を設定し、コミュニケーション力を発揮できる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

研究演習Ｂ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、１学期の引き続き、中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書　/Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
２．『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編（中国書店）O

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　資料を配布
２回　発表
３回　発表
４回　画像を見る
５回　発表
６回　発表
７回　資料を配布
８回　発表
９回　発表
１０回　画像を見る
１１回　発表
１２回　発表
１３回　資料を配布
１４回　発表
１５回　発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発表・・・ 50%　　日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

時事　新聞　雑誌　記事　映画

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

＜中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導＞
　中国語圏における文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業レポート・論文を提出することを最終目標とします。
・本講義は研究テーマに関連するテクストや先行研究論文の輪読、および自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。
・現代中国をはじめとする各国･地域の主として文学・文化の分野に関する個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書　/Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
・中国文芸研究会編『図説　中国20世紀文学　解説と資料』（白帝社、1995年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
○銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』（北京大学出版社、1998年）
※その他については授業内で随時紹介します。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

・研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。
1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回 卒業研究テーマの選定等研究報告
3回 研究報告、ディスカッション
4回 研究報告、ディスカッション
5回 研究報告、ディスカッション
6回 研究報告、ディスカッション
7回 研究報告、ディスカッション
8回 研究報告、ディスカッション
9回 研究報告、ディスカッション
10回 研究報告、ディスカッション
11回 研究報告、ディスカッション
12回 研究報告、ディスカッション
13回 研究報告、ディスカッション
14回 研究報告、ディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。
報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。
・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意　/Remarks

・報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。
・卒業レポート・論文は4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文学テクストを研究することによって、中国語圏の文化への理解を深化させましょう。そこには自らを相対化する作業も含みます。就職・留学等皆さんの関心や活動と絡めてテーマを設定するなどして、主体的に研究を進めるようにしてください。

キーワード　/Keywords

卒業研究
中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

〈中国古典文学研究〉
本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。
基本的に3年次「研究演習Ａ、Ｂ」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。（研究論文は中国語文献に限らず日本語文献を読む場合もある）

教科書　/Textbooks

プリント配布、またはなし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス。論文の探し方について
第2回　作品・論文の精読(1)
第3回　作品・論文の精読(2)
第4回　作品・論文の精読(3)
第5回　作品・論文の精読(4)
第6回　作品・論文の精読(5)
第7回　作品・論文の精読(6)
第8回　作品・論文の精読(7)
第9回　作品・論文の精読(8)
第10回　作品・論文の精読(9)
第11回　作品・論文の精読(10)
第12回　作品・論文の精読(11)
第13回　作品・論文の精読(12)
第14回　作品・論文の精読(13)
第15回　作品・論文の精読(14)、または研究成果報告
※発表用に資料を作ってもらいます。

成績評価の方法　/Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前】
①発表者–自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
②発表者以外–発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
【事後】
①発表者–質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
②発表者以外–自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１．この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
２．人が聞いてわかる発表にするにはどうすれば良いか、考えて下さい。

キーワード　/Keywords

中国古典文学

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
4年次	2単位	1学期	演習	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

本授業では、受講生が卒業論文・ゼミ論文を完成させるための指導を行うことを目的とする。
具体的には、中国語学の領域において、①卒業論文またはゼミ論文を執筆するうえで必要なスキルを修得すること、②論文のタイトル、論文の構想を発表できるレベルまでに到達することを目指す。

毎回、各自の卒業論文もしくはゼミ論文のテーマに沿った内容を発表し、その後皆で討論する。この訓練を繰り返すことで、ゼミ生一人一人のテーマに関する知識や考えを深化させ、卒業論文・ゼミ論文の完成につなげていく。

教科書　/Textbooks

毎授業時に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　図書館ツアー
第３回　発表・ディスカッション
第４回　発表、ディスカッション
第５回　発表、ディスカッション
第６回　論文の構想発表（１）
第７回　発表、ディスカッション
第８回　発表、ディスカッション
第９回　　発表、ディスカッション
第１０回　発表、ディスカッション
第１１回　発表、ディスカッション
第１２回　発表、ディスカッション
第１３回　発表、ディスカッション
第１４回　論文の構想発表（２）
第１５回　論文の構想発表（２）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週（の授業時）までに、発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
発表日にはレジュメを人数分準備しておくこと。
事後学習としては、各自授業内での発表と討論を通して見つけた新たな課題を整理し、文献収集、論文の要約などを行い、次回の発表に備える。
担当者以外は、事前に配布された文献をきちんと読み、自分の意見・質問を必ず一つ用意して出席すること。

履修上の注意　/Remarks

欠席する場合は、事前にメール連絡をすること。
締切日を過ぎての提出物は受け付けない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語学　音声　語彙　文法　教育

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び経済分野での卒業研究報告を並行する。
・経済・社会の理解を深めながら卒業研究テーマの設定、アプローチ方法、フレームワークを他のゼミ生とのディスカッションのなかで定めていく。
・3年次に学んだ経済分析を行うための初歩的な統計学、経済学等の手法、知識を卒業研究テーマへのアプローチ、実際の分析に活かすことを目指す。
・個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションの方法、資料の作成の仕方にも習熟することを目指す。

教科書　/Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018
他の参考文献は授業中に提示する。

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーションと打ち合わせ
2回　卒業研究テーマの選定等
3回　研究進捗の報告、ディスカッション
4回　研究進捗の報告、ディスカッション
5回　研究進捗の報告、ディスカッション
6回　研究進捗の報告、ディスカッション
7回　研究進捗の報告、ディスカッション
8回　研究進捗の報告、ディスカッション
9回　研究進捗の報告、ディスカッション
10回　研究進捗の報告、ディスカッション
11回　研究進捗の報告、ディスカッション
12回　研究進捗の報告、ディスカッション
13回　研究進捗の報告、ディスカッション
14回　研究進捗の報告、ディスカッション
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告　50%　　ディスカッションへの参加状況　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
3年次に学んだ分析手法や知識を自分のテーマの解明に出来るだけ活かせるよう考えてください。
研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

中国経済論III や時事中国語講読III、その他各国・地域経済に関する科目や経済学に関する科目を履修しておくことが望ましい。
事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。中国語で書かれた専門分野の学術論文も読み進めていき、卒業作品（論文等）を進めるための基礎知識を身につける。

教科書　/Textbooks

なし。
履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）

その他、授業中に随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

中国語の小説など文学作品により多くあたり、日本語の表現やそれに付随するジェスチャー、日本の文化・習俗、発想との比較対照を行う。その中で、自分の興味・関心のあるものを探し、それぞれの卒業作品の研究テーマを決定する。さらに、中国語で書かれた学術論文等を読み進め、同時に、卒業作品（論文等）執筆のための基礎作りを行う。

第１回　論文の書き方１（フォーマット、構成）
第２回　論文の書き方２（先行文献の収集方法）
第３回　卒業作品テーマ案発表１
第４回　学術論文（日本語）講読１
第５回　学術論文（日本語）講読２
第６回　卒業作品テーマ案発表２
第７回　学術論文（中国語）講読１
第８回　学術論文（中国語）講読２
第９回　先行文献（中国語）講読１
第10回　先行文献（中国語）講読２
第11回　先行文献（中国語）講読３
第12回　先行文献（中国語）講読４
第13回　先行文献（中国語）講読５
第14回　卒業作品構想（目次）発表１
第15回　卒業作品構想（目次）発表２

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での発表（プレゼンテーション）等…50%、課題提出…50%

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題をMoodleにあげるので、必ず期限内に参照し、課題を準備、提出すること。
修正したファイルをMoodleにあげるので、必ず期限内に参照し、指示に従い、課題を再提出すること。

履修上の注意　/Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に卒業作品（原則として卒業論文）の提出を義務付ける。
「卒業論文」を執筆する場合は、本演習とは別に必ず「卒業論文」の履修登録をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

主にMoodleを利用する。

キーワード　/Keywords

言語学、語用論、言語文化、中国語

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
１回 オリエンテーリングと打ち合わせ
２回 研究報告
３回 研究報告
４回 研究報告
５回 研究報告
６回 研究報告
７回 研究報告
８回 研究報告
９回 研究報告
１０回 研究報告
１１回 研究報告
１２回 研究報告
１３回 研究報告
１４回 研究報告
１５回 研究報告

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・論文提出等により総合的に評価する。報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意　/Remarks

卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　史料の講読とディスカッション
第3回　史料の講読とディスカッション
第4回　史料の講読とディスカッション
第5回　史料の講読とディスカッション
第6回　史料の講読とディスカッション
第7回　史料の講読とディスカッション
第8回　史料の講読とディスカッション
第9回　史料の講読とディスカッション
第10回　史料の講読とディスカッション
第11回　史料の講読とディスカッション
第12回　史料の講読とディスカッション
第13回　史料の講読とディスカッション
第14回　史料の講読とディスカッション
第15回　史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50％＋ディスカッションでの発言50％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ａ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書　/Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
２．『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編（中国書店）O

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　資料を配布
２回　発表
３回　発表
４回　画像を見る
５回　発表
６回　発表
７回　資料を配布
８回　発表
９回　発表
１０回　画像を見る
１１回　発表
１２回　発表
１３回　資料を配布
１４回　発表
１５回　発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発表・・・ 50%　　日常の学習状況・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

卒業研究演習Ａ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

時事　新聞　雑誌　記事　映画

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　鳥谷　まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

＜中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導＞
　中国語圏地域の文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業レポート・論文を提出することを最終目標とします。
・本講義は研究テーマに関連するテクストや先行研究論文の輪読、及び自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。
・中国語圏地域の文学作品の読解を通じて、個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書　/Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航 , 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018年）
○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』（東京堂出版、1985年）
・中国文芸研究会編『図説　中国20世紀文学　解説と資料』（白帝社、1995年）
○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）
○銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』（北京大学出版社、1998年）
※その他については授業内で随時紹介します。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

・研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。
1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　卒業研究テーマの選定等研究報告、報告日の決定
3回　研究報告、ディスカッション
4回　研究報告、ディスカッション
5回　研究報告、ディスカッション
6回　研究報告、ディスカッション
7回　研究報告、ディスカッション
8回　研究報告、ディスカッション
9回　研究報告、ディスカッション
10回　研究報告、ディスカッション
11回　研究報告、ディスカッション
12回　研究報告、ディスカッション
13回　研究報告、ディスカッション
14回　研究報告、ディスカッション
15回　まとめ

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。
報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。
・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意　/Remarks

・報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。
・卒業レポート・論文は4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文学テクストの研究によって、中国語圏の文化への理解を深化させましょう。そこには自らを相対化する作業も含みます。就職・留学等皆さんの関心や活動と絡めてテーマを設定するなどして、主体的に研究を進めてください。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出できるよう、最後まで頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

・卒業研究
中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　武井　満幹 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

〈中国古典文学研究〉
本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。
基本的に3年次「研究演習Ａ、Ｂ」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。（研究論文は中国語文献に限らず日本語文献を読む場合もある）

教科書　/Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者と相談の上決める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　作品・論文の精読(1)
第2回　作品・論文の精読(2)
第3回　作品・論文の精読(3)
第4回　作品・論文の精読(4)
第5回　作品・論文の精読(5)
第6回　作品・論文の精読(6)
第7回　作品・論文の精読(7)
第8回　作品・論文の精読(8)
第9回　作品・論文の精読(9)
第10回　作品・論文の精読(10)
第11回　作品・論文の精読(11)
第12回　作品・論文の精読(12)
第13回　作品・論文の精読(13)
第14回　作品・論文の精読(14)
第15回　作品・論文の精読(15)、または研究成果報告
※発表用に資料を作ってもらいます。

成績評価の方法　/Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前】
①発表者–自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
②発表者以外–発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
【事後】
①発表者–質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
②発表者以外–自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
③全員–参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１．この演習は担当者が発表するだけでは成立しません。担当者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
２．人が聞いてわかる発表にするにはどうすれば良いか、考えて下さい。

キーワード　/Keywords

中国古典文学

卒業研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

本授業では、受講生が卒業論文・ゼミ論文を完成させるための指導を行うことを目的とする。
毎回、各自の卒業論文もしくはゼミ論文のテーマに沿った内容を発表し、その後皆で討論する。この訓練を繰り返すことで、ゼミ生一人一人のテーマに関する知識や考えを深化させ、卒業論文・ゼミ論文の完成につなげていく。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　発表（担当者）、ディスカッション
第３回　発表（担当者）、ディスカッション
第４回　発表（担当者）、ディスカッション
第５回　発表（担当者）、ディスカッション
第６回　発表（担当者）、ディスカッション
第７回　発表（担当者）、ディスカッション
第８回　　論文指導
第９回　　論文指導
第１０回　論文指導
第１１回　論文指導
第１２回　論文指導
第１３回　論文指導
第１４回　論文指導
第１５回　卒業論文・ゼミ論文発表会

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週（の授業時）に発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
また、発表日にはレジュメを人数分準備しておくこと。
授業後、担当者は、発表の際に得た意見や質問などを整理して再度論文執筆に取り組む。
その他のゼミ生は、配布された文献をきちんと読んで授業に出席すること。

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

欠席する場合はメール連絡を必ず行うこと。
締切日を過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

4年間の集大成となる論文を悔いなく書き上げることを目標にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

中国語　音声　語彙　文法

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び経済分野での卒業研究報告を並行する。
・経済・社会の理解を深めながら卒業研究テーマの設定、アプローチ方法、フレームワークを他のゼミ生とのディスカッションのなかで定めていく。
・3年次に学んだ経済分析を行うための初歩的な統計学、経済学等の手法、知識を卒業研究テーマへのアプローチ、実際の分析に活かすことを目指す。
・個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションの方法、資料の作成の仕方にも習熟することを目指す。

教科書　/Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーリングと打ち合わせ
2回　研究報告、ディスカッション
3回　研究報告、ディスカッション
4回　研究報告、ディスカッション
5回　研究報告、ディスカッション
6回　研究報告、ディスカッション
7回　研究報告、ディスカッション
8回　研究報告、ディスカッション
9回　研究報告、ディスカッション
10回 研究の総括に向けたプレゼンテーションの仕方とレジュメの作成方法
11回　研究報告、ディスカッション
12回　研究報告、ディスカッション
13回　研究報告、ディスカッション
14回　研究報告、ディスカッション
15回　総括

卒業研究演習Ｂ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告　50%　　ディスカッションへの参加状況　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、輪読のために配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

中国経済論III や時事中国語講読III、各国・地域の経済に関する科目や経済学に関する科目を履修しておくことが望ましい。
事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　西　香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、客観的に日本語と中国語を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。同時に、自分の選択したテーマに関わることをまとめる力と分析する力、そして発表する力（プレゼン能力）を身につける。

教科書　/Textbooks

履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）

その他、授業中に随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

各自が決めた卒業作品のテーマについて、調査、分析を進め、調べた結果を担当者に発表（プレゼン）してもらう。授業内に関連の先行文献（学術論文等）を読むこともある。

第１回　卒業作品第１回進捗報告
第２回　学術論文等講読１
第３回　学術論文等講読２
第４回　学術論文等講読３
第５回　卒業作品第２回進捗報告
第６回　学術論文等講読４
第７回　学術論文等講読５
第８回　学術論文等講読６
第９回　卒業作品第３回進捗報告
第10回　学術論文等講読７
第11回　学術論文等講読８
第12回　卒業作品第４回進捗報告
第13回　学術論文等講読９
第14回　学術論文等講読10
第15回　卒業作品最終発表

成績評価の方法　/Assessment Method

最終発表（プレゼンテーション、発表資料）…40%　　進捗報告（プレゼンテーション、発表資料）４回…60%
決められた５回全ての発表を行うことが成績付与の条件である。

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題をMoodleにあげるので、必ず期限内に参照し、課題を準備、提出すること。
修正したファイルをMoodleにあげるので、必ず期限内に参照し、指示に従い、課題を再提出すること。

履修上の注意　/Remarks

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。
本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に卒業作品（原則として卒業論文）の提出を義務付ける。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

主にMoodleを利用する。

キーワード　/Keywords

言語学、語用論、言語文化

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
１回 オリエンテーリングと打ち合わせ
２回 研究報告
３回 研究報告
４回 研究報告
５回 研究報告
６回 研究報告
７回 研究報告
８回 研究報告
９回 研究報告
１０回 研究報告
１１回 研究報告
１２回 研究報告
１３回 研究報告
１４回 研究報告
１５回 研究報告

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・討論・論文提出等により総合的に評価する。報告と討論…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意　/Remarks

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。
卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業研究

卒業研究演習Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　史料の講読とディスカッション
第3回　史料の講読とディスカッション
第4回　史料の講読とディスカッション
第5回　史料の講読とディスカッション
第6回　史料の講読とディスカッション
第7回　史料の講読とディスカッション
第8回　史料の講読とディスカッション
第9回　史料の講読とディスカッション
第10回　史料の講読とディスカッション
第11回　史料の講読とディスカッション
第12回　史料の講読とディスカッション
第13回　史料の講読とディスカッション
第14回　史料の講読とディスカッション
第15回　史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50％＋ディスカッションでの発言50％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード　/Keywords

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

担当者名 /Instructor　葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	中国語等文献資料を活用した調査研究能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国及び中国語圏に関わる諸問題について、学際的、複眼的な思考・判断によって問題を分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国及び中国語圏を舞台に活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ｂ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、１学期の引き続き、中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書　/Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
２．『中国文学の昨日と今日』　郝　世峰主編（中国書店）O

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　資料を配布
２回　発表
３回　発表
４回　画像を見る
５回　発表
６回　発表
７回　資料を配布
８回　発表
９回　発表
１０回　画像を見る
１１回　発表
１２回　発表
１３回　資料を配布
１４回　発表
１５回　発表

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発表・・・ 50%　　日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

卒業研究演習Ｂ 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意　/Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード　/Keywords

時事　新聞　雑誌　記事　映画

中国研究概論 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国研究概論	ARE111M

授業の概要　/Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から間もなく70年を迎えようとする中華人民共和国は経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの課題を抱える中国の現状について解説する。なお、授業では台湾についても取り上げる。

教科書　/Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

興梠一郎『中国激流　13億のゆくえ』岩波新書、2005年 (○)。
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年 (○)。
毛里和子『日中関係　戦後から新時代へ』岩波新書、2006年 (○)。
遊川和郎他著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所、2016年 (○)。
吉岡桂子『愛国経済　中国の全球化』朝日新聞出版、2008年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
２回　中国研究の基礎知識と概論
３回　共産党一党支配体制I【経済体制】
４回　共産党一党支配体制II【政治体制】
５回　中央と地方
６回　情報統制
７回　経済発展と経済格差
８回　汚職腐敗、人権、民主
９回　民族
１０回　一国両制
１１回　大国になった中国と国際関係
１２回　日中関係
１３回　日台関係
１４回　中台関係
１５回　まとめ
(順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト (3回)　…　90%　　日常の授業への取り組み　…　10　%

中国研究概論 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのか確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがあります。

キーワード　/Keywords

中国近現代史I 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅰ	HIS120M

授業の概要　/Course Description

「１９世紀後半～２０世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書　/Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
２回　大清帝国素描（１）：統治理念と版図の形成
３回　大清帝国素描（２）：対外観念と国際関係
４回　アヘン貿易とアヘン戦争
５回　太平天国
６回　洋務運動
７回　辺境の喪失
８回　朝鮮問題と日清戦争（１）：日清の朝鮮支配争い
９回　朝鮮問題と日清戦争（２）：下関条約と東アジア国際関係の変動
１０回　変法自強運動
１１回　義和団事件
１２回　光緒新政
１３回　清朝打倒の革命運動
１４回　辛亥革命と清朝の滅亡（１）：鉄道国有化問題
１５回　辛亥革命と清朝の滅亡（２）：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法　/Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験…８０％　　その他小テスト等…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史･世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード　/Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史II 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅱ	HIS121M

授業の概要　/Course Description

「２０世紀の中国」
中華民国期(１９１２～４９年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書　/Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　中華民国の出発と軍閥混戦（１）：袁世凱政権の諸相
２回　中華民国の出発と軍閥混戦（２）：北洋軍閥の抗争
３回　日本の対華２１ヶ条要求
４回　新文化運動・五四運動
５回　第一次世界大戦下の経済発展
６回　戦間期とワシントン体制
７回　第一次国共合作と国民革命（１）：国共合作の成立
８回　第一次国共合作と国民革命（２）：上海政変と国共分離
９回　九・一八事変と抗日民族統一戦線（１）：柳条湖事件と満州国の成立
８回　九・一八事変と抗日民族統一戦線（２）：西安事変と抗日民族統一政権の成立
９回　日中全面戦争の勃発
１０回　日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
１１回　国共内戦と中華人民共和国の成立
１２回　毛沢東時代の中華人民共和国
１３回　鄧小平と改革開放
１４回　中華人民共和国と辺境
１５回　戦後の日中関係

成績評価の方法　/Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験…８０％　　その他小テスト等…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史II 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード　/Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九·一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

中国文学概論I 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　与小田　隆一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国文学に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国文学に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国文学に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文学概論 I	LIT150M

授業の概要　/Course Description

中国古典文学について、特に代表的な時代・ジャンルにのみ絞り、簡単な概説の後、作品（もしくはその一部或いは概要）を講読し、詳細な解説を行う。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 ガイダンス・受講のための予備知識
2 中国古典文学の特質（１）-「文学」の定義
3 中国古典文学の特質（２）- 小説の評価
4 中国の伝説に見る歴史・文化
5　『詩経』
6　『韓非子』の中の寓話
7 六朝志怪小説（１）- 概要・時代背景
8 六朝志怪小説（２）- 作品
9 唐詩 - 杜甫
10 唐詩 - 李賀（１）- 李賀の生涯
11 唐詩 - 李賀（２）- 作品
12 唐代伝奇（１）- 概要・時代背景
13 唐代伝奇（２）- 作品
14 明代の白話小説ー『金瓶梅』（１）- 概要・時代背景
15 明代の白話小説ー『金瓶梅』（２）- 作品

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（７０％）、平常点（３０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

私語、３０分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国文学概論II 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　与小田　隆一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国文学に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国文学に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国文学に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文学概論Ⅱ	LIT151M

授業の概要 /Course Description

中華民国期（１９１２～４９）を中心とした中国近現代文学の作品を数編取り上げ、作品講読や、内容、時代背景に関する説明を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ガイダンス・受講にあたっての予備知識（１）
2 受講にあたっての予備知識（２）
3 魯迅「狂人日記」（１）
4 魯迅「狂人日記」（２）
5 郭沫若「残春」（１）
6 郭沫若「残春」（２）
7 許地山「春桃」（１）
8 許地山「春桃」（２）
9 穆時英「夜」（１）
10 穆時英「夜」（２）
11 施蟄存「梅雨之夕」（１）
12 施蟄存「梅雨之夕」（２）
13 中華民国期の「旧文学」（１）
14 中華民国期の「旧文学」（２）
15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（７０％）、平常点（３０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、３０分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論 【昼】

専門教育科目
必修科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国文化に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国文化に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文化論	ARE110M

授業の概要　/Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

教科書　/Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『図説　中国文化百華』全18巻　農文協

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　古代文明遺跡が伝えるもの　「三星堆」に見る揚子江文明
第2回　中国シャーマニズムに現れる仮面劇
第3回　「十二支」という暦の考え方
第4回　古代楽器が伝えたもの
第5回　孔子の存在　儒教の意義
第6回　中国に於ける仏教文化の変遷
第7回　書道の意義
第8回　絵画の伝統
第9回　国技としての気功、太極拳
第10回　漢語のパワー
第11回　科学文明の受容　①写真、映画
第12回　科学文明の受容　②家電、携帯電話
第13回　科学文明の受容　③IT産業
第14回　東洋医学の現況
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 20%　　レポート評価・・・ 80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国文化論 【昼】

キーワード　/Keywords

中国語学概論I 【昼】

担当者名 /Instructor　一木　達彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国語学（言語学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語学概論Ⅰ	LIN210M

授業の概要　/Course Description

世界には何千種類もの言語が存在するが、その中で中国語とはどのような言語であるかについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。
本講義では、中国語の概説のほか、パソコンなどの情報機器による中国語の処理、音声、文字、語彙等について論ずる。

教科書　/Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『中国語学習ハンドブック（改訂版）』相原茂編著、大修館書店
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

01回　オリエンテーション、概説
02回　中国語とはどんな言語か：中国語の特徴
03回　中国語とはどんな言語か：中国語の歴史、共通語と方言
04回　中国語の音声１（音声の基礎）
05回　中国語の音声２（中国語の音節構造）
06回　中国語の音声３（韻母の四呼・子音の分類・音変）
07回　中国語の音声４（音節構造の復習）
08回　中国語の文字１（漢字の歴史）
09回　中国語の文字２（漢字の構造）
10回　中国語の文字３（漢字の部首、筆画・筆順）
11回　中国語の文字４（簡体字）
12回　中国語の文字５（現在用いられている３種類の漢字）
13回　中国語の文字６（近代文字改革の歴史）
14回　中国語の文字７（中国建国前後の文字改革）
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…７０％　平常点（課題・小テスト・受講態度等）…３０％
出席が全受講回数の３分の２に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国語学概論I 【昼】

キーワード　/Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor　一木　達彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国語学（言語学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語学概論Ⅱ	LIN211M

授業の概要　/Course Description

日本語や英語との比較・対照という視点も取り入れながら、中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現（発想の違い）について論ずる。

教科書　/Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴著、白帝社）
『中国語わかる文法』（輿水優・島田亜実著、大修館書店）
『イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕著、アルク）
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

01回　オリエンテーション（前期答案返却、後期の予定）
02回　中国語の文法１（中国語文法の基礎知識）
03回　中国語の文法２（中国語の文法成分・単語と品詞）
04回　中国語の文法３（品詞１ 名詞・方位詞・代詞）
05回　中国語の文法４（品詞２ 数詞と量詞、区別詞）
06回　中国語の文法５（品詞３ 動詞、助動詞、形容詞、副詞)
07回　中国語の文法６（品詞４ 副詞、介詞）
08回　中国語の文法７（品詞５ 接続詞、助詞、擬音詞、感嘆詞）
09回　中国語の文法８（フレーズと文法）
10回　中国語の文法９（フレーズの文法関係と品詞）
11回　中国語の文法１０（補語について）
12回　中国語の文法１１（まとめ）
※ 以下は、文法の理解程度に応じて
13回　中国語の表現１：あいさつ、親族名称と呼称
14回　中国語の表現２：人称代名詞、指示代名詞
15回　中国語の表現３：敬語、ボディランゲージ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…７０％　平常点（小テスト、課題・受講態度等）…３０％
出席が全受講回数の３分の２に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意　/Remarks

中国語学概論II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語音声学I 【昼】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国語学（音声学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語音声学 I	LIN212M

授業の概要　/Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書　/Textbooks

佐藤昭　編著　『中国語音声概説』
教科書購入時期については、４月中に指示を出す。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

日下恒夫『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
加藤重広・安藤智子　著『基礎から学ぶ音声学講義』研究社、2016年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

漢字と音声、中国語と日本語、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題など中国語の音声に関わるさまざまな事象についてテーマ別に講義していく。

１回　第1章　文字と音声
２回　第1章　文字と音声　日本語の文字、発音に関するDVD鑑賞
３回　第2章　音声学の基礎知識（１）　①発音器官（音声器官）について
４回　第2章　音声学の基礎知識（１）　②調音器官について
５回　第3章　音声学の基礎知識（２）ー言語音と音声記号–　①子音の分類
６回　第3章　音声学の基礎知識（２）–言語音と音声記号–　②母音の分類
７回　第4章　日本語の音節と中国語の音節　①日本語の音節
８回　第4章　日本語の音節と中国語の音節　②中国語の音節
９回　第5章　中国語の声母とその発音
１０回　第6章　中国語の韻母とピンイン表記
１１回　第7章　韻母の発音　①主母音（単母音、複母音）
１２回　第7章　韻母の発音　②日本語と中国語の母音の比較
１３回　第８章　中国語の基本音節表
１４回　第9章　声調について
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験･･･６０％　その他（小テスト、課題提出、授業中の態度など）･･･４０％

中国語音声学I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に予習（教科書に目を通すこと、語彙調べなど）をしておくこと。
次の授業では、前回の授業内容の理解度を測るための小テストを実施する。このため授業後には、きちんと宿題や復習をしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教科書は毎年少しずつ内容が変更されているので、必ず購入してください。
本講義は、外国語である中国語の発音習得に役立つ内容が多く含まれています。理解できたものを実践の場で生かすように心がけてください。

キーワード　/Keywords

中国語　発音　音声

中国語音声学II 【昼】

担当者名 /Instructor　平田　直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国語学（音声学）に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国及び中国語圏の言語に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語音声学Ⅱ	LIN213M

授業の概要　/Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書　/Textbooks

佐藤昭編著『概説　中国語音声学』2017年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

日下恒夫著『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
加藤重広・安藤智子　著　『基礎から学ぶ音声学講義』研究社、2016年
川原繁人著『音とことばのふしぎな世界　- メイド声から英語の達人まで』岩波書店、2015年
大島正二『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店、2011年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

中国語の発音に関する諸現象（児化韻、軽声、変調）や方言音など、中国語の音声に関わるさまざまな事象をテーマ別に講義していく。

１回　第10章　軽声の発音
２回　第11章　さまざまな発音変化
３回　第12章　アル化（児化）韻母
４回　第13章　重音と軽音
５回　第14章　イントネーション・プロミネンス
６回　第14章　ポーズ・感嘆詞
７回　第15章　多音字・擬声字・訳音字　①多音字と擬声字
８回　第15章　多音字・擬声字・訳音字　②擬声字と訳音字
９回　第16章　中国の古代音と現代音　付録１　中国古典詩の読み方
１０回　第16章　中国の古代音と現代音　唐詩押韻字とその発音変化
１１回　第17章　中古音から現代音への変化　①中古音とは
１２回　第17章　中古音から現代音への変化　②中古音以後の主な音韻変化
１３回　第18章　中国の方言と方言区分　①中国語の方言
１４回　第18章　中国の方言音と方言区分　②北京音と各地の方言音との比較
１５回　まとめ

いずれかの回でグループ発表会を予定している

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験･･･60%　　その他（小テスト、グループ発表など）･･･40%

中国語音声学II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に予習 (テキストに目を通す、語彙調べなど) をしっかり行うこと。
授業内容を把握し、知識が定着しているかを確認するために小テストを実施する。
受講生は授業後、次回授業の小テストに向けて、授業内容をきちんと復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語　普通話　発音

現代中国の政治 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国政治とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国政治とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の政治	ARE211M

授業の概要　/Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。
授業では、中国の近現代史を政治的観点と人物考察から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書　/Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11　巨龍の胎動　毛沢東vs　鄧小平』講談社、2004年 (○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④　社会主義への挑戦　1945 - 1971』岩波新書、2011年 (○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
２回　なぜ中国は共産主義を選択したのか
３回　中国が国際政治の変遷から受けた影響
４回　建国当初の中国はどのような国家だったのか
５回　社会主義化
６回　文化大革命I【1960年代後半】
７回　文化大革命II【1970年代前半】
８回　近代化の模索
９回　改革開放I【対外開放】
１０回　改革開放II【経済改革】
１１回　改革開放がもたらした歪み
１２回　第二次天安門事件
１３回　改革開放の加速と政治改革の停滞
１４回　現代の課題
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト (3回)　…　90%、　日常の授業への取り組み　…　10　%

現代中国の政治 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代中国の外交 【昼】

担当者名 /Instructor　下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国外交とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国外交とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の外交	ARE212M

授業の概要　/Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾・香港問題を検討する。中国の地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書　/Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年（○）。
王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年（○）。
服部龍二『日中国交正常化一田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年（○）。
安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年。
ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
２回　国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
３回　国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
４回　対日関係I【国交正常化】
５回　対日関係II【ポスト毛沢東時代】
６回　中台関係I【基礎知識】
７回　中台関係II【中国の台湾政策】
８回　中台関係III【中台関係の現状分析】
９回　米中関係I【冷戦期】
１０回　米中関係II【ポスト冷戦期】
１１回　多国間外交：地域主義とグローバリズム
１２回　経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
１３回　経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
１４回　中港関係
１５回　まとめ
（順番が入れ替わることがあります）

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）　…　90%　　日常の授業への取り組み　…　10　%

現代中国の外交 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に（あるいは並行）受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと（図書館のDVDなどを活用してください）。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。

キーワード　/Keywords

中国の社会 【昼】

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の社会に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の社会に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国の社会	ARE210M

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国の社会について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国の社会について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

そこで、中国における政治・外交・経済・宗教・文化などの分野について、歴史学研究の成果をふまえて論じたい。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、中国の社会に対する理解・関心を深めることを目標とする。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　日中交流史
3回　中国の歴史（１）　【「中国」のはじまり】
4回　中国の歴史（２）　【秦漢時代】
5回　中国の歴史（３）　【魏晋南北朝時代】
6回　中国の歴史（４）　【隋唐時代】
7回　中国の歴史（５）　【宋元時代】
8回　中国の歴史（６）　【明清時代】
9回　中国の政治体制と国際関係
10回　中国の宗教（１）　【儒教】
11回　中国の宗教（２）　【道教】
12回　中国の宗教（３）　【仏教】
13回　中国の文化
14回　中国の経済
15回　まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。（60分）

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。（60分）

中国の社会 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

中国の「現在」を理解するには、「歴史」を知ることが大切です。
中国の「今と昔」を理解することは、必ず学生諸君のプラスになります。

キーワード　/Keywords

中国　社会　歴史　政治　外交　宗教　文化　経済　日中関係

日中比較文化論 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日中文化の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日中文化の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日中文化の比較的理解に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日中比較文化論	ARE263M

授業の概要　/Course Description

日本と中国の交流を歴史的に鳥瞰し、文化面を細分化して、その特徴を捉えてみる。視聴覚教材を随時使用し、理解を深める。

教科書　/Textbooks

『東方栄養新書』（メディカルユーコン社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　歴史年表にみる日中比較　概説
第2回　漢字文化の伝来　①【漢字という文字】
第3回　漢字文化の伝来　②【音声の比較】
第4回　仏教の伝来と日中の差異　①【大乗仏教と小乗仏教】
第5回　仏教の伝来と日中の差異　②【経文と宗派】
第6回　日中食文化の比較　①【主食穀物】
第7回　日中食文化の比較　②【肉食比較】
第8回　日中食文化の比較　③【茶の伝来と現況】
第9回　書と絵画　小史①【王義之の足跡】
第10回　書と絵画　小史②【国画】
第11回　芸能史が伝えるもの　①【仮面劇】
第12回　芸能史が伝えるもの　②【京劇と歌舞伎】
第13回　自然保護と環境問題　①【水問題】
第14回　自然保護と環境問題　②【宇宙開発】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の講義への取り組み・・・ 20%　　レポート評価・・・ 80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された課題を予習し、学習した内容を復習し、確認すること。

履修上の注意　/Remarks

授業前に書物等において関連事項について概要を捉えておくこと。授業後、講義中に指摘された質問について解答をノートに記しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日中比較文化論 【昼】

キーワード　/Keywords
知りたい・観たい・聴きたい

中国社会経済史I 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史Ⅰ	HIS220M

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
第2回　桃園の誓い(農村部における定期市)
第3回　桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
第4回　三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
第5回　三顧の礼(古代中国の書物)
第6回　三顧の礼(伝統中国の葬礼)
第7回　三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
第8回　三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
第9回　赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
第10回　赤壁の戦い(受禅台を通してみた貴族制への移行)
第11回　五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
第12回　五丈原(蜀の桟道を通してみた交通と経済)
第13回　五丈原(兵法家孔明の評価)
第14回　晋の三国統一の社会経済的意味
第15回　まとめの回(小説を通してみた伝統中国の諸様相)

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回小テスト30%
第2回小テスト30%
第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後の学習は特に必要ないが、他の講義を聞く時の参考とすべきこと。

中国社会経済史I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史Ⅱ	HIS221M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店,2009年。
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会,2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
第2回　中国や朝鮮の宮殿構造
第3回　中国や朝鮮の都市景観
第4回　清国使節団
第5回　中朝貿易
第6回　朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
第7回　朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
第8回　乱廛(商業独占権と特権商人の保護)
第9回　辛亥通共(乱廛の禁止)
第10回　中国・朝鮮・日本における火器の歴史
第11回　燕行使
第12回　中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
第13回　承政院日記の洗草の意味するもの
第14回　朝鮮の対清外交
第15回　まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回小テスト30%
第2回小テスト30%
第3回小テスト40%

中国社会経済史II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には概説書などにより近世東アジアの歴史を学んでおくこと。事後には定期的に小テストを行うので、復習も行うこと。

履修上の注意　/Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国経済論I 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国経済に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論 I	ECN253M

授業の概要　/Course Description

中国の市場経済の特徴やそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の回顧と改革に伴う中国経済・社会の変化を解説し、中国の市場経済が現在に至った経緯について理解を深めます。更にこれによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解し、それらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書　/Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１回　ガイダンス
２回　経済発展とは【開発】
３回　市場経済【価格】【所有】
４回　さまざまなタイプの市場経済【制度】【政府】
５回　中国の行政システム【「戸籍」】【都市】【農村】
６回　中国経済を見る視点と枠組（１）【SNA】
７回　中国経済を見る視点と枠組（２）【企業】【利潤最大化】【政府】
８回　市場経済化（１）【計画経済】【市場経済】【インセンティブ】
９回　市場経済化（２）【農業】【農村】【生産性】
１０回　市場経済化（３）【インセンティブ】【工業化】【民営化】
１１回　リーマンショック前後の中国経済（１）【国有企業】【民営企業】【規制緩和】
１２回　リーマンショック前後の中国経済（２）【国進民退】
１３回　リーマンショック前後の中国経済（３）【上場企業】【資本移動】
１４回　中国の労働市場【賃金】
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

70%：定期試験　15%：レポート　15%：講義への取り組み

中国経済論I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。
事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意　/Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。
配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ･ノートもあわせて内容を整理してください。
講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国経済に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論Ⅱ	ECN254M

授業の概要　/Course Description

本講義では経済改革が多くの分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国で形成された市場経済の特徴、特質について、主として金融、為替の動向を例に挙げながら議論していきます。
またリーマンショック前後での相違点に付いても言及し、以上の議論を踏まえて中国経済が直面する課題を整理していきます。

教科書　/Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

(【　】はキーワード)
１回　ガイダンス
２回　中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
３回　中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
４回　政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
５回　政策の実行とその影響(2)【経済改革】
６回　金融政策と金融システム (１)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
７回　金融政策と金融システム (２)【引き締め政策】【緩和政策】
８回　金融政策と金融システム (３)【金融政策の方法と中国での効果】
９回　通貨・為替制度の変遷 (１)【変動相場制】【為替レート】
１０回　通貨・為替制度の変遷 (２)【輸出】【輸入】【人民元】
１１回　通貨・為替制度の変遷 (３)【国際資本移動】【金融政策】
１２回　為替の動向と金融政策の効果　【国際金融のトリレンマ】
１３回　中国経済が直面する課題 (１)
１４回　中国経済が直面する課題 (２)
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

中国経済論II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

70%：定期試験　15%：レポート　15%：講義への取り組み

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。
事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意　/Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。
配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ･ノートもあわせて内容を整理してみてください。
講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等の工ッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

漢文学 【昼】

担当者名 /Instructor　楢崎　洋一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国を中心とした地域の文学、言語、歴史といった多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に軸足を置きながら、中国の古典を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	漢文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化と中国文化をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

漢文学	LIT250M

授業の概要　/Course Description

「漢文」は、中国古代の「文語文」で書かれた、あらゆる文章を指す。それは二十世紀初頭まで、中国で正式の文章語として、ほぼ二千年にわたって使用されてきた。また、日本・朝鮮半島・ベトナム等においても、知識人の使用する共通書記言語として、西洋におけるラテン語と同じように普及していた。日本人が最初に接触し、かつ使用した文字は漢字であり、最初に目に触れた「文章」は、当然「漢文」であった。それゆえ「漢文」を学ぶことは、中国の歴史や文化への理解を深めるだけではなく、日本人にとっては、自国の文化形成の原初的プロセスを「追体験」することにもつながる。この授業では「日本人にとっての漢文」ということで、まず中国から日本にもたらされ、かつての日本人によって広く読まれ、血肉と化していた文章を取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、などについても理解を深める。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品をも読んでいく。こうした作業によって、日本と中国をはじめとする異文化の諸領域の交流に対する関心を高め、また相互の比較研究によって、自国の文化に対してさらに理解を深めていくことをねらいとする。

教科書　/Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア–訓読の文化圏–』（岩波書店、岩波新書）○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション【日本人にとって「漢文」とは何か？】
２回　儒教（１）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の孔子像】
３回　儒教（２）【孔子の生涯】【論語】【現代中国映画の孔子像】
４回　儒教（３）【孔子の生涯】【論語】【孟子】【孔子・孟子と儒学・儒教】
５回　諸子百家（１）【百家争鳴の時代】【道家】【法家】
６回　諸子百家（２）【百家争鳴の時代】【道家】【法家】
７回　仏教漢文【インド思想と中国人】【格義仏教】【音訳】
８回　唐宋八大家の詩文【韓愈】【柳宗元】【蘇東坡】
９回　中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】
１０回　漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】【万葉仮名】
１１回　日本漢詩文（１）【奈良～室町】【十七条憲法】【日本書紀】【懐風藻】【菅原道真】
１２回　日本漢詩文（２）【江戸時代】【伊藤仁斎】【荻生徂徠】
１３回　日本漢詩文（３）【江戸時代】【菅茶山】【頼山陽】
１４回　近代日本文学者と漢詩文【夏目漱石】【森鴎外】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（レポートなど）…３０％　　期末試験…７０％

漢文学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むことが望ましい。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された参考資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントやノートを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

漢文　儒教　孔子　四書五経　諸子百家　日本漢文　訓点　万葉仮名

比較中国思想 【昼】

担当者名 /Instructor　鄧　紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国思想の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国思想の比較的理解に関わり、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国思想の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国思想の比較的理解に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較中国思想	ARE310M

授業の概要　/Course Description

中国思想史の流れを勉強したうえで、日本における儒学の発展軌跡を勉強する。中、日両国の思想を比較し、それぞれの特徴を解明する。

教科書　/Textbooks

授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○
『从汉学到中国学』（中華書局２００７年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第一回　中国思想史概論
第二回　中国神話と古代国家のイデオロギ
第三回　先秦諸子百家の思想
第四回　秦漢時代の思想
第五回　六朝の思想
第六回　唐代の思想
第七回　宋代の思想
第八回　日本古代の思想と儒教
第九回　江戸時代の思想史
第十回　日本の朱子学と古学派
第十一回　日本の陽明学
第十二回　日本における儒学の終焉と近代学校
第十三回　中國の儒教の終結
第十四回　新文化運動
第十五回　新中国の思想傾向、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に臨む態度３０％、演習あるいはレポート７０％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講者は、授業前に前回提示したキーワードを調べ、授業後にノート確認する
こと。授業中に出された課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、外国語学部中国学科と文学部比較文化学科の共通授業。
授業は日本語で行う。

比較中国思想 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード　/Keywords

儒学、儒教、仁義礼智信、忠孝

時事中国語講読I 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読 I	ARE311M

授業の概要　/Course Description

中国の時事問題に関する文献講読を通じて、中国経済・社会の現状をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れる。

教科書　/Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
３回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(2)　【読解】
４回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(3)　【読解】【議論】
５回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
６回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(2)　【読解】
７回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(3)　【読解】【議論】
８回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
９回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(2)　【読解】
１０回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(3)　【読解】【議論】
１１回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
１２回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(2)　【読解】
１３回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(3)　【読解】【議論】
１４回　文献輪読及び説明，議論・全体討論
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　70%　　レポート　10%　　輪読・発表等授業への取り組み　20%

時事中国語講読I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域の二ュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

時事中国語講読II 【昼】

担当者名 /Instructor　白石　麻保 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読Ⅱ	ARE312M

授業の概要　/Course Description

中国の時事問題に関する文献の講読を通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国経済・社会に関する知識の習得を目指す。出来る限り多方面の時事問題にふれるため、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の様相の一端に触れるようにする。

教科書　/Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

南亮進　牧野文夫『中国経済入門』第4版　日本評論社　2016年
岩崎一郎　『比較経済論講義』日本評論社　2018年
白砂堤津耶　『例題で学ぶ　初歩からの統計学』第2版　日本評論社　2015年
伊藤公一郎　『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』 光文社新書　2018年
この他は講義中に提示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
３回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(2)　【読解】
４回　文献輪読及び説明，議論・地域社会(3)　【読解】【議論】
５回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
６回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(2)　【読解】
７回　文献輪読及び説明，議論・時事ニュース(3)　【読解】【議論】
８回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
９回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(2)　【読解】
１０回　文献輪読及び説明，議論・経済、社会(3)　【読解】【議論】
１１回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(1)　【テーマ、背景の説明】【読解】
１２回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(2)　【読解】
１３回　文献輪読及び説明，議論・国際的な話題(3)　【読解】【議論】
１４回　文献輪読及び説明，議論・全体討論
１５回　まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　70%　　レポート　10%　　輪読・発表等授業への取り組み　20%

時事中国語講読II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語現代文献講読I 【昼】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文献を通じて、現代中国に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	現代中国語で書かれた文献をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代中国に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代中国に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語現代文献講読Ⅰ	ARE313M

授業の概要　/Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。

②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。

③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。

④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な字体繁體字（繁体字）に習熟する。

教科書　/Textbooks

洪長泰『地標…北京的空間政治』（OXFORD University Press　２０１１年、中文繁體字横書き）
「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○倉沢進他『北京 皇都の歴史と空間』（中公新書　２００７年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「序論」輪読–内戦の帰趨と共産黨の北平入城
第３回　「序論」輪読–空間政治理論と記念碑的建築群
第４回　「序論」輪読–共産黨の政治と首都北京の決定
第５回　「序論」輪読–空間政治理論と一黨専制、本書の内容
第６回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–１９４９年建國大典と天安門廣場
第７回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–新行政區中心の配置を巡って
第８回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–中國人都市設計家の構想
第９回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–北京改造を巡る中ソ論爭
第１０回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–天安門廣場の創出と設計プラン
第１１回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–天安門前からの住民強制退去
第１２回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–天安門廣場の主要建置をめぐって
第１３回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–天安門廣場の面積をめぐって
第１４回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–長安街の廣さをめぐって
第１５回　「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読–天安門廣場の誕生と中國の民族主義

①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
②語彙や文法についても適宜解説する。
③あらかじめ輪読の担当者２～３人と担当部分を決め、文献を読み進める。
④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

中国語現代文献講読I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常評価４０％、期末試験６０％。
必要に応じて小テストを実施する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード　/Keywords

中国語現代文献講読II 【昼】

担当者名 /Instructor　堀地　明 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の文献を通じて、現代中国に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力	●	現代中国語で書かれた文献をスムーズに理解することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代中国に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代中国に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国語現代文献講読Ⅱ	ARE314M

授業の概要　/Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。

②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。

③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。

④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な字体「繁體字」（繁体字）に習熟する。

教科書　/Textbooks

張戎『鴻 三代中國女人的故事』（唐莊文化 ２００６年、中文繁體字縦書き）
１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」
２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○田中仁等『新図説中国近現代史』（法律文化社、２０１２年）

中国語現代文献講読II 【昼】

専門教育科目
選択科目
専門科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第３回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第４回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第５回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第６回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第７回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第８回　１「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾（１９０９～１９３３年）」輪読
第９回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１０回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１１回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１２回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１３回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１４回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読
第１５回　２「涼水也是甜的 成為滿族醫生的妻子（１９３３～１９３８年）」輪読

①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
②語彙や文法についても適宜解説する。
③あらかじめ輪読の担当者２～３人と担当部分を決め、文献を読み進める。
④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法　/Assessment Method

平常評価４０％、期末試験６０％。
必要に応じて小テストを実施する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード　/Keywords

中国歴史社会研究I 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の社会と歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の社会と歴史に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の社会と歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国歴史社会研究 I	HIS320M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
第3回　鶏肋の意味
第4回　朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
第5回　饅頭・儒教と「孝」
第6回　ヨンセンと人間関係
第7回　冊封体制・明の使節
第8回　満漢全席・食器
第9回　料理
第10回　「忠」と「孝」との相克
第11回　衣装と服制
第12回　白米・貨幣
第13回　上司の条件
第14回　東アジアにおける銀の流通
第15回　結論(東アジアの文化的共通性)

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回小テスト30%
第2回小テスト30%
第3回小テスト40%

中国歴史社会研究I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の社会と歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国の社会と歴史に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中国の社会と歴史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国歴史社会研究Ⅱ	HIS321M

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普遍的思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
第3回　儒教の経典
第4回　復讐と報恩・ヨンセンの面子
第5回　東洋医学・己卯士禍
第6回　華佗
第7回　脚気
第8回　宮廷の構成
第9回　胡椒の流入・韓国人と漢字
第10回　裁判制度・密貿易
第11回　親孝行
第12回　大長今の称号
第13回　チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
第14回　チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
第15回　結論(中国文化の朝鮮への伝播)

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回小テスト30%
第2回小テスト30%
第3回小テスト40%

中国歴史社会研究II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ビジネス中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語 I	CHN362M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局　セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１学期（Ａ）
ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本文章を学習する。ＢＣＴ試験内容「ヒアリング・閲読・作文」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。ＢＣＴテストに挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　ビジネス用語単語テスト・基本作文に関する説明
３回　ビジネス用語単語テスト・経済図表分析文作成に関する説明
４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習1
５回　ビジネス用語単語テスト・作文練習2
６回　ビジネス用語単語テスト・伝言メモ作成に関する説明
７回　ビジネス用語単語テスト・作文練習3
８回　ビジネス用語単語テスト・作文練習4
９回　ビジネス用語単語テスト・企画書作成に関する説明
１０回　ビジネス用語単語テスト・作文練習5
１１回　ビジネス用語単語テスト・作文練習6
１２回　ビジネス用語単語テスト・お詫び文作成に関する説明
１３回　ビジネス用語単語テスト・作文練習7
１４回　ビジネス用語単語テスト・作文練習8
１５回　総合復習

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト26%、作文24%、定期試験35%。

ビジネス中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ビジネスに関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード　/Keywords

日常生活用語　　ビジネス専門用語　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

ビジネス中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　唐　雋 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ	CHN363M

授業の概要　/Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（ＢＣＴ）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第２学期（Ｂ）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読・会話」について繰り返して学習する。（ＢＣＴ問題集を学習する。）
ビジネス会話に挑戦する。

１回　オリエンテーション
２回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習1
３回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習2
４回　ビジネス用語単語テスト・閲読練習3
５回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習1
６回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習2
７回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習3
８回　ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習4
９回　発想力練習、思考力、考える力に関する練習
１０回　実践ビジネス会話練習1
１１回　会話発表I
１２回　実践ビジネス会話練習2
１３回　会話発表II
１４回　実践ビジネス会話練習3
１５回　実践ビジネス発表III

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト20%、授業中発表30%、定期試験35%　。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストの予習、会話発表の準備。

履修上の注意　/Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語及びビジネスに関する単語をより多く覚えてしてほしい。

キーワード　/Keywords

ビジネス専門用語　考える力　会話力　　ビジネス文章　　ＢＣＴ受験　（BCT初級、中・上級を含む）

東アジア経済論 【昼】

担当者名 /Instructor　柳　学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論	ECN352M

授業の概要　/Course Description

東アジアが世界経済の成長エンジンと言われるようになって久しい。21世紀は東アジアの時代だとも言われる。だが、「東アジア」という言葉が指す地域は広大であり、それぞれの国・地域がたどった歴史と経済成長の経路も多様である。そのような東アジアの発展経路の多様性を知り、それぞれの特徴を比較して考える視点を持つことは、日本に生きる我々にとって必要な知的訓練である。

この授業では、アジア経済の将来を展望するために必要な基本的知識を得ることを目標として、第二次世界大戦後のアジア各国の経済発展の歩みと現在の課題を概観する。

また、日本と東アジアを比較して考えるためのトレーニングとして、隣国である韓国・中国と日本が共通して抱える社会・経済的課題を取り上げて解説する。

最後に、東アジアの経済統合がいかなる秩序とコンセンサスの下で可能なのかを探るために、現在進んでいる様々な経済統合の試みを分析する。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○三重野文春 / 深川由紀子編 (2017)『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
○遠藤環ほか編 (2018)『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣
坂田幹男 (2013)『ベーシック アジア経済論』晃洋書房
○ジェトロ・アジア経済研究所『アジア動向年報』各年版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，第二次世界大戦後の東アジア経済 - 社会主義と開発主義
第2回　「東アジアの奇跡」と開発主義国家
第3回　1997年のアジア通貨危機と従来の発展モデルの挫折
第4回　アジアNIEsの経済発展①　韓国
第5回　アジアNIEsの経済発展②　台湾
第6回　アジアNIEsの経済発展③　シンガポール
第7回　東南アジアの経済開発 - インドネシアとマレーシアの事例から
第8回　中国の経済発展 - 社会主義市場経済の挑戦
第9回　社会主義国の市場経済導入政策 - ベトナムと北朝鮮
第10回　日韓経済の比較　若年層の雇用と格差拡大
第11回　日中韓経済の比較　少子化問題と社会保障
第12回　2000年代の東アジア経済①　経済交流の深化と中国の台頭
第13回　2000年代の東アジア経済②　地域内の労働力移動と人の定着
第14回　2000年代の東アジア経済③　広域自由貿易圏構想と中国主導の経済秩序
第15回　まとめ - アジアの経済統合の展望と日本の役割

東アジア経済論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末レポート：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

　事前学習としては、ジェトロのHPにある「国・地域別に見る」(https://www.jetro.go.jp/world/asia/)のコーナーで、授業で取り上げる国の基本データを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意　/Remarks

　とくにありませんが、授業を受ける前に、自分が関心のある東アジア各国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

　「東アジア」という地域は、何となく知っているようでいながら、学んでみると知らないことや意外な側面がドンドン出てきます。
　この授業を通じて、皆さんがすぐ隣にある東アジアの人々と国のことを知り、親しみを感じられるようになったらいいと思います。

キーワード　/Keywords

東アジアの開発主義，移行経済論，東アジアの少子化問題，労働力移動，国際分業，地域統合

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて基礎的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアに関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジア研究概論	ARE113M

授業の概要　/Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書　/Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店 、2004年。
○清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。
このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　「東南アジア」という地域概念の展開＆地理の把握
3回　多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
4回　東南アジアの近現代史
5回　島嶼部諸国のプロフィール（１）インドネシア
6回　島嶼部諸国のプロフィール（２）マレーシア
7回　島嶼部諸国のプロフィール（３）シンガポール
8回　島嶼部諸国のプロフィール（４）フィリピン
9回　東南アジアと日本（１）第2次世界大戦前まで
10回　大陸部諸国のプロフィール（１）ベトナム
11回　大陸部諸国のプロフィール（２）カンボジア
12回　大陸部諸国のプロフィール（３）タイ
13回　大陸部諸国のプロフィール（４）ミャンマー
14回　東南アジアと日本（２）第2次世界大戦以降
15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）　…　40%　　期末試験　…　60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

東南アジア研究概論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英米文化概論I 【昼】

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

（国関）英米文化概論 I	ARE130M
（比文）イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション【イギリス文化】
第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ･サクソン】【ノルマン征服】
第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ･カルタ】
第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる 【帝国】【スコットランド】
第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない 【政教分離】【国教会】
第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1) 【アイルランド】【カソリック】
第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2) 【アイルランド】【北アイルランド問題】
第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
第15回 まとめ【イギリス文化】
期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・ 事後に学習・ 準備すること。

履修上の注意 /Remarks

英米文化概論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor　中野・北

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にアメリカ)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にアメリカ)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化概論Ⅱ	ARE226M

授業の概要　/Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書　/Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会　2012年）を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献リストをガイダンスで配付する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
第2回　英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
第3回　独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
第4回　19世紀アメリカの形成 【合衆国憲法】 【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
第5回　市場革命【西部】 【市場革命】【超絶主義】
第6回　奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
第7回　再建の時代【南部の再建】【憲法修正】【市民権】
第8回　19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ社会【鉄道】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
第9回　第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
第10回　大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
第11回　大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
第12回　第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
第13回　公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
第14回　多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
第15回　これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。
授業前にあらかじめ教科書で予習し、授業後は教科書とノートで復習をおこなうこと。

英米文化概論II 【昼】

キーワード　/Keywords
アメリカ　文化　歴史

東アジア地域秩序論I 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論Ⅰ	ARE315M

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉えなおし、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。
第1回　教科書の紹介、第Ⅰ部第1章　【地域統合】【理論】【制度】
第2回　第Ⅰ部第2章　【東アジア共同体】【ＴＰＰ】【アメリカの関与】
第3回　第Ⅰ部第3章　【ＥＵ事例】【主権】
第4回　第Ⅰ部第4章　【東アジア共同体憲章案】
第5回　第ⅠⅠ部第5章　【ＡＳＥＡＮ】【ヨーロッパ統合】
第6回　第ⅠⅠ部第6章　【北東アジア】【朝鮮半島】
第7回　第ⅠⅠ部第7章　【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連帯】
第8回　第ⅠⅠ部第8章　【バルカン】【地域史】
第9回　第ⅠⅠⅠ部第9章　【地域安全保障】【中国】
第10回　第ⅠⅠⅠ部第10章　【安全保障】【地域秩序】
第11回　第ⅠⅠⅠ部第11章　【欧州共同体】【地域の不安定化】
第12回　第Ⅳ部第13章　【人の移動】【マイノリティ】
第13回　第Ⅴ部第14章　【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
第14回　第Ⅴ部第15章　【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20点）、レポート2本（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業は報告者以外の受講生も予習してくること。授業後の関連文献の自主学習。

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去と現在に関心を持ち、日本と東アジア地域の将来を展望し構想しましょう。

東アジア地域秩序論I 【昼】

キーワード　/Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 /Instructor　金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論II	ARE316M

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、爰らの東アジア地域秩序を考えること。そのため、本講義では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的な視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代—なぜ対立するか–』大阪大学出版会、2011，3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、受講生の報告、補足講義という形式で行う。

第1回　概説と教科書の序章　【アジアからの視点】【文明論的視点】
第2回　第一章の一　【国体論】【国体ナショナリズム】
第3回　第一章の二、三　【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
第4回　第二章の一、二　【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
第5回　第二章の三、四　【ナショナリズムの噴出と相克】
第6回　第三章の一、二　【洋務運動】【戊戌変法】【ナショナリズムの萌芽】
第7回　第三章の三　【辛亥革命】【民族主義】【国粋主義】
第8回　第四章の一　【脱亜】【興亜】【帝国日本】
第9回　第四章の二、三　【戦争】【東亜協同体論】
第10回　第五章の一、二　【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
第11回　第五章の三、四　【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
第12回　第六章の一、二　【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
第13回　第六章の三　【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
第14回　終章　【ナショナリズムの相克】
第15回　まとめ　【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（10%）、2本のレポート（1本45%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、教科書の予習をしてくること。それを前提として授業を進める。関連文献を探し、自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業の予習は必須。

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、それぞれのナショナリズムを相対化すること。そして将来の東アジア国際関係の協調体制と東アジア共同体を構想すること。

キーワード　/Keywords

国際経済論I 【昼】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論Ⅰ	ECN240M

授業の概要　/Course Description

経済のグローバリゼーションが進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

＜本講義の概要＞
１、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
２、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
３、現実には保護主義的政策が多く実施されている理由ついて理解する。

＜本講義の主な到達目標＞
１、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
２、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
３、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第２版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　リカード・モデル（１）【絶対優位】【比較優位】
３回　リカード・モデル（２）【貿易パターン】【相対価格の決定】
４回　リカード・モデル（３）【貿易利益】
５回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（１）【要素賦存】【要素集約度】
６回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（２）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
７回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（３）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
８回　貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
９回　小国の貿易政策（１）【関税】
１０回　小国の貿易政策（２）【輸出補助金】【輸入数量制限】
１１回　小国の貿易政策（３）【有効保護】
１２回　大国の貿易政策（１）【関税】
１３回　大国の貿易政策（２）【最適関税率】【近隣窮乏化】
１４回　大国の貿易政策（３）【輸出補助金】【輸入数量制限】
１５回　まとめ

国際経済論I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常授業への取り組み　20%　　課題提出　20 %　　期末試験　60 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード　/Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、保護貿易

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済	ECN351M

授業の概要　/Course Description

トランプ大統領のアメリカ・ファーストの政策は、経済グローバリズムの流れを経済ナショナリズムへと反転させたかのように見えます。トランプ大統領の経済政策によってアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドは、QE政策からの出口戦略を確実に進めつつあります。このことはアメリカ経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書　/Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

若林栄四『アメリカ経済の終焉 - 破裂する資産バブルと政治の堕落』集英社、2018年10月。

倉石灯・中野博『なぜ、トヨタはテキサスに拠点を移したのか？アメリカ経済の未来を左右する「テキサス州」の戦略』日本実業出版社、2018年12月。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　アメリカの産業と所得
2　アメリカの所得分配と社会保障
3　アメリカ家計の消費と貯蓄
4　アメリカの社会階層と失業
5　アメリカ企業と収益
6　アメリカ企業と投資
7　アメリカ政府と税制
8　アメリカの政府支出と財政
9　アメリカの通貨制度
10　アメリカの金融システム
11　アメリカ経済と金利
12　アメリカの国際収支
13　アメリカ経済と為替レート
14　アメリカ経済と物価
15　アメリカの経済成長と景気

アメリカ経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100％

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。
試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んできてください。
事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意　/Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード　/Keywords

World Largest Economy　消費大国　サービス経済化　Fed　経常収支赤字　所得格差　投資銀行　ファンド　住宅投資　基軸通貨

東南アジアの社会と歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの社会と歴史に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの社会と歴史	ARE215M

授業の概要　/Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

教科書　/Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容（1～11世紀）
3回　王国の発展と新たな外来文明（イスラム教・仏教）の受容（11～15世紀）
4回　交易の時代（15～18世紀）
5回　東南アジアの植民地化（19～20世紀）
6回　植民地期の社会変容（19～20世紀）
7回　日本軍政と脱植民地化（20世紀後半～21世紀）
8回　開発の時代と権威主義体制（20世紀後半～）
9回　開発と社会是正：信仰への回帰（1970年代～）
10回　信仰と暴力とが結びつけられる時（1）事例紹介・分析
11回　信仰と暴力とが結びつけられる時（2）分析・解説
12回　多民族社会の現在
13回　多民族社会における共存の模索（1）導入・事例紹介
14回　多民族社会における共存の模索（2）事例紹介・分析
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（2回）…30%　課題（2回）...10%　期末テスト…60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業後は復習をしてください。

東南アジアの社会と歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東南アジアの政治と外交 【昼】

担当者名 /Instructor　篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交	ARE216M

授業の概要　/Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書　/Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN–シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
○山影進『ASEANパワー–アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
○山影進『転換期のASEAN–– 新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
○黒柳米司『ASEAN35年の軌跡––'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
○黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦–– 「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
○山影進『新しいASEAN–地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション
2回　東南アジアにおける国民国家の成立
3回　東南アジアにおける地域協力という発想の登場
4回　東南アジア連合（ASA）の成立と地域紛争
5回　地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド（Maphilindo）
6回　東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
7回　ASEANの始動と変容
8回　インドシナ紛争とASEAN諸国（1）「難民」への対応
9回　インドシナ紛争とASEAN諸国（2）カンボジア内戦への関与
10回　ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
11回　ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
12回　ASEANのAPECへの参画
13回　ASEAN地域フォーラム（ARF）、ASEAN+3、東アジア首脳会議（EAS）
14回　ASEANの展望
15回　まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（3回）…45%　期末テスト…55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意　/Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．現代社会における教職の意義について
３．教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
４．今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
５．教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
６．教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
７．生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
８．現代社会における学校教育の課題　その１　セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
９．現代社会における学校教育の課題　その２　部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題　その３　「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携　その１「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携　その２　被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師　本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、レポート試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教職論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1 」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：教育とは何か
2回　教育の関係　：教育のモデル・家族・学校
3回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
5回　教育思想①　：諸外国の教育思想
6回　教育思想②：日本の教育思想
7回　教育史①：西洋の教育史
8回　教育史②：日本の教育史
9回　学ぶ意欲と教育指導
10回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回　学校教育の課題：学校で生じる問題
12回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
13回　国際化と教育：言語・文化
14回　仕事と教育：進路形成
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題 (試験)　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
2回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
3回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
4回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
5回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
6回 教科書に関する制度
7回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
8回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
9回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
10回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
11回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
12回 学校関係者による協力支援の制度
13回 地域社会の変容と学校
14回 教育制度改革の動向
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 教育課程編成の基本原理
第2回 日本の教育課程の変遷
第3回 学習指導要領と教育課程編成
第4回 学力と教育課程
第5回 学校における教育課程編成
第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第7回 教育課程の評価
第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム（1）東アジアを中心に
第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム（2）英語文化圏を中心に
第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム（3）欧州を中心に
第11回 教育課程の開発
第12回 今日的課題と教育課程（1）アクティブラーニング
第13回 今日的課題と教育課程（2）国際移動と教育
第14回 今日的課題と教育課程（3）ESD
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法Ｃ 【昼】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本講義では、まず中国の言語・文化・社会に対する基本的事項を確認した上で、主に中国語学習の動機付け、入門・初級における発音、ピンイン表記、音読指導、シャドウイング指導について検討する。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲持続に大きく影響する。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学の習得を左右する。そのため、まず学習者をいかにして楽しく積極的な学習に導くかについて考え、その後に発音指導、音読、シャドウイング指導をどのような順序でどのように行うかについて考える。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・ 輿水優『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』(冨山房インターナショナル、2005)
・ 胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語」へ』(東方書店、 2009)
・ 文部科学省『中学校学習指導要領　第9節　外国語』
・ 文部科学省『高等学校学習指導要領　第8節　外国語』

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　中国の言語・文化・社会について
３回　学習指導要領について
４回　中国語学習の動機付け (１) - 理論
５回　中国語学習の動機付け (２) - 実践
６回　ピンインに関する概説と問題点
７回　声調、基本母音、複母音に関する問題点とその指導
８回　子音に関する問題点とその指導
９回　軽声・ア - ル化に関する問題点とその指導
１０回　学習指導案について
１１回　ピンヒンの指導方法及び実践
１２回　情報機器 (ICT) による発音指導及び実践
１３回　音読の効用とその指導
１４回　シャドウイングの効用とその指導
１５回　まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み (小テストを含む)…50%、期末レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

キーワード　/Keywords

中国語教育、動機づけ、発音指導、音読指導、シャドウイング指導

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　　戦後から「改正教育基本法」まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

キーワード　/Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義し、そのなかで相互の関心を交わし、よりよい教育に関する理解を深めることを目的とする。また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣)　2019　田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業：ICTについて考える
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１・学習指導案
第１２回：授業の研究２・授業記録を読む
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 -「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
　一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
　楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　ー　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

教育心理学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。

第２回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。

第３回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。

第４回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。

第５回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。

第６回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。

第７回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。

第８回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。

第９回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。

第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。

第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。

第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達的変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。

第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。

第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。

第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

講義でのミニレポート・・・３０％
最終試験・・・７０％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード　/Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
履修年次　2年次 /Year	単位　2単位 /Credits
学期　2学期 /Semester	授業形態　講義 /Class Format
クラス　２年 /Class	

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：障害児の心理と指導について
第２回　障害の概念とノーマライゼーション
第３回　人々の障害者観：障害をどう捉えるか
第４回　障害の重積・深化の過程と発達援助
第５回　視覚障害について
第６回　聴覚障害について
第７回　姿勢・運動の障害について
第８回　知的障害について
第９回　障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
第10回　自閉スペクトラム症について
第11回　注意欠如多動症について
第12回　限局性学習症について
第13回　家族支援について
第14回　障害児・者への地域支援の在り方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくること。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育社会学 【昼】

担当者名 /Instructor　作田　誠一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。
・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹，2010，『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著，2012，『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育社会学の対象と方法
第３回：子どもの社会化と家族・学校
第４回：学校という組織
第５回：学校社会と生徒文化
第６回：学校社会と教師文化
第７回：文化的再生産論にみる学校社会
第８回：少年非行と逸脱理論（１）–アノミー論と文化的接触理論
第９回：少年非行と逸脱理論（２）–コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会化　近代教育制度　学校文化　文化的再生産　教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor　河嶋　静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。
①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書　/Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重　【世界人権宣言】
２回　学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、ＳＮＳ・インターネットによる人権侵害
３回　学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
４回　人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、（実践例など）
５回　部落差別と人権　【部落差別解消推進法】
６回　子どもの人権　【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
７回　障がい児・者の人権　【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
８回　「性の多様性」と人権　【SOGI】【性自認】【性的指向】
９回　外国人の人権　【ヘイトスピーチ解消法】
１０回　男性と女性の人権　【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
１１回　高齢者の人権　【高齢者虐待防止法】
１２回　ホームレスの人々の人権　【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
１３回　「私の人権教育のプログラム」(発表)
１４回　「私の人権教育のプログラム」(発表)
１５回　「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」（60%）、授業への参加度（10%）、課題（30%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生涯学習学 【昼】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
○　雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
○雑誌『月刊　公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　生涯学習・社会教育の意義
第 2回　生涯学習ボランティア　–学習への支援と学習成果の活用–
第 3回　社会教育の内容・方法・形態–学級・講座の企画
第 4回　成人教育の国際的動向　–日本の特質と学習権–
第 5回　社会教育と生涯学習関連の法制度
第 6回　社会教育の歴史と発展–生涯学習関連施策の動向
第 7回　社会教育行政と事業　–学習相談、サービス、学習情報の提供
第 8回　社会教育施設　–地域公民館
第 9回　公民館の実践　ー社会教育と地域づくり
第10回　社会教育指導者と事業の連携・発展
第11回　社会教育施設–博物館
第12回　社会教育施設と生涯学習施設
第13回　社会教育施設–図書館
第14回　図書館、博物館における学習・グループ活動
第15回　住民の力量形成と地域づくり　–家庭教育・学校教育・社会教育の連携–

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート…７０％　　課題レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯学習学 【昼】

キーワード　/Keywords

歴史と政治 【夜】

担当者名 /Instructor	小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』(中央公論新社)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
第３回　明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
第４回　日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
第５回　立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
第６回　日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
第７回　憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
第８回　大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21ヵ条要求】
第９回　政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
第10回　二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
第11回　軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
第12回　2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
第13回　日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
第14回　太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み…10%　期末試験…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード　/Keywords

異文化理解の基礎 【夜】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要　/Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではぐくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書　/Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
○奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
○田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
○波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部　文化の基礎としての家族
第2回　伝統的家族の多様性
第3回　近代以降の家族・親族関係の変容
第4回　親族という認識
第5回　親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回　ジェンダーと伝統文化
第7回　文化相対主義の考え方
第8回　伝統文化について：構築主義と本質主義
第9回　中間テスト

第II部　文化と世界観
第10回　儀礼と世界観
第11回　宗教と近代化
第12回　さまざまな信仰心
第13回　不幸への対処としての呪術
第14回　政教分離と世俗化
第15回　中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト＋課題など 40%、 期末テスト 60%　を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・Moodleで適宜身に課題を出します。締め切りまでに提出してください。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
・中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
・講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たにわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことについて、もっと根本に戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード　/Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ことばの不思議
第2回　ことばの要素
第3回　ことばの習得
第4回　普遍文法と個別文法
第5回　ことばの単位(1)：音韻
第6回　連濁
第7回　鼻濁音
第8回　ことばの単位(2)：語
第9回　語の基本：なりたち・構造・意味
第10回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第11回　ことばの単位(3)：文
第12回　動詞の自他
第13回　日本語と英語の受動態
第14回　数量詞
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度…10%　課題…30%　期末試験…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【夜】

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【夜】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

国際学入門 【夜】

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【夜】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法―哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回	近代とは何か【概説】
2回	近代の勃興【ガリレイと科学革命】
3回	生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
4回	生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
5回	生活世界の変容（1）【工場労働】
6回	生活世界の変容（2）【近代産業社会】
7回	確認テスト
8回	生活世界の変容（3）【戦争の美学】
9回	生活世界の変容（4）【政治の美学】
10回	生活世界の変容（5）【ホロコースト】
11回	生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
12回	生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
13回	古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
14回	古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
15回	古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【夜】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障(1)
　　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障(2)
　　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障(3)
　　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

併せて特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード　/Keywords

生命と環境 【夜】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス（日高・中尾）	
２回	自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）	【物質の単位】【自然科学】
３回	自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）	【元素】【原子】【超新星爆発】
４回	自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）	【DNA】【タンパク質】
５回	生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）	【種】【学名】【系統樹】
６回	生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）	【細胞膜】【共生説】
７回	生物の多様性（３）生態系と進化（日高）	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回	遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）	【突然変異】【遺伝学】
９回	遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）	【有性生殖】【減数分裂】
１０回	遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）	
１１回	科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）	【血液型】【星座】
１２回	科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）	【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回	科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）	【ミトコンドリア】
１４回	関連ビデオ鑑賞（日高）	
１５回	質疑応答とまとめ（日高）	

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【夜】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また，この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は，国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち，「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて，これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウェア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に随時提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分，復習60分）。その他，ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、夜間授業のため少人数授業となる可能性が高い。そのため、一方的な講義型の授業形態ではなく、双方向の対話型授業にて実施する。授業中に発言を求める機会が多く存在することを理解して臨んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

現代人のこころ 【夜】

担当者名 /Instructor　福田　恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと，通常は，笑ったり，悲しんだり，怒ったりといったことを引き起こしているものと思い浮かべがちです。「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと，これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら，目の網膜に映ったリンゴを目の中ではなく外にあるものと判断しているからです。さらに，リンゴは真っ赤で，噛むと口中に果汁が染みわたり，美味しそうだと思うこと，これも「こころ」の一部です。心理学の研究者は，さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。その上で，「こころ」の問題で苦手さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では，さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書　/Textbooks

印刷物は配布しません。学習支援フォルダにアップしますので，講義前にダウンロードしておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1.心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
2.知覚１：目の前に見えることも「こころ」の一部である
3.知覚２：色はなぜ見える？
4.知覚３：形はなぜ見える？
5.知覚４：どうやって奥行きや動きを判断している？
6.目の動きから「こころ」を探る。
7.まばたきから「こころ」を探る。
8.注意１：どうしてわれわれは騒がしい中でも会話ができるのか？
9.注意２：意外と見落としやすい注意の機能
10.記憶１：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
11.記憶２：昔の記憶は忘れることはない
12.発達１：「こころ」はどのようにして芽生えてくる？
13.発達２：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
14.発達３：発達の問題に苦手さを抱えるのはなぜ？
15.まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中のコメント：25点　　レポート：25点　　期末試験：50点

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示します。

現代人のこころ 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業中に近くの人と話し合ったり，近くの人同士で観察し合ったり，ということを行います。
授業中にコメント（認識を新たにした点，疑問点，コメント）を書いてもらいます。
指定した図書についての要約をレポートとして提出してもらいます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード　/Keywords

心理学，色知覚，奥行き知覚，形の知覚，眼球運動，瞳孔運動，まばたき，選択的注意，注意の見落とし，ワーキングメモリ，長期記憶，微笑，指さし，共同注意，心の理論，発達障害

思想と現代 【夜】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に着けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
○合田正人『入門　ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　ユダヤ人の原点【概説】
３回　ユダヤ人の歴史（１）【民族の起源】
４回　ユダヤ人の歴史（２）【古代から中世へ】
５回　ユダヤ人の歴史（３）【中世から近代へ】
６回　ユダヤ人の歴史（４）【近代から現代へ】
７回　補足回【紛争と現代】
８回　精神分析の思想（１）【概説】
９回　精神分析の思想（２）【一神教の精神】
１０回　文学の思想【カフカ】
１１回　音楽の思想【シェーンベルク】
１２回　心理療法の思想【フランクル】
１３回　倫理の思想【ヨナス】
１４回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
１５回　映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【夜】

履修上の注意　/Remarks

昼間に実施される同名授業 (「思想と現代」) とは評価法がまったく異なるので、登録の際に混同しないよう注意すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民主主義とは何か 【夜】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず，社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では，理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で，どのような状況においてその決定の品質が保たれたり，そもそも政治的安定性を維持できるのか，様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は，理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また，民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ，我々は多様な人々の間において適切な集合的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書　/Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○マクファーソン，C.B.（田口訳 1978）『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
待鳥聡史（2015）『代議制民主主義–「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
○坂井豊貴（2015）『多数決を疑う–社会的選択理論とは何か』岩波新書
シュンペーター，J（大野訳 2016）『資本主義，社会主義，民主主義』日経BP
○ダール，R.（高畠・前田訳）『ポリアーキー』岩波文庫
○杉田敦（2001）『デモクラシーの論じ方–論争の政治』筑摩書房
○久保慶一，末近浩太，高橋百合子（2016）『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1．イントロダクション
2．基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3．近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4．民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5．実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6．デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7．民主制の多様性とその生存・品質１：制度【議会制】【大統領制】
8．民主制の多様性とその生存・品質２：選挙【SMD】【PR】
9．民主制の多様性とその生存・品質３：運用【ｳｴｽﾄﾐﾝｽﾀｰ型】【ｺﾝｾﾝｻｽ型】
10．民主制の多様性のその生存・品質４：社会【ｺﾝｿｼｴｰｼｮﾅﾙﾃﾞﾓｸﾗｼｰ】【民族問題】
11．公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12．民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13．権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14．権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15．民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また，各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので，それらについては事前予習してくること。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また，本シラバスをご覧になった学生諸君は，本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それらがない人を想定して授業を行います）。ただし，高校卒業程度の英語・世界史，中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので，各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会調査 【夜】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、
（１）意味のある「問い」をたてること
（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること
（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること
（４）データを統計的に処理すること
（５）データを解釈すること
について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、￥2592
入門・社会調査法〔第3版〕: 2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、￥2700
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、￥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　はじめに
第２回　社会調査の種類と倫理
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング１【質問文を作る】
第６回　ワーディング２【選択肢を作る】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方と方法
第９回　実査とデータファイルの作成
第１０回　度数分布、代表値、分散と標準偏差
第１１回　検定の考え方
第１２回　平均値の差の検定
第１３回　変数間の関連１【クロス表】
第１４回　変数間の関連２【相関係数】
まとめ

社会調査 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…３０％　　日常の授業への取り組み…１０％　　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【夜】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
第3回「株式会社」の仕組み①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第4回「株式会社」の仕組み②　【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
第5回社会における「大企業」の意味①　【大企業とは何か】【所有と支配】
第6回社会における「大企業」の意味②　【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
第7回社会における「大企業」の意味③　【官僚制】【科学的管理の展開】
第8回社会における「大企業」の意味④　【環境問題】【随伴的結果】
第9回社会における「大企業」の意味⑤　【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
第10回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第11回「家」としての日本企業②　日本企業特有の組織原理【階統制】【能力主義】【企業別組合】
第12回「家」としての日本企業③　日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第13回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第14回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 70%　　レポート・・・ 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【夜】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス　株式会社　大企業　家の論理　社会的器官

現代の国際情勢 【夜】

担当者名 /Instructor	下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金　鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科 大平　剛 / 国際関係学科, 白石　麻保 / 中国学科 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田　真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　下野　日中台関係：ボーダーエリア
第3回　下野　日中台関係：国家の枠組みと社会
第4回　ウェイン　The RIe of Public Spaces in Cities
第5回　大平　変容するアジア情勢（１）中国とインドの台頭
第6回　大平　変容するアジア情勢（２）日本の防衛力強化
第7回　大平　変容するアジア情勢（３）開発協力における熾烈な争い
第8回　金　日本の「戦後」の終わり
第9回　金　日本の対外関係の諸問題
第10回　金　戦後の国体、永続敗戦
第11回　白石　中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
第12回　寺田　インターネットを巡る国際情勢
第13回　松田　日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
第14回　下野　台湾：歴史
第15回　下野　台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（7~14回）100%　※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

現代の国際情勢 【夜】

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【夜】

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回	「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第２回	民主化問題を考える視座（１）	【民主化問題】	担当：伊野
第３回	民主化問題を考える視座（２）		担当：伊野
第４回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって	【ミャンマー】	担当：伊野
第５回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第６回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第７回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第８回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第９回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【こども食堂】	担当：原田・三宅
第11回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回	グループワーク（アクティビティ作り）を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ（グループ・ディスカッション）		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30% 小課題の提出…20 % 試験…50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治 【夜】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　フードバンク　貧困　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

国際紛争と国連 【夜】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

国際紛争と国連	IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書　財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　コースガイダンス
第2回　国連情報へのアクセス方法　【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
第3回　国連を知る①【国連　1945-1970's】【国連の目的】【国連の組織構造】
第4回　国連を知る②【国連　1980's-】【冷戦後の国連】
第5回　紛争を知る　【難民】【発生国】【受入国】
第6回　国際紛争を見る分析軸　【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
第7回　国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム　【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
第8回　国連による平和の創出②：平和創造　【事務総長による周旋】【The Team】
第9回　国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開　【6章半の活動】【PKO原則】
第10回　国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化　【多機能化】【キャップストーン報告】
第11回　国連による平和の強制①：決定プロセス　【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
第12回　国連による平和の強制②：実施上の課題　【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
第13回　国連による持続的平和の定着　【平和構築】【平和構築委員会】
第14回　国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国　【財政的貢献】【人的貢献】
第15回　まとめ

国際紛争と国連 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
　　課題等への対応…30%　学期末試験…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

３つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際紛争】　【国連】　【平和創出】　【平和維持】　【平和強制】　【平和構築】

メンタル・ヘルスI 【夜】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは，病気や不適応事例の発生予防だけでなく，もっと幅広く，多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあっては，メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ，ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下，生活上の事故やミス，無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントのカを身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）にも触れる。

教科書　/Textbooks

テキスト　「こころと人生」中島俊介　編著　　ナカニシヤ出版　2017

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「森田療法」　岩井　寛　著　講談社現代新書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール
第1回　メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
第2回　心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
第3回　胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
第4回　幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
第5回　思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
第6回　青年期……同一性（アイデンティティ）の心理……青年期のこころの病
第７回　若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
第8回　ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
第9回　発達障害についての理解１…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
第10回　発達障害についての理解２…実際の対応の仕方、留意点
第11回　成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
第12回　老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
第13回　平和と暴力１……社会的健康を阻害する暴力
第14回　平和と暴力２……人権と対話の文化を
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義・演習	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　（講義）運動と身体の健康
3回　（実習）仲間づくりを意図したウォーミングアップ
4回　（実習）運動強度測定
5回　（講義）運動の効果（精神的側面）
6回　（実習）ウエイトトレーニングのやり方
7回　（実習）体脂肪を減らすトレーニング
8回　（講義）運動の効果（身体的側面）
9回　（実習）レクリエーションスポーツ①（車椅子ソフトボール）
10回　（実習）レクリエーションスポーツ②（ペタンク）
11回　（実習）レクリエーションスポーツ③（キンボール）
12回　（実習）レクリエーションスポーツ④（アルティメット）
13回　（講義）運動の効果（社会的側面）
14回　これからのスポーツ
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　70％　　レポート …　30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・ヘルスI 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム (リーグ戦)
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

データ処理 【夜】

担当者名 /Instructor　佐藤　貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

阿部香織「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社、2016年、1200円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】 【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

データ処理 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．現代社会における教職の意義について
３．教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
４．今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
５．教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
６．教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
７．生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
８．現代社会における学校教育の課題　その１　セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
９．現代社会における学校教育の課題　その２　部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題　その３　「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携　その１「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携　その２　被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師　本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、レポート試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教職論 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1 」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション：教育とは何か
2回 教育の関係 ：教育のモデル・家族・学校
3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
5回 教育思想① ：諸外国の教育思想
6回 教育思想②：日本の教育思想
7回 教育史①：西洋の教育史
8回 教育史②：日本の教育史
9回 学ぶ意欲と教育指導
10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
13回 国際化と教育：言語・文化
14回 仕事と教育：進路形成
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【夜】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
2回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
3回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
4回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
5回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
6回 教科書に関する制度
7回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
8回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
9回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
10回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
11回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
12回 学校関係者による協力支援の制度
13回 地域社会の変容と学校
14回 教育制度改革の動向
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 教育課程編成の基本原理
第2回 日本の教育課程の変遷
第3回 学習指導要領と教育課程編成
第4回 学力と教育課程
第5回 学校における教育課程編成
第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第7回 教育課程の評価
第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム（1）東アジアを中心に
第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム（2）英語文化圏を中心に
第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム（3）欧州を中心に
第11回 教育課程の開発
第12回 今日的課題と教育課程（1）アクティブラーニング
第13回 今日的課題と教育課程（2）国際移動と教育
第14回 今日的課題と教育課程（3）ESD
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor　胡　玉華 / 中国学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本講義では、中国語によるコミュニケーション能力を高めるための初級レベルの文法指導及び教室活動のあり方、評価のしかたについて検討する。真のコミュニケーション能力を高めるためにどのように文法事項を学習者に提示し、どのような教室活動を行うかについて模擬授業も交えながら受講生と共に考える。最後にどのように言語能力の評価のしかたについて考える。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・ 輿水優『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』(冨山房インターナショナル、2005)
・ 胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語」へ』(東方書店、 2009)
・ 文部科学省『中学校学習指導要領　第9節　外国語』
・ 文部科学省『高等学校学習指導要領　第8節　外国語』

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　中国語の基本文型
３回　初級教育で扱う語彙と文法事項の選定
４回　学習目標と年間授業計画表について
５回　文法指導法 (１) - “有”を中心に
６回　文法指導法 (２) - 能願動詞を中心に
７回　文法指導法 (３) - “了”を中心に
８回　文法指導法 (４) - 比較構文を中心に
９回　模擬授業 (発音・語彙及び文法の指導を中心に)
１０回　スピーキング能力の指導及び評価
１１回　リスニング能力の指導及び評価
１２回　ライティング能力の指導及び評価
１３回　リーディング能力の指導及び評価
１４回　模擬授業 (コミュニケーション能力の向上を中心に)
１５回　まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み (小テストを含む)…50%、期末レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

キーワード　/Keywords

中国語教育、文法指導、コミュニケーション指導、教室活動

道徳教育指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　　戦後から「改正教育基本法」まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード　/Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
　そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣)　2019　田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１・学習指導案
第１２回：授業の研究２・授業記録を読む
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
①　生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

②　教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③　養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④　実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤　思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。　また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

文部科学省編　「生徒指導提要」　教育図書
楠凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第I部

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

桑原憲一編　　中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド　　明治図書
嶋崎政男　「法規＋教育で考える　生徒指導ケース１００」　　ぎょうせい
○文部科学省　　中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎　　権利としてのキャリア教育　　明石書店
○キャリア発達論　-　青年期のキャリア形成と進路指導の展開　　ナカニシヤ出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション ＋　課題レポートの説明
２回　生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回　教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他）　その１　-　教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回　教育課程と生徒指導　その２　学級活動・学校行事と生徒指導
５回　生徒指導に関する法制度等（第７章他）　その１
６回　生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回　思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回　中学校の進路指導実践 -「ようこそ先輩」の取組み
９回　今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回　進路相談のロールプレイ実習
11回　ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回　性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その１　少年期
14回　被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助　その２　思春期
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
　一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
　楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　ー　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
　　教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
６回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
７回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
８回 特別活動の模擬授業 その１
９回 特別活動の模擬授業 その２
10回 教科の模擬授業 その１
11回 教科の模擬授業 その２
12回 学級づくりと学級経営案
13回 教育相談のロールプレイ
14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords
模擬授業、実践的指導力

教育実習２ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)	
３回	高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)	
４回	教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)	
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに､学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習に向けての諸注意 (外部講師の講演)	
３回	高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)	
４回	教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)	
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』､実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修 (教育実習の時間数の単位換算のため) 。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習（中・高）【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の４つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、III類の４　に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
２回　教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
３回　生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
４回　教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
５回　地域・保護者との連携に関するグループワーク
６回　教科の模擬授業　その１　中学校の模擬授業とグループワーク
７回　教科の模擬授業　その２　高等学校の模擬授業とグループワーク
８回　教科の模擬授業　その３　３つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
９回　教科の模擬授業　その４　３つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
10回　学級経営案の報告と検討
11回　生徒指導に関するケーススタディ（グループ討論）
12回　保護者理解に関するグループワーク
13回　学校現場でのフィールドワークの報告　その１（教科教育を中心に）
14回　学校現場でのフィールドワークの報告　その２(教科外教育、生徒指導を中心に)
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物（教育実践演習ワークシート、学級経営案）　２０％　平常点３０％　期末レポート　５０％　で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習（中・高）【夜】

キーワード　/Keywords
教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

教育心理学 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。

第２回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。

第３回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。

第４回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。

第５回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。

第６回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。

第７回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。

第８回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。

第９回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。

第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。

第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。

第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達的変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。

第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。

第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。

第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

講義でのミニレポート・・・３０％
最終試験・・・７０％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
（事前・事後学習として週４時間以上行うこと。）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード　/Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育工学 【夜】

担当者名 /Instructor　大塚　一徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要　/Course Description

本講義は，教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術，教材と教具，指導方法等を学び，授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術）の進展を踏まえ，PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに，模擬授業の実施及び評価等を通して，教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し，各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500 円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１．　オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
２．　授業と教育方法　【教育方法】
３．　授業と教育技術　【教育技術】
４．　授業のシステム化の方法と授業設計の手順　【授業設計】
５．　授業過程の分析と改善　【授業過程】
６．　授業実施の技術　【授業技術】
７．　授業の評価　【授業評価】
８．　教育における情報化社会の影響【情報化社会】
９．　教育におけるICT（情報通信技術）の活用【ICT】
１０．学習指導案の作成　【学習指導案】
１１．教材研究　【教育メディアとその活用】
１２．模擬授業　【模擬授業】
１３．テストと学習内容の評価　【テスト】
１４．授業実践能力の改善と向上　【教育の方法と技術の実践能力】
１５．現代の教育課題と講義のまとめ　【現代の教育課題】

成績評価の方法　/Assessment Method

教材研究課題（２０％），模擬授業（３０％），試験（５０％）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学種としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意　/Remarks

教材研究，模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords